

東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）

～東京都レッドリスト～

2010年版

東京都環境局

まえがき

本書は、平成 10 年に作成した「東京都の保護上重要な野生生物種（1998 年版）」のうち、本土部について、平成 20 年度から平成 21 年度まで 2 ヶ年をかけて改定作業を実施した結果をとりまとめたものです。

本書の改定は、刻々と変化する自然環境の現況を把握することで、開発規制等に適切に対応をすることを主な目的としたものです。

東京都が自然環境行政を推進していくための基礎的資料となることはもちろん、都民や企業など多くの主体が自然環境の保全活動を実施するために活用していただきたいと考えています。

本書をまとめるにあたり、限られた時間のなか、情報収集作業と検討作業を行っていた各専門部会委員の先生方、情報提供などにご協力いただいた専門家、都民の方をはじめとする多くの方々や専門機関に、心より感謝を申し上げます。

平成 22（2010）年 3 月

東京都環境局

目 次

まえがき

I 選定・評価方法	1
1. 調査の体制	1
(1) 「東京都の保護上重要な野生生物の種に関する検討会（本土部）」の設置	
(2) 「専門部会」の設置	
2. 対象分類群と対象とする生物の範囲	3
3. 対象地域と地域区分	3
4. 調査方法	5
(1) 文献調査及びヒアリング調査	
(2) 現地調査	
5. 選定及び評価の手順	5
6. 評価の基準	5
II 選定・評価結果の概要	12
III 自然環境の概要	18
IV 保護上重要な野生生物種	21
1. 植物	21
2. 哺乳類	41
3. 鳥類	45
4. 爬虫類	52
5. 両生類	55
6. 淡水魚類	58
7. 昆虫類	62
(1) トンボ目	63
(2) カマキリ目・バッタ目	67
(3) カメムシ目	71
(4) ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目	74
(5) コウチュウ目	78
(6) ハチ目	85
(7) ハエ目	87
(8) チョウ目チョウ類	91
(9) チョウ目ガ類	94
8. 甲殻類	97
9. クモ類	101
10. 貝類	104
和名索引（植物）	108
和名索引（動物）	115

I 選定・評価方法

本書は、「東京都の保護上重要な野生生物種 1998年版」(以下、1998年版という)の改定版であるが、選定・評価方法については1998年版からいくつか改正を行った。

まず、評価の基準については、1998年版では環境庁版レッドデータブック(当時)を参考にしながらも、カテゴリーは独自にA~Dランクとして設定していたが、改定版では最新の環境省レッドリストカテゴリー(2007)に準拠し、可能な限り定量的な要件も取り入れて評価を行った。また、評価対象とする分類群についても、1998年版で対象としていた分類群に加えて、甲殻類、クモ類、貝類を新たに対象とした。

なお、今回の改定では東京都の本土部と島しょ部(伊豆諸島、小笠原諸島)を別々に検討しており、本書は本土部の改定版である。

1. 調査の体制

(1)「東京都の保護上重要な野生生物の種に関する検討会(本土部)」の設置

調査実施にあたり、情報収集、選択、調査計画の作成、調査遂行上の課題と対応策の検討、調査成果の確認、選定基準の検討、掲載種の選定などを行うため、検討会を設置した。

検討会の委員構成は、次の通りである。

座長	大場秀章	東京大学名誉教授
委員	石井信夫	東京女子大学教授
	金井 裕	財団法人日本野鳥の会 東京港野鳥公園チーフレンジャー
	福山欣司	慶応義塾大学准教授
	矢島 稔	群馬県立ぐんま昆虫の森園長
	武田正倫	帝京平成大学教授 ((独)国立科学博物館名誉研究員)

(2)「専門部会」の設置

上記検討会の下に、専門分野における情報収集、選択、調査計画の作成、調査遂行上の課題と対応策の検討、調査成果の確認、選定基準の検討、掲載種の選定などを行う専門部会を設置した。

専門部会は、「植物」、「哺乳類」、「鳥類」、「爬虫類・両生類・淡水魚類」、「昆虫類」、「その他無脊椎動物」の6部会を設置し、「その他無脊椎動物」では、甲殻類、クモ類、貝類を対象とした。

各専門部会の委員構成と担当分類群は次の通りである。

<植物部会>

座長 大場秀章 東京大学名誉教授
委員 畔上能力 (社)日本植物友の会理事
奥田重俊 横浜国立大学名誉教授
池田 博 東京大学総合研究博物館准教授
加藤英寿 首都大学東京理学研究科牧野標本館助教

<哺乳類部会>

座長 石井信夫 東京女子大学教授
委員 土屋公幸 東京農業大学客員教授
安藤元一 東京農業大学教授

<鳥類部会>

座長 金井 裕 財団法人日本野鳥の会 東京港野鳥公園チーフレンジャー
委員 川内 博 日本野鳥の会東京支部幹事
粕谷和夫 八王子・日野カワセミ会会長

<爬虫類・両生類・淡水魚類部会>

座長 福山欣司 慶応義塾大学准教授 (両生類)
委員 草野 保 首都大学東京理学研究科助教 (両生類)
長坂拓也 江戸川区自然動物園 (爬虫類)
丸山 隆 東京海洋大学助教 (淡水魚類)
山崎充哲 川崎河川漁業協同組合総代 (淡水魚類)

<昆虫類部会>

座長 矢島 稔 群馬県立ぐんま昆虫の森園長
委員 高桑正敏 神奈川県立生命の星・地球博物館
福田晴男 八王子市教育センター研究主事
岸田泰則 日本蛾類学会会長
須田真一 東京大学大学院特任研究員

<その他無脊椎動物部会>

座長 武田正倫 帝京平成大学教授 ((独)国立科学博物館名誉研究員) (甲殻類)
委員 小野展嗣 (独)国立科学博物館研究主幹 (クモ類)
黒住耐二 千葉県立中央博物館上席研究員 (貝類)

また、掲載種（亜種・変種を含む。以下同じ）の選定及び評価は、基本的にそれぞれの専門部会の委員が行ったが、昆虫類については委員の他にも、次の3名の協力者に選定・評価作業を担当していただいた。

岸本年郎	(財)自然環境研究センター上席研究員	コウチュウ目ハネカクシ科担当
高橋秀男	日本昆虫学会会員	ハチ目担当
伊東憲正	(株)地域環境計画	ハエ目担当

なお、各種調査のとりまとめ等については、(財)自然環境研究センターが東京都から業務を受託して実施した。

2. 対象分類群と対象とする生物の範囲

1998年版で対象としていた植物（維管束植物）、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類のほかに、甲殻類、クモ類、貝類を新たに追加した。また、昆虫類については、1998年版で対象としていなかったカマキリ目、ヘビトンボ目、アミメカゲロウ目、ハチ目、ハエ目を追加対象としたほか、チョウ目ではチョウ類だけでなくガ類も対象とするなど、前回対象としていた目についてもさらに幅広いグループを含めた。また、原則として、植物では種・亜種・変種を、動物では種・亜種を評価の対象とした。

なお、これらの分類群において生息が確認されている種であっても、東京都の本土部が本来の生息域ではない外来種（国内外来種含む）や、迷鳥^{*1}及び偶産種^{*2}等については評価対象外とした。

各分類群における調査対象の詳細については、それぞれの分類群ごとの総説に記述されているので、これを参照されたい。

^{*1} 台風やその他偶然の機会により、本来の分布域や渡りのコースを外れて現れた鳥。

^{*2} その地域では定着していないと判断される種。台風や季節風などによって偶発的に飛来する種などが該当する。

3. 対象地域と地域区分

東京都に属する地域のうち、島しょ部を除いた本土部を対象とした。また、本土部は地域によって環境が大きく異なることから、区部、北多摩、南多摩、西多摩の4地域に区分し、それぞれの地域区分ごとに評価を行った。さらに、昆虫類、甲殻類、クモ類、貝類については、4つの地域区分ごとの評価のほかに、これら4地域を総合的にとらえた本土部全体としての評価も行った。

東京都の地域区分図及び地形概略図は、それぞれ図1(P.4)、図2(P.20)に示した。

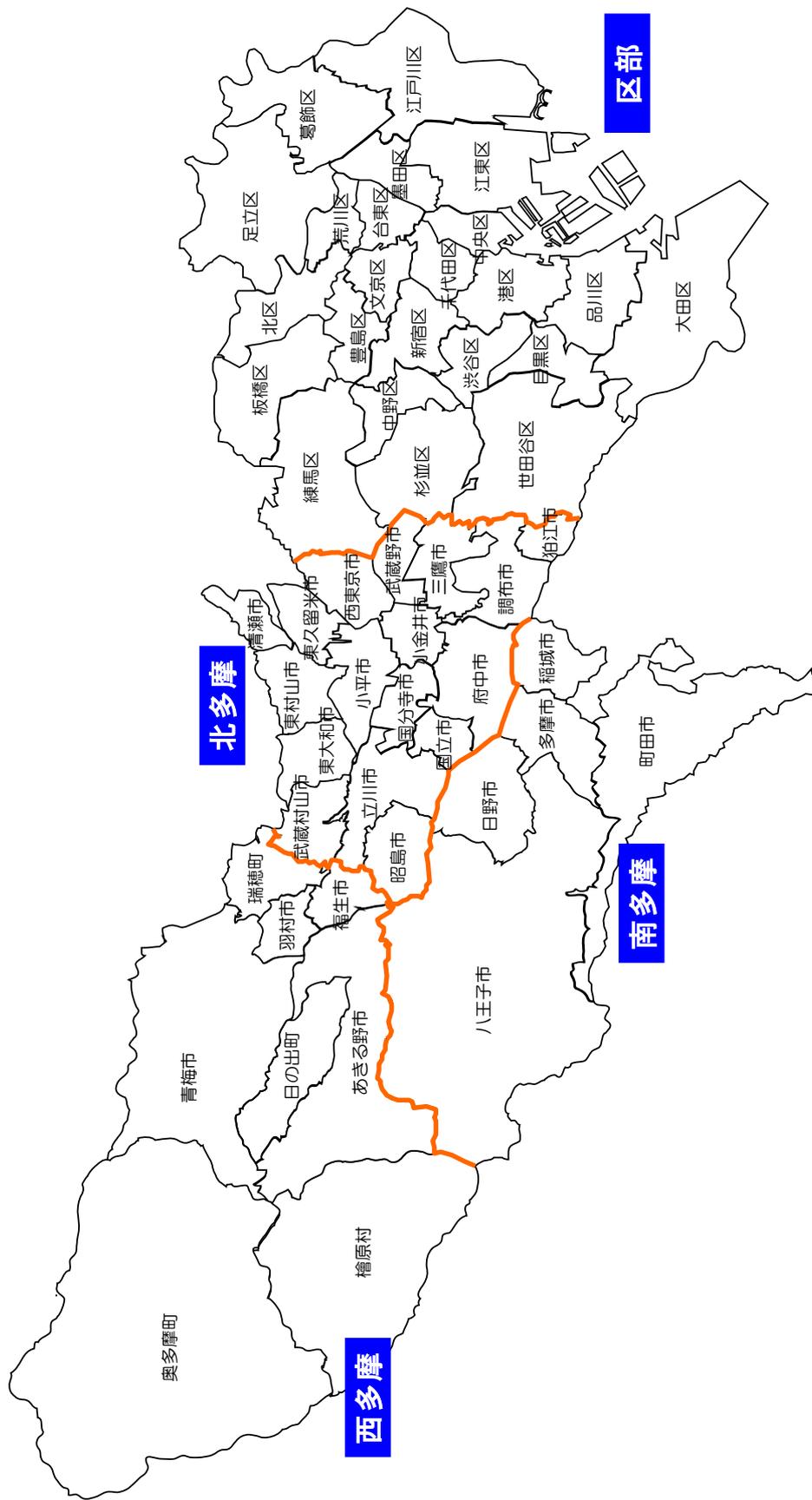


图1 地域区分图

4. 調査方法

(1) 文献調査及びヒアリング調査

都内本土部全域における生物の生育・生息情報について既存文献の収集を行った。調査対象文献は、東京都や都内区市町村の発行する自然環境調査報告書、研究機関等の報告書、学会誌、専門雑誌等、あらゆる文献・資料を対象に情報の把握を行った。収集は、1998年版の発行後に発表されたものを中心としたが、必要に応じてさらに古い年代にさかのぼって収集を行った。

また、研究者や市民団体、NPO法人等が所有する未発表データや標本等については、個別にヒアリング調査を実施するなどして情報を収集した。

さらに、東京都環境局公式ホームページ上で一般の方々からの情報募集も行った。

(2) 現地調査

既存文献や資料による情報が著しく不足している種のうち、実際に調査を行うことで評価の精度が高められる可能性があるものについて、現地調査を実施した。

5. 選定及び評価の手順

掲載種の選定・評価にあたっては、まず「東京都の野生生物種目録 1998年版」(以下、「1998年版目録」という)を基に、その後新たに確認された種を追加したり、最新の分類学的知見を反映させるなどして、各分類群ごとに作業用リストを作成した。その上で、1998年版の掲載種全種と、その他に新たに掲載候補となる種を「検討対象種」として抽出した。なお、昆虫類については専門部会の判断により、1998年版目録のほかに、1998年以降に都以外が作成した目録をもとに検討対象種の抽出を行った。また、1998年版目録では扱われていない甲殻類、クモ類、貝類については、専門部会の委員がそれぞれの担当分類群について、専門的知見による判断のもとで検討対象種を挙げる形とした。

このような手順で抽出した検討対象種について、1種1地域ごとに評価を行い、評価作業の際には、カテゴリーを判定するに至った根拠を記録用紙に残した。

本書には、少なくとも1つの地域区分(あるいは本土部全体)で、「絶滅(EX)」、「野生絶滅(EW)」、「絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)」、「絶滅危惧ⅠA類(CR)」、「絶滅危惧ⅠB類(EN)」、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」、「準絶滅危惧(NT)」、「情報不足(DD)」及び「留意種」のいずれかに評価されたものを掲載した。

6. 評価の基準

評価の基準は、原則として環境省版レッドリストカテゴリー(2007)に準拠し、「絶滅(EX)」、「野生絶滅(EW)」、「絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)」、「絶滅危惧ⅠA類(CR)」、「絶滅危惧ⅠB類(EN)」、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」、「準絶滅危惧(NT)」、「情報不足(DD)」を用い(表1)、評価にあたっては定性的要件と定量的要件を併用した。

また、絶滅危惧Ⅰ類についてはそれぞれの評価対象ごとに、可能な限り絶滅危惧ⅠA類

(CR)と絶滅危惧 I B 類 (EN)に分けることとし、それが困難な場合には絶滅危惧 I 類 (CR+EN)としてまとめることとした。

今回の本土部の改定では、東京都独自の категорияとして「留意種」を新たに設けた。留意種は、当面は絶滅のおそれがないため上記 category には該当しないものの、留意が必要と考えられるとして選定されたものである。具体的には表 1 に示す①～⑧の選定理由のうちのいずれかの基準に該当するものであるが、必ずしも基準に該当するもの全てが留意種となっているわけでない。なお、孤立個体群であることに留意が必要な場合は留意種に含み、環境省版で用いられている「絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)」の category は用いないこととした。

表 1 カテゴリー区分と基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧 I 類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧 I A 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B 類	EN	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の category に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	* または *1	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記 category には該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧 (NT) に準ずる

		<p>(現時点では絶滅のおそれはないが、生息環境が減少していることから動向に留意する必要がある)</p> <p>②過去の環境改変により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある</p> <p>③人為的な環境配慮により個体群が維持されている</p> <p>④外来種の影響に注意する必要がある</p> <p>⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている</p> <p>⑥自然の回復状況をあらわしている</p> <p>⑦良好な環境の指標となる</p> <p>⑧タイプロカリティ (基準産地、模式産地) *3</p>
ランク外	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリに該当しないもの
データ無し	—	当該地域において生育・生息している (していた) 可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布	・	<p>生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。</p> <p>但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域ではないと判断される場合*4は、非分布として扱った。</p>

*3 分類・命名に使用した基準となる標本を採集した地点。

*4 鳥類は、移動能力が大きいため通常の生息地域を離れて偶発的に飛来する場合がある。そのため、都内で生息記録があっても、記録回数が少なくかつ既知の生息地域から大きく外れているなど、主たる分布域ではないと判断された場合には「非分布」とした。

<参考> 環境省版レッドリストカテゴリー（2007）のカテゴリー定義

区分及び基本概念		定性的要件	定量的要件
絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種（注1）		過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下でのみ存続している種		過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、我が国において野生ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。	
絶滅危惧 THREATENED	絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去（30年～50年）の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧 I A 類 (CR) A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間(注2。以下同じ)を通じて、90%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的でない。 2. 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後10年間もしくは3世代のどちらか長期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において80%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 B. 出現範囲が100km ² 未満もしくは生息地面積が10km ² 未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。 1. 生息地が過度に分断されているか、ただ1カ所の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

(注1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(注2) 最近10年間もしくは3世代：1世代が短く3世代に要する期間が10年未満のものは年数を、1世代が長く3世代に要する期間が10年を超えるものは世代数を採用する。

区分及び基本概念		定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D			<p>C. 個体群の成熟個体数が250未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3年間もしくは1世代のどちらか長い期間に25%以上の継続的な減少が推定される。 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> 50以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 1つの下位個体群中に90%以上の成熟個体が属している。 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が50未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、10年間、もしくは3世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が50%以上と予測される場合。</p>
		<p>絶滅危惧 I B類 Endangered (EN)</p> <p>IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの</p>	<p>絶滅危惧 I B類 (EN)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、70%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において50%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が5,000km²未満もしくは生息地面積が500km²未満であると推定されるほか、次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生息地が過度に分断されているか、5以下の地点に限定されている。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

区分及び基本概念		定性的要件		定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D				<p>C. 個体群の成熟個体数が2,500未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5年間もしくは2世代のどちらか長い期間に20%以上の継続的な減少が推定される。 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> 250以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 1つの下位個体群中に95%以上の成熟個体が属している。 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が250未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、20年間、もしくは5世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が20%以上と予測される場合。</p>
	<p>絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU) 絶滅の危険が増大している種</p> <p>現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。</p>	<p>次のいずれかに該当する種</p> <p>【確実な情報があるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。 	<p>絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 過去10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 今後10年間もしくは3世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があると予測される。 過去と未来の両方を含む10年間もしくは3世代のどちらか長い期間において30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が20,000km²未満もしくは生息地面積が2,000km²未満であると推定され、また次のうち2つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生息地が過度に分断されているか、10以下の地点に限定されている。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。 	

区分及び基本概念		定性的要件	定量的要件
絶滅危惧	THREATENED		<p>C. 個体群の成熟個体数が10,000未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10年間もしくは3世代のどちらか長い期間に10%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 1,000以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1つの下位個体群中にすべての成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が1,000未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。</p> <p>E. 数量解析により、100年間における絶滅の可能性が10%以上と予測される場合。</p>
準絶滅危惧	Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種	次に該当する種	
	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	<p>生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) 個体数が減少している。 b) 生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) 交雑可能な別種が侵入している。 	
情報不足	Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種	次に該当する種	
		<p>環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。</p> <ol style="list-style-type: none"> a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。 	

※準拠にあたり、表における「我が国」は、「東京都」あるいは「当該地域」と読み替えた。また、表の定量的要件については、基本的に日本国土全体を想定したものであるため、項目の中には参考として用いたものもある。

II 選定・評価結果の概要

それぞれの分類群における検討対象種の種数、及び評価の結果選定された本レッドリスト掲載種の種数を表2に記した。さらに、カテゴリー別の種数の内訳を表3～23に記した。

表2では、1998年版に掲載されておらず今回新たに掲載された種を新規掲載種、1998年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種を削除種として示した。

なお、1998年版と本書の掲載種数を比較する際には、評価基準が必ずしも同じではないことに留意されたい。また今回は、分類群ごとに過去の記録をどの年代までさかのぼったかが異なっているため、分類群間の単純比較はできないことにも注意が必要である。分類群ごとの評価方法の詳細については、それぞれの総説を参照していただきたい。

表2 検討対象種及び掲載種の種数 (注1) 検討対象種には、1998年版掲載種が全て含まれている。

分類群	項目	1998年版 掲載種	検討対象種 (注1)	2010年版 掲載種	新規 掲載種	削除種
植物		642	899	800	208	50
哺乳類		31	40	37	10	4
鳥類		107	178	162	68	13
爬虫類		13	14	14	1	0
両生類		14	15	15	1	0
淡水魚類		37	41	38	4	3
昆虫類		459	592	394	128	193
	トンボ目	67	79	59	10	18
	カマキリ目	対象外	3	3	3	—
	バッタ目	22	29	28	7	1
	カメムシ目	8	23	19	15	4
	ヘビトンボ目	対象外	5	5	5	—
	アミメカゲロウ目	対象外	1	1	1	—
	コウチュウ目	308	359	195	51	164
	ハチ目	対象外	18	15	15	—
	ハエ目	対象外	12	12	12	—
	チョウ目チョウ類	54	56	50	2	6
	チョウ目ガ類	対象外	7	7	7	—
甲殻類		対象外	15	15	15	—
クモ類		対象外	33	33	33	—
貝類		対象外	71	71	71	—
合計		1303	1898	1579	539	263

表3 植物の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	168	8	28	13	60	35	36	0	348
北多摩	90	1	56	23	99	40	42	0	351
南多摩	47	2	109	46	191	74	11	0	480
西多摩	25	1	155	62	230	79	26	0	578

表4 哺乳類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	19	0	0	0	1	2	1	2	25
北多摩	1	0	0	3	1	4	1	0	10
南多摩	1	0	1	0	4	4	1	1	12
西多摩	2	0	0	1	4	13	1	0	21

表5 鳥類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	5	0	27	24	0	33	13	12	2	116
北多摩	0	0	16	13	0	52	28	12	0	121
南多摩	0	0	14	13	0	47	35	12	0	121
西多摩	0	0	12	8	0	45	47	6	0	118

表6 爬虫類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	5	0	3	3	1	2	0	14
北多摩	0	0	3	0	1	5	1	2	1	13
南多摩	0	0	1	0	2	5	4	1	1	14
西多摩	0	0	1	1	1	1	8	1	1	14

表7 両生類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	4	2	0	0	1	0	0	7
北多摩	0	0	2	4	0	3	1	0	0	10
南多摩	0	0	1	6	0	5	1	0	0	13
西多摩	0	0	0	2	0	3	9	0	0	14

表 8 淡水魚類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	7	0	3	0	4	7	7	2	7	37
北多摩	5	0	1	0	4	6	2	1	5	24
南多摩	2	0	0	1	3	6	3	2	4	21
西多摩	1	0	2	1	2	6	4	1	1	18

表 9 昆虫類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳（各目の合計）

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	73	0	50	33	6	35	40	72	6	315
北多摩	41	0	28	17	2	35	44	55	9	231
南多摩	25	0	18	10	3	28	48	41	12	186
西多摩	14	0	9	6	5	18	23	36	12	123
本土部	38	0	40	22	4	31	64	72	15	286

表 10 トンボ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	18	0	11	4	0	5	7	5	0	50
北多摩	7	0	8	5	0	9	2	8	0	39
南多摩	4	0	3	4	0	7	9	5	0	32
西多摩	0	0	2	3	0	8	9	6	0	28
本土部	8	0	9	12	0	6	8	5	0	48

表 11 カマキリ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
北多摩	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
西多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本土部	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3

表 12 バッタ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	2	0	6	0	0	1	0	17	0	26
北多摩	2	0	7	0	0	2	1	9	0	21
南多摩	1	0	8	0	0	2	0	8	0	19
西多摩	0	0	3	0	0	1	0	9	0	13
本土部	1	0	8	0	0	2	0	10	0	21

表 13 カメムシ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	4	0	3	0	0	0	3	5	0	15
北多摩	3	0	2	1	0	2	1	0	0	9
南多摩	1	0	1	2	0	2	0	2	0	8
西多摩	1	0	0	1	0	2	0	1	0	5
本土部	2	0	3	1	0	2	0	6	0	14

表 14 ヘビトンボ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
北多摩	1	0	0	0	0	0	1	3	0	5
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
西多摩	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3
本土部	0	0	1	0	0	0	0	2	0	3

表 15 アミメカゲロウ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北多摩	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本土部	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

表 16 コウチュウ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	27	0	29	29	0	28	30	23	2	168
北多摩	10	0	11	11	0	19	39	17	1	108
南多摩	6	0	7	4	0	13	38	12	2	82
西多摩	1	0	3	2	0	4	14	9	3	36
本土部	8	0	19	9	0	17	55	28	3	139

表 17 ハチ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	4	0	0	0	0	0	0	7	0	11
北多摩	5	0	0	0	0	0	0	7	0	12
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
西多摩	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
本土部	4	0	0	0	0	0	0	11	0	15

表 18 ハエ目の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
北多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
西多摩	0	0	0	0	1	0	0	0	7	8
本土部	0	0	0	0	2	0	0	0	10	12

表 19 チョウ目チョウ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	17	0	0	0	3	0	0	11	2	33
北多摩	9	0	0	0	1	0	0	10	3	23
南多摩	11	0	0	0	3	3	1	3	2	23
西多摩	11	0	0	0	4	2	0	6	2	25
本土部	12	0	0	0	2	3	1	6	2	26

表 20 チョウ目ガ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	1	0	0	0	3	1	0	0	0	5
北多摩	3	0	0	0	1	3	0	0	0	7
南多摩	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
西多摩	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
本土部	3	0	0	0	0	1	0	0	0	4

表 21 甲殻類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15
北多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
南多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
西多摩	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
本土部	0	0	0	0	0	0	0	0	15	15

表 22 クモ類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	1	0	0	0	0	7	3	5	0	16
北多摩	0	0	0	0	0	0	7	9	0	16
南多摩	1	0	0	0	0	2	9	11	0	23
西多摩	0	0	0	0	0	3	9	20	0	32
本土部	0	0	0	0	0	3	13	17	0	33

表 23 貝類の地域区分及びカテゴリー別種数内訳

	EX	EW	CR	EN	CR+EN	VU	NT	DD	留意種	合計
区部	10	0	0	0	11	4	7	6	3	41
北多摩	0	0	0	0	0	1	1	0	2	4
南多摩	0	0	0	0	3	7	5	2	3	20
西多摩	0	0	0	0	1	5	15	7	1	29
本土部	10	0	0	0	14	11	20	11	5	71

Ⅲ 自然環境の概要

【地形の概略】

東京都の本土部（島しょ部を除く地域）は、日本最大の平野である関東平野の南西部を占め、その西端は関東山地に達する。東側には沖積層が堆積した沖積低地が広がり、江戸川を境に千葉県に接する。沖積低地は荒川、多摩川の流域にも広がり、概ね区部の全域に広がる。

区部とその西側に広がる「山の手」は海岸段丘原由来の洪積台地で、その東あるいは南端は沖積低地の間に指状に広がっている。東京都の平野部の特色は洪積台地の面積が広いことである。台地は、表面を関東ローム層と呼ぶ、那須、男体、赤城、榛名、浅間、箱根、富士などの諸火山の噴火物起源の土壌で被われている。雑木林や屋敷林の点在する畑地の広がるかつての武蔵野の風景は、この台地を中心に形成されたものである。海岸段丘の形成には年代に相違があり、西側の段丘ほど標高が高くなり地形は丘陵状となる。

雲取山など、最西部の山地は、白亜紀から古第三紀に形成された四万十帯と呼ぶ砂岩や泥岩からなる山地で、その東側の日原などの奥多摩は、秩父帯というチャートや石灰岩体を含むジュラ紀の泥質堆積物からなる。そのため、奥多摩には各地に石灰岩体が露出した岩塊が点在し、好石灰岩植物が出現する。

東京都本土部の自然景観は、概ね低地、台地、丘陵地、山地の4つに類型区分されるが、行政区分上の区部は低地と台地、北多摩は台地と丘陵地、南多摩は丘陵地と山地、西多摩は山地を主要部分とし、行政区分は自然景観上の区分を反映したものとなっている。

【植生の概略】

植生とは、植物学的な地球表層の様相をいうが、それは温度・水・栄養塩類の資源量という自然環境の相違を反映して成り立っている。植生の違いは植生を構成する植物相の違いを反映したものであり、生態系の生産者としての植生の違いは消費者である動物の生存にもその影響が及ぶ。

東京都の植生帯は、低地から丘陵地、山地の低山にかけての地域は照葉樹林帯に、山地の中腹や低い稜線部分は夏緑林帯に含まれる。照葉樹林帯の主要となる森林植生はスダジイ林で、台地や丘陵地にはシラカシ林があったと推定されるが、現在はほとんど残っていない。南多摩や西多摩での丘陵地や山麓の開発は、ウラジログシ林などの北限に近い山地性の照葉樹林の植物相に大きな影響を及ぼし、絶滅種や危惧種が集中する。台地は人の手で管理された雑木林と呼ぶ、コナラ、クヌギ、クリを主体とした落葉性の二次林が最近まで広範囲に見られたが、今はほとんど見られない。照葉樹林帯は、都市化の中核として、家屋が密集し、その間に都市公園や人工緑地が点在する、きわめて人工的な植生が占めている。田畑も存在したかつての低地には湿生地の植生も広く見られたが、今や保全緑地などにわずかに残るだけである。

夏緑林帯は面積的には小規模であるが、ブナ林とミズナラ林が卓越する。ブナ林は林床にスズタケが生える、太平洋型のブナ林である。ミズナラ林の多くは二次林の放置に起源をもつ林であり、その由来と組成は一樣ではない。スギやヒノキの植林地が広い範囲に広がる。竹林もあるが面積的には少ない。

高尾山、御岳山などの山地では、照葉樹林帯と夏緑林帯の境界付近は斜面が急で土壤が薄くなる。そのような貧栄養土壤の急斜面にモミとツガからなる温帯性針葉樹林やイヌブナ林が出現する。一方、夏緑林帯の上方にはシラビソ、オオシラビソ、コメツガを主とする亜高山性針葉樹林が出現するが、東京都の場合はその面積は限られている。中部地方などで亜高山針葉樹林帯を抜け出した山頂付近に発達する、ハイマツやチングルマなどの高山植生は東京都には見られない。

IV 保護上重要な野生生物種

1. 植物

【選定・評価方法の概要】

絶滅や絶滅が危惧される種の選定と評価は、原則として環境省版レッドリストカテゴリー（2007）の定量的要件を用いた。その際、IUCN（2003）による「地域レベルでレッドリスト基準を適用する場合のガイドライン」（Guidelines for Application of IUCN Red List Criteria at Regional Levels, Version3.0）を参考に、隣接地域にふつうに生育する種については、当該地域での生育状況について得られるランクから1ないし2段階下げて評価した。

なお動物の一部で行われた本土部全体のランク付けを植物では見送った。その理由は、区分された4地域が、低平地（区部）、丘陵地（北多摩）、丘陵地（南多摩）、山地（西多摩）と地域ごとに主要な植生帯を異にしており、全体としてのランク付けの意義を見出すことができないとの判断によるものである。

検討対象種は、東京都（本土部）に野生する植物全種の一覧を含む『東京都の野生生物種目録 1998年版』を基礎に、前回（1998年版）の掲載種642種に257種を加えた計899種とした。

【選定・評価結果の概要】

検討対象種899種について、1種ずつ評価を行った結果、本書に掲載される絶滅または絶滅が危惧される種として選定されたのは800種で、その数は前回（1998年）の調査での選定に比べて158種増加した。

種数の増加は、主に各種の開発による自然環境のかく乱と破壊が1998年以降も進行し、生育場所の環境の劣化によっている。酸性雨や大気汚染、あるいは温暖化など自然環境自体の変化が、絶滅やその危惧の増大の原因と考えられるケースは見出せなかった。副次的ではあるが、環境省基準の採用によって前回とは異なった評価を行ったことも選定数の増加をもたらしている。また、現地情報が前回に比べ格段に増加し、絶滅に瀕している現状を明らかにしたことも選定種の増加に関係している。

こうした評価方法の客観性の向上と現地情報の増加にみる絶滅危惧種への関心の高まりは、前回調査に比べ絶滅や絶滅危惧種に関する情報の精度と信頼度を大幅に高めている。現地情報の増加は、主に植物愛好家や各種団体によって行われてきた自発的な小地域ごとの克明な植物相調査の結果によるものであることを記しておく。

今回新たにキレハオオクボシダ、アズマギク、ツルカコソウなどの絶滅が確認され、都における絶滅（EX）は68種になった。

区部ではヒキノカサ、マツモ、ハナムグラなど、絶滅種が168種ときわめて多い。区部

の植物相全体をまとめた資料はないが、『日本産物志・武蔵部(上・下巻)』(伊藤圭介, 1873. 文部省)や「東京近郊植物採集地」(著者不明, 1888. 植物学雑誌 2 巻, pp. 89-90, 119-120.) は最初期のものである。その後、『武蔵野植物記』(檜山庫三, 1953. 内田老鶴圃)と『武蔵野の植物』(檜山庫三, 1965. 井上書店)が出版され、後者は評価に際して、区部と北多摩地域での主な対照データとして用いた。

区部と北多摩地域では、かつては丘陵地だけでなく、低地においても豊かな自然が存在したことが示され、上記地区における植生復元を考えるうえでも檜山(1953, 1965)は重要な情報である。北多摩についてはそれ以降の開発が著しく、現状に関する調査が特に望まれるところである。

南多摩地域は、高地性の種を欠くものの、低平地から山地にいたる植生帯の広がりを反映した、多様性の高い植物相が発達している。宅地等の開発が進み、立地の分断が急速に進んだが、都心からわずか約 50km の距離にある高尾山をはじめとして、植物相は今なお良好な状態で維持され、高い種多様性を維持している。一方、準絶滅危惧 (NT)、情報不足 (DD) まで含めると 431 種に達する絶滅危惧種が生育しており、1 千 3 百万人の人口を抱える首都東京の一部ともいえるこの地域の多様性とその維持が世界的にも注目される所以である。

西多摩地域は、低平地も含むが、主要な植生帯は丘陵地と関東山地の一部をなす山地の森林植生である。南多摩地域同様に植物相の種多様性は高く、1 千 3 百万都市に接する立地として驚異的である。また、山地を中心に石灰岩が露出した立地が散見し、石灰岩地に特有な好石灰岩性植物が生育する。絶滅危惧種 (CR, EN, VU) が 447 種、準絶滅危惧 (NT) が 79 種あり、東京都の生物多様性保全のうえからは特に重要な地域である。なお、亜高山性のタカネバラ、ウラジロヒカゲツツジ、カモメランなどは、山頂部や尾根の高所に少ない個体数が見出されるに過ぎない。

前回の評価から削除またはランクが下がった種は、基準が異なり、単純に比べることはできないが、タコノアシやミゾコウジュなどはランクが下がった。いずれの場合も生育状況が改善された結果ということもあるが、調査が進んで分布についての情報が増加した結果とも考えられる。西多摩地域を中心に分布域の拡大と個体数の増加が顕著なニホンジカにより、植物相は影響を受けている。このことに限らず、現在のところ絶滅の危惧の程度が高くなく選定から漏れている種が、今後、気づかないうちに広範囲から消失する可能性もないとはいえない。比較的良好的な環境が保たれていることを指標する種の動向も注目される。

今回は主に既存の資料を用いて評価がなされたが、水生植物を中心に分布の実態や分類学的な同定がほとんど行われていない分類群も多くある。

(大場 秀章)

植物(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
シダ植物門	PTERIDOPHYTA						
マツバラ科	Psilotaceae						
マツバラ	<i>Psilotum nudum</i>	-	-	○	EN	NT	
ヒカゲノカズラ科	Lycopodiaceae						
ヒメスギラン	<i>Lycopodium chinense</i>	・	-	-	CR		
ヒカゲノカズラ	<i>Lycopodium clavatum</i>	-	-	EN	CR		
スギラン	<i>Lycopodium cryptomerinum</i>	-	-	VU	VU	VU	
マンネンスギ	<i>Lycopodium obscurum</i>	-	-	EN	EN		
トウゲシバ, ホソバトウゲシバ	<i>Lycopodium serratum</i>	EN	-	NT	NT		
イワヒバ科	Selaginellaceae						
エゾノヒメクラマゴケ	<i>Selaginella helvetica</i>	・	・	・	EX		
タチクラマゴケ	<i>Selaginella nipponica</i>	CR	-	VU	VU		
ヒモカズラ	<i>Selaginella shakotanensis</i>	・	・	・	CR		
ヤマクラマゴケ	<i>Selaginella tamamontana</i>	・	・	・	NT		
ミズニラ科	Isoetaceae						
ミズニラ	<i>Isoetes japonica</i>	DD	EX	VU	VU	NT	
トクサ科	Equisetaceae						
イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i>	EN	-	EN	-		
ハナヤスリ科	Ophioglossaceae						
アカハナワラビ	<i>Botrychium nipponicum</i>	-	-	VU	VU		
ナツノハナワラビ	<i>Botrychium virginianum</i>	CR	-	VU	VU		
コヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum petiolatum</i>	VU	VU	VU	VU		
コハナヤスリ	<i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>nipponicum</i>	VU	EN	VU	-		
ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	EN	EN	VU	EN		
ゼンマイ科	Osmundaceae						
ヤマドリゼンマイ	<i>Osmunda cinnamomea</i> var. <i>fokiensis</i>	-	-	VU	VU		
オニゼンマイ	<i>Osmunda claytoniana</i>	・	・	-	EN		
ヤシャゼンマイ	<i>Osmunda lancea</i>	EN	-	VU	NT		
キジノオシダ科	Plagiogyriaceae						
オオキジノオ	<i>Plagiogyria euphlebia</i>	・	・	EN	EN		
キジノオシダ	<i>Plagiogyria japonica</i>	・	・	VU	VU		
ウラジロ科	Gleicheniaceae						
コシダ	<i>Dicranopteris linearis</i>	・	・	NT	VU		
ウラジロ	<i>Gleichenia japonica</i>	・	DD	VU	NT		
コケシノブ科	Hymenophyllaceae						
ヒメハイホラゴケ	<i>Crepidomanes amabile</i>	・	・	VU	-		
ハイホラゴケ	<i>Crepidomanes birmanicum</i>	・	・	VU	-		
アオホラゴケ	<i>Crepidomanes latealatum</i>	・	・	VU	VU		
ウチワゴケ	<i>Crepidomanes minutum</i>	DD	VU	○	○		
チチブホラゴケ	<i>Crepidomanes schmidtianum</i>	・	・	VU	NT		
コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i>	・	・	・	VU		
コバノイシカグマ科	Dennstaedtiaceae						
コバノイシカグマ	<i>Dennstaedtia scabra</i>	・	CR	CR	VU		
オウレンシダ	<i>Dennstaedtia wilfordii</i>	DD	EX	○	○		
イワヒメワラビ	<i>Hypolepis punctata</i>	DD	NT	○	○		
フモトカグマ	<i>Microlepia pseudostrigosa</i>	・	・	EX	・		
フジシダ	<i>Monachosorum maximowiczii</i>	・	・	・	VU		
ホングウシダ科	Lindsaeaceae						
ホラシノブ	<i>Sphenomeris chinensis</i>	DD	DD	VU	-		
シノブ科	Davalliaceae						

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
シノブ	<i>Davallia mariesii</i>	—	EX	VU	NT		
ホウライシダ科	Parkeriaceae						
ミズワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i>	EW	—	—	—		
ヒメウラジロ	<i>Cheilanthes argentea</i>	DD	—	VU	VU	VU	
ミヤマウラジロ	<i>Cheilanthes brandtii</i>	•	•	—	NT		
イワウラジロ	<i>Cheilanthes krameri</i>	•	•	•	CR	EN	
カラクサシダ	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	•	•	VU	VU		
シシラン科	Vittariaceae						
シシラン	<i>Vittaria flexuosa</i>	•	•	—	EN		
ナカミシシラン	<i>Vittaria fudzinoi</i>	•	•	—	CR		
イノモトソウ科	Pteridaceae						
アマクサシダ	<i>Pteris dispar</i>	EX	•	NT	•		
オオバノハチジョウシダ	<i>Pteris excelsa</i>	•	•	VU	CR		
マツザカシダ	<i>Pteris nipponica</i>	•	•	EN	EN		
チャセンシダ科	Aspleniaceae						
ヒメイトラノオ	<i>Asplenium capillipes</i>	•	•	•	VU		
トキイトラノオ	<i>Asplenium pekinense</i>	•	•	NT	NT		
オクタマシダ	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	•	•	•	VU	VU	
クモノスシダ	<i>Asplenium ruprechtii</i>	DD	•	VU	NT		
イチョウシダ	<i>Asplenium ruta-muraria</i>	—	—	—	CR	NT	
コタニワタリ	<i>Asplenium scolopendrium</i>	CR	•	CR	CR		
トキワシダ	<i>Asplenium yoshinagae</i>	•	•	•	VU		
シシガシラ科	Blechnaceae						
オサシダ	<i>Blechnum amabile</i>	•	•	•	NT		
シシガシラ	<i>Blechnum niponicum</i>	—	DD	○	○		
コモチシダ	<i>Woodwardia orientalis</i>	DD	—	VU	VU		
オシダ科	Dryopteridaceae						
カナワラビ	<i>Arachniodes amabilis</i> var. <i>fimbriata</i>	•	•	VU	VU		
ホソバカナワラビ	<i>Arachniodes aristata</i>	•	•	VU	•		
ホソバナライシダ	<i>Arachniodes borealis</i>	EN	•	VU	NT		
ナンゴクナライシダ	<i>Arachniodes miqueliana</i>	•	•	VU	EN		
シノブカグマ	<i>Arachniodes mutica</i>	•	•	EN	○		
ミドリカナワラビ	<i>Arachniodes nipponica</i>	•	•	CR	CR		
オニカナワラビ	<i>Arachniodes simplicior</i> var. <i>major</i>	•	•	EN	EN		
キヨスミヒメワラビ	<i>Ctenitis maximowicziana</i>	EX	•	VU	VU		
メヤブソテツ	<i>Cyrtomium caryotideum</i>	•	•	VU	VU		
ミヤコヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i> var. <i>intermedium</i>	•	•	NT	VU		
イワヘゴ	<i>Dryopteris atrata</i>	•	•	VU	CR		
サイゴクベニシダ	<i>Dryopteris championii</i>	•	—	VU	VU		
オオクジャクシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>	•	•	CR	CR		
マルバベニシダ	<i>Dryopteris fuscipes</i>	•	•	EN	EN		
サクライカグマ	<i>Dryopteris gymnophylla</i>	•	•	VU	DD		
ギフベニシダ	<i>Dryopteris kinkiensis</i>	•	•	EN	—		
トウゴクシダ	<i>Dryopteris nipponensis</i>	DD	—	NT	NT		
ミヤマクマワラビ	<i>Dryopteris polylepis</i>	•	—	NT	○		
ワカナシダ	<i>Dryopteris pycnopteroides</i>	•	EX	•	•		
ヒメイタチシダ	<i>Dryopteris sacrosancta</i>	DD	—	○	○		
ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i>	•	•	CR	•		
タニヘゴ	<i>Dryopteris tokyoensis</i>	EX	—	—	•		
ホソイノデ	<i>Polystichum braunii</i>	•	•	CR	VU		
アスカイノデ	<i>Polystichum fibrillosopaleaceum</i>	VU	VU	VU	VU		
チャボイノデ	<i>Polystichum igaense</i>	•	•	VU	VU		
アイアスカイノデ	<i>Polystichum longifrons</i>	VU	EN	○	○		
トヨグチイノデ	<i>Polystichum ohmurae</i>	•	•	•	DD		
オニイノデ	<i>Polystichum rigens</i>	•	•	VU	DD	VU	
シムライノデ	<i>Polystichum shimurae</i>	•	•	•	CR	EN	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ヒメカナワラビ, キヨズミシダ	<i>Polystichum tsussimense</i> var. <i>tsussimense</i>	・	・	VU	VU		
オオキヨズミシダ	<i>Polystichum tsussimense</i> var. <i>mayebarae</i>	・	・	VU	DD		
ヒメシダ科	Thelypteridaceae						
コハシゴシダ	<i>Thelypteris angustifrons</i>	・	・	VU	・		
タチヒメワラビ	<i>Thelypteris bukoensis</i>	・	・	・	VU		
ハシゴシダ	<i>Thelypteris glanduligera</i>	DD	—	○	○		
ハリガネワラビ	<i>Thelypteris japonica</i>	CR	CR	○	○		
イワデンダ科	Woodsiaceae						
ウスヒメワラビ	<i>Acystopteris japonica</i>	・	・	・	EN		
テバコワラビ	<i>Athyrium atkinsonii</i>	・	・	・	CR	VU	
カラクサイヌワラビ	<i>Athyrium clivicola</i>	・	DD	VU	VU		
サトメシダ	<i>Athyrium deltoifrons</i>	・	EX	CR	EN		
ミヤコイヌワラビ	<i>Athyrium frangulum</i>	・	・	VU	VU		
ホソバインヌワラビ	<i>Athyrium iseanum</i>	・	・	VU	VU		
イワイヌワラビ	<i>Athyrium nikkoense</i>	・	・	・	EN		
タカネサトメシダ	<i>Athyrium pinetorum</i>	・	・	・	EN		
カラフトミヤマシダ	<i>Athyrium spinulosum</i>	・	・	・	DD		
イッポンワラビ	<i>Cornopteris crenulatoserrulata</i>	・	・	・	NT		
タカオシケチシダ	<i>Cornopteris decurrenti-alata</i> var. <i>pilosella</i>	・	・	VU	VU		
ヤマヒメワラビ	<i>Cystopteris sudetica</i>	・	・	・	VU		
セイタカシケシダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>	DD	—	NT	NT		
フモトシケシダ	<i>Deparia pseudoconilii</i>	VU	—	NT	—		
ミヤマシケシダ	<i>Deparia pycnosora</i> var. <i>pycnosora</i>	・	—	NT	○		
ミドリワラビ	<i>Deparia viridifrons</i>	・	・	VU	VU		
イワヤシダ	<i>Diplazium cavalerianum</i>	・	・	EX	・		
ヒカゲワラビ	<i>Diplazium chinense</i>	・	・	—	VU		
シロヤマシダ	<i>Diplazium hachijoense</i>	・	・	CR	・		
オニヒカゲワラビ	<i>Diplazium nipponicum</i>	EX	・	・	DD		
ヘラシダ	<i>Diplazium subsinuatum</i>	・	・	VU	・		
イワウサギシダ	<i>Gymnocarpium jessoense</i>	・	・	・	CR		
エビラシダ	<i>Gymnocarpium oyamense</i>	・	・	VU	VU		
キンモウワラビ	<i>Hypodematium crenatum</i> subsp. <i>fauriei</i>	・	・	・	VU	VU	
コガネシダ	<i>Woodsia macrochlaena</i>	・	・	VU	VU		
ウラボシ科	Polypodiaceae						
ミヤマウラボシ	<i>Crypsinus veitchii</i>	・	・	・	VU		
マメヅタ	<i>Lemmaphyllum microphyllum</i>	DD	—	○	○		
ホテイシダ	<i>Lepisorus annuifrons</i>	・	・	・	VU		
サジラン	<i>Loxogramme duclouxii</i>	・	・	EN	VU		
クリハラン	<i>Neocheiropteris ensata</i>	・	・	DD	CR		
オシャグジデンダ	<i>Polypodium fauriei</i>	・	・	EN	EN		
アオネカズラ	<i>Polypodium nipponicum</i>	・	・	・	CR		
ミウギシダ	<i>Polypodium someyae</i>	・	・	・	EX	EN	
ヤツシロヒトツバ	<i>Pyrrosia × nipponica</i>	・	・	・	DD		
イワオモダカ	<i>Pyrrosia hastata</i>	・	・	・	CR		
ヒトツバ	<i>Pyrrosia lingua</i>	・	・	・	VU		
ヒメウラボシ科	Grammitidaceae						
キレハオオクボシダ	<i>Ctenopteris sakaguchiana</i>	・	・	・	EX	EN	
オオクボシダ	<i>Xiphopteris okuboi</i>	・	・	・	CR		
デンジソウ科	Marsileaceae						
デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	CR	—	・	・	VU	
サンショウモ科	Salviniaceae						
サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	DD	DD	DD	—	VU	
アカウキクサ科	Azollaceae						

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
オオアカウキクサ	<i>Azolla japonica</i>	DD	—	DD	VU	EN	
種子植物門	SPERMATOPHYTA						
裸子植物亜門	GYMNOSPERMAE						
マツ科	Pinaceae						
イラモミ, マツハダ	<i>Picea bicolor</i>	•	•	•	VU		
トウヒ	<i>Picea jezoensis</i> var. <i>hondoensis</i>	•	•	•	VU		
ハリモミ, バラモミ	<i>Picea polita</i>	•	•	EX	VU		
ヒノキ科	Cupressaceae						
ミヤマビャクシン	<i>Juniperus chinensis</i> var. <i>sargentii</i>	•	•	•	CR		
ネズ, ムロ, ネズミサシ	<i>Juniperus rigida</i>	•	•	CR	EN		
被子植物亜門	ANGIOSPERMAE						
双子葉植物綱	DICOTYLEDONEAE						
離弁花亜綱	ARCHICHLAMYDEAE						
ヤナギ科	Salicaceae						
ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>	NT	VU	VU	VU		
ネコヤナギ	<i>Salix gracilistyla</i>	VU	VU	VU	○		
シバヤナギ	<i>Salix japonica</i>	•	•	VU	VU		
オノエヤナギ	<i>Salix sachalinensis</i>	NT	NT	○	○		
コゴメヤナギ	<i>Salix serissaefolia</i>	•	VU	VU	VU		
シライヤナギ	<i>Salix shiraii</i> var. <i>shiraii</i>	•	•	•	CR		
チチブヤナギ	<i>Salix shiraii</i> var. <i>kenoensis</i>	•	•	•	VU		
カバノキ科	Betulaceae						
ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	VU	VU	VU	VU		
チチブミネバリ	<i>Betula chichibuensis</i>	•	•	•	CR	EN	
ヤエガワカンバ, コオノオレ	<i>Betula davurica</i>	•	•	CR	CR	NT	
ジブウカンバ, イヌブシ	<i>Betula globispica</i>	•	•	•	CR		
オノオレカンバ	<i>Betula schmidtii</i>	•	•	VU	VU		
ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana</i>	VU	VU	○	○		
ブナ科	Fagaceae						
ナラガシワ(アオナラガシワ, アオミズナラを含む)	<i>Quercus aliena</i>	•	•	EN	EN		
イラクサ科	Urticaceae						
トキホコリ	<i>Elatostema densiflorum</i>	EX	CR	CR	CR	VU	
カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>	VU	VU	○	○		
タチゲヒカゲミズ	<i>Parietaria micrantha</i> var. <i>coreana</i>	•	•	•	CR	VU	
ミズ	<i>Pilea hamaoi</i>	EX	NT	NT	NT		
コケミズ	<i>Pilea peploides</i>	VU	VU	VU	VU		
コバノイラクサ	<i>Urtica laetevirens</i>	•	•	•	VU		
ヤドリギ科	Loranthaceae						
マツグミ	<i>Taxillus kaempferi</i>	•	VU	VU	VU		
ツチトリモチ科	Balanophoraceae						
ミヤマツチトリモチ	<i>Balanophora nipponica</i>	•	•	•	VU	VU	
タデ科	Polygonaceae						
ナガバノヤノネグサ	<i>Persicaria brevichreata</i>	•	•	VU	VU		
ヒメタデ(ホソバイスタデを含 む)	<i>Persicaria erectominor</i>	CR	EX	•	•	VU	1
ヤナギヌカボ	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>paludicola</i>	CR	EX	EX	•	VU	
ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	EX	•	•	•	NT	
シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>	EN	VU	VU	VU		
サデクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	VU	CR	CR	CR		
サクラタデ	<i>Persicaria macrantha</i> subsp. <i>conspicua</i>	VU	VU	VU	VU		
ヌカボタデ, コヌカボタデ	<i>Persicaria taquetii</i>	VU	VU	VU	VU	VU	
ナデシコ科	Caryophyllaceae						
ナンバンシハコベ	<i>Cucubalus baccifer</i> var. <i>japonicus</i>	•	VU	NT	NT		
カワラナデシコ, ナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>	•	VU	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>heterantha</i>	・	・	CR	CR		
ヒナワチガイソウ	<i>Pseudostellaria heterantha</i> var. <i>linearifolia</i>	—	CR	—	—	VU	
ワダソウ	<i>Pseudostellaria heterophylla</i>	EX	CR	CR	・		
ヒゲネワチガイソウ	<i>Pseudostellaria palibiniana</i>	・	・	・	CR		
フシグロセンノウ	<i>Silene miqueliana</i>	EX	CR	VU	VU		
アカザ科	Chenopodiaceae						
ミドリアカザ	<i>Chenopodium bryoniifolium</i>	・	・	・	CR	CR	
ヒユ科	Amaranthaceae						
ヤナギイノコズチ	<i>Achyranthes longifolia</i>	VU	VU	VU	VU		
マツブサ科	Schisandraceae						
チョウセンゴミシ	<i>Schisandra chinensis</i>	・	・	・	EX		
クスノキ科	Lauraceae						
シロモジ	<i>Lindera triloba</i>	・	・	・	CR		
カゴノキ	<i>Litsea coreana</i>	・	・	NT	NT		
キンボウゲ科	Ranunculaceae						
フジレイジンソウ	<i>Aconitum fudjisanense</i>	・	・	CR	・		
アズマレイジンソウ	<i>Aconitum pterocaulae</i>	・	・	VU	VU		
ルイヨウショウマ	<i>Actaea asiatica</i>	・	・	・	CR		
フクジュソウ	<i>Adonis ramosa</i>	・	・	CR	CR		2
ニリンソウ	<i>Anemone flaccida</i>	NT	NT	○	○		
キクザキイチゲ	<i>Anemone pseudoaltaica</i>	・	・	CR	CR		
アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	EX	VU	VU	VU		
レンゲショウマ	<i>Anemonopsis macrophylla</i>	・	・	CR	VU		
ヤマオダマキ	<i>Aquilegia buergeriana</i>	・	・	EX	VU		
サラシナショウマ	<i>Cimicifuga simplex</i>	・	NT	○	○		
フジセンニンソウ	<i>Clematis fujisanensis</i>	・	・	CR	CR		
ミヤマハンショウヅル	<i>Clematis ochotensis</i> var. <i>japonica</i>	・	・	・	CR		
カザグルマ	<i>Clematis patens</i>	EX	CR	CR	CR	NT	
トリガタハンショウヅル	<i>Clematis tosaensis</i>	・	・	・	CR		
ウスギオウレン	<i>Coptis lutescens</i>	・	・	・	CR		
バイカオウレン, ゴカヨウオウ レン	<i>Coptis quinquefolia</i>	・	・	・	CR		
トウゴクサバノオ	<i>Dichocarpum trachyspermum</i>	・	・	VU	VU		
ミスミソウ	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	・	・	EX	・	NT	
オキナグサ	<i>Pulsatilla cernua</i>	EX	EX	EW	EW	VU	
バイカモ, ウメバチモ	<i>Ranunculus nipponicus</i> var. <i>submersus</i>	EX	EX	EX	CR		
ヒキノカサ	<i>Ranunculus ternatus</i>	EX	・	・	・	VU	
シギンカラマツ	<i>Thalictrum actaeifolium</i>	EX	・	CR	CR		
ミョウギカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>chionophyllum</i>	・	・	・	CR	CR	
ノカラマツ	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	EX	・	・	・	VU	
メギ科	Berberidaceae						
ヒロハヘビノボラズ	<i>Berberis amurensis</i>	・	・	・	CR		
ルイヨウボタン	<i>Caulophyllum robustum</i>	・	・	VU	VU		
イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum</i> var. <i>thunbergianum</i>	EN	EN	VU	VU		
ツツラフジ科	Menispermaceae						
コウモリカズラ	<i>Menispermum dauricum</i>	EX	EX	CR	CR		
スイレン科	Nymphaeaceae						
ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>	EX	・	EX	・		
オニバス	<i>Euryale ferox</i>	CR	EX	・	・	VU	3
コウホネ	<i>Nuphar japonica</i>	VU	VU	VU	VU		
ヒメコウホネ	<i>Nuphar subintegerrima</i>	CR	・	・	・	VU	
ヒツジグサ	<i>Nymphaea tetragona</i>	CR	EX	EW	EX		
マツモ科	Ceratophyllaceae						
マツモ, キンギョモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	EX	EX	EX	EX		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ドクダミ科	Saururaceae						
ハンゲショウ, カタシログサ	<i>Saururus chinensis</i>	CR	CR	CR	・		
ウマノスズクサ科	Aristolochiaceae						
ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	VU	VU	VU	VU		
ランヨウアオイ	<i>Asarum blumei</i>	・	・	CR	・		
ウスバサイシン	<i>Asarum sieboldii</i>	・	・	・	CR		
タマノカンアオイ	<i>Asarum tamaense</i>	DD	CR	VU	・	VU	
ボタン科	Paeoniaceae						
ヤマシャクヤク	<i>Paeonia japonica</i>	・	・	CR	CR	NT	
ベニバナヤマシャクヤク	<i>Paeonia obovata</i>	・	・	CR	CR	VU	
マタビ科	Actinidiaceae						
ウラジロマタビ	<i>Actinidia arguta</i> var. <i>hypoleuca</i>	・	・	VU	VU		
オトギリソウ科	Guttiferae						
トモエソウ	<i>Hypericum ascyron</i>	EX	EX	VU	VU		
アゼオトギリ	<i>Hypericum oliganthum</i>	CR	EX	EX	・	EN	
ミズオトギリ	<i>Triadenum japonicum</i>	EX	EX	CR	・		
モウセンゴケ科	Droseraceae						
ムジナモ	<i>Aldrovanda vesiculosa</i>	EW	・	・	・	CR	
モウセンゴケ	<i>Drosera rotundifolia</i>	EX	EX	EX	DD		
ケシ科	Papaveraceae						
キケマン	<i>Corydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i>	EX	・	・	・		
ナガミノツルケマン	<i>Corydalis raddeana</i>	・	・	・	VU	NT	
ヤマブキノソウ	<i>Hylomecon japonica</i>	CR	CR	VU	VU		
オサバグサ	<i>Pteridophyllum racemosum</i>	・	・	・	VU		
アブラナ科	Cruciferae						
エゾハタザオ	<i>Arabis pendula</i>	・	・	・	VU		
シコクハタザオ	<i>Arabis serrata</i> var. <i>shikokiana</i>	・	・	・	NT		
コンロンソウ	<i>Cardamine leucantha</i>	・	・	CR	CR		
ミズタガラシ	<i>Cardamine lyrata</i>	・	VU	・	・		
キバナハタザオ	<i>Sisymbrium luteum</i>	・	・	CR	CR		
ハタザオ	<i>Turritis glabra</i>	EX	VU	VU	VU		
ベンケイソウ科	Crassulaceae						
ショウドシマベンケイソウ	<i>Hylotelephium verticillatum</i> var. <i>lithophilos</i>	・	・	・	VU		
マツノハマシネンゲサ	<i>Sedum hakonense</i>	・	・	・	CR	VU	
アズマツメクサ	<i>Tillaea aquatica</i>	EX	EX	EN	EN	NT	
ユキノシタ科	Saxifragaceae						
チダケサシ	<i>Astilbe microphylla</i>	EN	EN	NT	NT		
ネコノメソウ, ミズネコノメソウ	<i>Chrysosplenium grayanum</i>	VU	VU	NT	NT		
ヤマネコノメソウ	<i>Chrysosplenium japonicum</i>	VU	VU	NT	NT		
オオコガネネコノメ	<i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>fulvum</i>	・	・	・	VU		
ウメウツギ	<i>Deutzia uniflora</i>	・	・	・	CR	VU	
シラヒゲソウ	<i>Parnassia foliosa</i>	・	・	・	CR		
ウメバチソウ	<i>Parnassia palustris</i>	・	・	EN	EN		
ヤワタソウ	<i>Peltoboykinia tellimoides</i>	・	・	・	CR		
タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>	NT	NT	NT	NT	NT	
ヤシヤビシヤク	<i>Ribes ambiguum</i>	・	・	・	CR	NT	
ヤブサンザシ	<i>Ribes fasciculatum</i>	・	・	CR	CR		
ザリコミ	<i>Ribes maximowiczianum</i>	・	・	・	CR		
ジンジソウ	<i>Saxifraga cortusifolia</i>	・	・	・	EN		
ダイモンジソウ	<i>Saxifraga fortunei</i> var. <i>alpina</i>	・	・	・	EN		
クロクモソウ	<i>Saxifraga fusca</i> var. <i>kikubuki</i>	・	・	・	CR		
イワユキノシタ	<i>Tanakaea radicans</i>	・	・	・	CR		
バラ科	Rosaceae						
チョウセンキンミズヒキ	<i>Agrimonia coreana</i>	・	EN	EN	EN	VU	
ザイフリボク	<i>Amelanchier asiatica</i>	・	・	EX	CR		
ヤブザクラ	<i>Cerasus hisauchiiana</i>	・	・	VU	VU	EN	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ブコウマメザクラ	<i>Cerasus incisa</i> var. <i>bukosanensis</i>	・	・	・	CR	EN	
エドヒガン	<i>Cerasus spachiana</i>	・	・	VU	VU		
タマノホシザクラ, ホシザクラ	<i>Cerasus tamaclivorum</i>	・	・	CR	・	CR	4
オオダイコンソウ	<i>Geum aleppicum</i>	・	・	・	VU		
リンボク	<i>Laurocerasus spinulosa</i>	・	・	VU	VU		
ズミ	<i>Malus toringo</i>	・	VU	VU	VU		
シウリザクラ	<i>Padus ssiuri</i>	・	・	・	DD		
カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	・	VU	VU	VU		
ギンロバイ	<i>Potentilla fruticosa</i> var. <i>leucantha</i>	・	・	・	CR		
ヒロハノカワラサイコ	<i>Potentilla niponica</i>	・	・	VU	VU	VU	
タカネバラ	<i>Rosa nipponensis</i>	・	・	・	CR		
エゾキイチゴ, カナヤマイチゴ	<i>Rubus idaeus</i>	・	・	・	VU		
エビガライチゴ, ウラジロイチゴ	<i>Rubus phoenicolasius</i>	・	NT	NT	NT		
サナギイチゴ	<i>Rubus pungens</i>	・	・	・	VU	VU	
コジキイチゴ	<i>Rubus sumatranus</i>	・	・	・	CR		
アイズシモツケ	<i>Spiraea chamaedryfolia</i> var. <i>pilosa</i>	・	・	・	VU		
イワシモツケ	<i>Spiraea nipponica</i>	・	・	・	VU		
カナウツギ	<i>Stephanandra tanakae</i>	・	・	EN	・		
コキンバイ	<i>Waldsteinia ternata</i>	・	・	・	CR		
マメ科	Leguminosae						
クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	VU	VU	VU	・		
ホドイモ	<i>Apios fortunei</i>	・	VU	NT	NT		
モメンヅル	<i>Astragalus reflexistipulus</i>	・	・	EX	・		
カワラケツメイ	<i>Chamaecrista nomame</i>	EX	VU	VU	VU		
ノアズキ, ヒメクズ	<i>Dunbaria villosa</i>	・	VU	VU	VU		
イワオウギ, タテヤマオウギ	<i>Hedysarum vicioides</i> subsp. <i>japonicum</i>	・	・	・	CR		
レンリソウ	<i>Lathyrus quinquenervius</i>	EX	EN	VU	VU		
キハギ	<i>Lespedeza buergeri</i>	VU	VU	○	○		
イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	VU	VU	VU	VU	VU	
マキエハギ	<i>Lespedeza virgata</i>	EX	VU	VU	VU		
タンキリマメ	<i>Rhynchosia volubilis</i>	VU	VU	・	・		
ヨツバハギ	<i>Vicia nipponica</i>	・	VU	VU	VU		
オオバクサフジ	<i>Vicia pseudo-orobus</i>	・	VU	VU	VU		
カタバミ科	Oxalidaceae						
カントウミヤマカタバミ	<i>Oxalis griffithii</i> var. <i>kantoensis</i>	EW	CR	NT	NT		
オオヤマカタバミ	<i>Oxalis obtriangulata</i>	・	・	CR	CR	VU	
フウロソウ科	Geraniaceae						
ゲンナイフウロ	<i>Geranium eriostemon</i> var. <i>reinii</i>	・	・	EX	EX		
タチフウロ	<i>Geranium krameri</i>	EX	CR	EN	EN		
アサマフウロ	<i>Geranium soboliferum</i>	・	・	・	EN	NT	
コフウロ	<i>Geranium tripartitum</i>	・	・	・	EN		
アマ科	Linaceae						
マツバニンジン, マツバナデシコ	<i>Linum stelleroides</i>	・	・	EX	・	CR	
トウダイグサ科	Euphorbiaceae						
ニシキソウ	<i>Chamaesyce humifusa</i>	NT	NT	VU	VU		
ノウルシ	<i>Euphorbia adenochlora</i>	EX	・	・	・	NT	
マルミノウルシ	<i>Euphorbia ebracteolata</i>	・	・	CR	CR	NT	
センダイタイゲキ	<i>Euphorbia sendaica</i>	EX	・	・	CR	NT	
ミカン科	Rutaceae						
オオバノキハダ, オオバキハダ	<i>Phellodendron amurense</i> var. <i>japonicum</i>	・	・	CR	CR		
ヒメハギ科	Polygalaceae						
ヒメハギ	<i>Polygala japonica</i>	VU	○	○	○		
ヒナノキンチャク	<i>Polygala tatarinowii</i>	EX	・	・	CR	EN	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ドクウツギ科	Coriariaceae						
ドクウツギ	<i>Coriaria japonica</i>	EX	EX	CR	CR		
ツリフネソウ科	Balsaminaceae						
ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>	NT	NT	○	○		
ニシキギ科	Celastraceae						
イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i>	EX	CR	EN	NT		
オオツルウメモドキ, シタキツルウメモドキ	<i>Celastrus stephanotifolius</i>	・	EN	VU	VU		
モクレイシ	<i>Microtropis japonica</i>	・	・	CR	・		
ツゲ科	Buxaceae						
ツゲ, アサマツゲ	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	・	・	・	VU		
クロウメモドキ科	Rhamnaceae						
ミヤマクマヤナギ	<i>Berchemia pauciflora</i>	・	・	・	CR		
ヨコグラノキ	<i>Berchemiella berchemiifolia</i>	・	・	・	CR		
クロカンバ	<i>Rhamnus costata</i>	・	・	・	CR		
クロツバラ	<i>Rhamnus davurica</i> var. <i>nipponica</i>	EX	CR	CR	CR		
シナノキ科	Tiliaceae						
シナノキ	<i>Tilia japonica</i>	・	CR	VU	VU		
ジンチョウゲ科	Thymelaeaceae						
チョウセンナニワズ	<i>Daphne pseudomezereum</i> var. <i>koreana</i>	・	・	・	CR	VU	
コガンピ	<i>Diplomorpha ganpi</i>	EX	CR	CR	CR		
グミ科	Elaeagnaceae						
ニッコウナツグミ, ツクバグミ	<i>Elaeagnus montana</i> var. <i>ovata</i>	・	・	・	VU		
スマレ科	Violaceae						
キバナノコマノツメ	<i>Viola biflora</i>	・	・	・	EN		
ヒゴスマレ	<i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>	・	DD	VU	VU		
サクラスマレ	<i>Viola hirtipes</i>	・	・	CR	CR		
イブキスマレ	<i>Viola mirabilis</i> var. <i>subglabra</i>	・	EX	CR	・		
シロスマレ, シロバナスマレ	<i>Viola patrinii</i>	・	・	・	CR		
タチスマレ	<i>Viola raddeana</i>	EX	EX	・	・	VU	
ナガハシスマレ	<i>Viola rostrata</i> var. <i>japonica</i>	・	・	CR	・		
ミヤマスマレ	<i>Viola selkirkii</i>	・	・	・	VU		
シコクスマレ	<i>Viola shikokiana</i>	・	・	・	VU		
エゾノアオイスミレ	<i>Viola teshioensis</i>	・	・	CR	CR		
ゲンジスマレ	<i>Viola variegata</i> var. <i>nipponica</i>	・	・	CR	CR		
シハイスミレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>violacea</i>	・	・	NT	NT		
マキノスマレ	<i>Viola violacea</i> var. <i>makinoi</i>	・	・	CR	VU		
ヒメスマレサイシン	<i>Viola yazawana</i>	・	・	・	CR		
ヒカゲスマレ, エゾコスミレ	<i>Viola yezoensis</i>	DD	CR	○	○		
ミゾハコベ科	Elatinaceae						
ミゾハコベ	<i>Elatine triandra</i> var. <i>pedicellata</i>	EX	CR	CR	CR		
ウリ科	Cucurbitaceae						
ゴキヅル	<i>Actinostemma tenerum</i>	VU	VU	CR	CR		
ミヤマニガウリ	<i>Schizopepon bryoniifolius</i>	・	・	・	VU		
ミソハギ科	Lythraceae						
エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>	EX	EX	・	DD		
ミズマツバ	<i>Rotala mexicana</i>	CR	CR	CR	CR	VU	
ヒシ科	Trapaceae						
ヒシ	<i>Trapa japonica</i>	CR	EX	・	DD		
アカバナ科	Onagraceae						
ヤナギラン	<i>Chamaenerion angustifolium</i>	・	・	EX	VU		
ミズユキノシタ	<i>Ludwigia ovalis</i>	EX	EX	EX	EX		
ミズキンバイ	<i>Ludwigia peploides</i> subsp. <i>stipulacea</i>	EX	・	・	・	VU	
アリトウグサ科	Haloragaceae						
タチモ	<i>Myriophyllum ussuriense</i>	EX	EX	・	・	NT	
フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	EX	EX	・	DD		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ウコギ科	Araliaceae						
ミヤマウド	<i>Aralia glabra</i>	・	・	・	CR		
セリ科	Umbelliferae						
イワニンジン(ノダケモドキを含む)	<i>Angelica hakonensis</i>	・	・	NT	NT		
ハナビゼリ	<i>Angelica inaequalis</i>	EX	EX	CR	EN		
エキサイゼリ	<i>Apodicarpum ikenoi</i>	EX	EX	・	・	NT	
ミシマサイコ	<i>Bupleurum falcatum</i>	・	EX	EX	EX	VU	
ホタルサイコ	<i>Bupleurum longiradiatum</i> var. <i>breviradiatum</i>	・	EN	VU	VU		
ドクゼリ	<i>Cicuta virosa</i>	EX	EX	・	DD		
シムラニンジン	<i>Pterygopleurum neurophyllum</i>	EX	EX	・	・	VU	
ムカゴニンジン	<i>Sium sisarum</i>	EX	EX	CR	DD		
ヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>nipponicum</i>	・	・	DD	DD	VU	
ヒロハヌマゼリ	<i>Sium suave</i> var. <i>ovatum</i>	EX	EX	・	・		
ミヤマウイキョウ, イワウイキョウ	<i>Tilingia tachiroei</i>	・	・	・	CR		
合弁花亜綱	SYMPETALAE						
イワウメ科	Diapensiaceae						
ヒメイワカガミ	<i>Schizocodon ilicifolius</i>	・	・	・	VU		
コイワウチワ, カントウイワウチワ	<i>Shortia uniflora</i> var. <i>kantoensis</i>	・	・	VU	NT		
イチヤクソウ科	Pyrolaceae						
ウメガサソウ	<i>Chimaphila japonica</i>	EX	EN	NT	NT		
シャクジョウソウ	<i>Monotropa hypopithys</i>	—	VU	VU	VU		
ギンリョウソウモドキ, アキノギンリョウソウ	<i>Monotropa uniflora</i>	—	VU	VU	VU		
コバノイチヤクソウ	<i>Pyrola alpina</i>	・	・	・	EN		
ベニバナイチヤクソウ	<i>Pyrola asarifolia</i> subsp. <i>incarnata</i>	・	・	・	VU		
イチヤクソウ	<i>Pyrola japonica</i>	NT	NT	○	○		
ツツジ科	Ericaceae						
サラサドウダン	<i>Enkianthus campanulatus</i>	・	・	・	NT		
ベニドウダン, チチブドウダン	<i>Enkianthus cernuus</i> f. <i>rubens</i>	・	・	・	VU		
ハナヒリノキ	<i>Leucothoe grayana</i>	・	・	・	NT		
アズマツリガネツツジ	<i>Menziesia multiflora</i> f. <i>brevicalyx</i>	・	・	・	CR		
アズマシャクナゲ	<i>Rhododendron degronianum</i>	・	・	・	VU		
レンゲツツジ	<i>Rhododendron japonicum</i>	・	EN	EN	VU		
ヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>keiskei</i>	・	・	・	VU		
ウラジロヒカゲツツジ	<i>Rhododendron keiskei</i> var. <i>hypoglaucom</i>	・	・	・	CR	CR	
アカヤシオ	<i>Rhododendron pentaphyllum</i> var. <i>nikoense</i>	・	・	・	EN		
シロヤシオ, ゴヨウツツジ	<i>Rhododendron quinquefolium</i>	・	・	・	VU		
サクランソウ科	Primulaceae						
ノジトラノオ	<i>Lysimachia barystachys</i>	EW	VU	VU	VU	VU	
サワトラノオ, ミズトラノオ	<i>Lysimachia leucantha</i>	EX	EX	・	・	EN	
ヤナギトラノオ	<i>Lysimachia thyriflora</i>	CR	・	・	・		
クサレダマ, イオウソウ	<i>Lysimachia vulgaris</i> var. <i>davurica</i>	EX	EN	EN	EN		
コイワザクラ	<i>Primula reinii</i>	・	・	・	CR	VU	
サクランソウ	<i>Primula sieboldii</i>	EX	EX	・	・	NT	
マチン科	Loganiaceae						
アイナエ	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	EX	EN	EN	EN		
リンドウ科	Gentianaceae						
コケリンドウ	<i>Gentiana squarrosa</i>	EX	EN	EN	EN		
ハルリンドウ	<i>Gentiana thunbergii</i>	EX	・	・	・		
ハナイカリ	<i>Halenia corniculata</i>	・	・	・	CR		
ホソバナツルリンドウ	<i>Pterygocalyx volubilis</i>	・	・	・	CR	VU	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
アケボノソウ	<i>Swertia bimaculata</i>	・	CR	CR	CR		
センブリ	<i>Swertia japonica</i>	EX	CR	EN	VU		
ムラサキセンブリ	<i>Swertia pseudochinensis</i>	・	EX	CR	CR	NT	
イヌセンブリ	<i>Swertia tosaensis</i>	EX	EX	・	・	VU	
ツルリンドウ	<i>Tripterospermum japonicum</i>	EX	VU	○	○		
ミツガシワ科	Menyanthaceae						
ミツガシワ	<i>Menyanthes trifoliata</i>	CR	・	・	・		
ガガブタ	<i>Nymphoides indica</i>	EX	DD	・	・	NT	
アサザ	<i>Nymphoides peltata</i>	VU	・	・	・	NT	
キョウチクトウ科	Apocynaceae						
チョウジソウ	<i>Amsonia elliptica</i>	EW	EX	・	・	NT	
ガガイモ科	Asclepiadaceae						
クサタチバナ	<i>Cynanchum ascyrifolium</i>	・	・	・	VU	NT	
フナバラソウ	<i>Cynanchum atratum</i>	・	VU	EN	EN	VU	
ツルガシワ	<i>Cynanchum grandifolium</i>	・	・	・	CR		
スズサイコ	<i>Cynanchum paniculatum</i>	EX	CR	EN	EN	NT	
ジョウシュウカモメヅル	<i>Cynanchum sub lanceolatum</i> var. <i>macranthum</i> f. <i>auriculatum</i>	EX	DD	CR	EX		
アズマカモメヅル	<i>Cynanchum sub lanceolatum</i> var. <i>sub lanceolatum</i> f. <i>albiflorum</i>	EX	EX	CR	EX		
コイケマ	<i>Cynanchum wilfordii</i>	・	EX	VU	VU		
コカモメヅル	<i>Tylophora floribunda</i>	—	—	EN	—		
アカネ科	Rubiaceae						
キクムグラ	<i>Galium kikumugura</i>	VU	—	VU	VU		
ヤブムグラ	<i>Galium niewerthii</i>	EX	CR	VU	—	VU	
ハナムグラ	<i>Galium tokyoense</i>	EX	EX	・	・	VU	
ホソバノツバムグラ	<i>Galium trifidum</i> var. <i>brevipedunculatum</i>	EX	CR	CR	EN		
ククルマムグラ	<i>Galium trifloriforme</i> var. <i>nipponicum</i>	EX	—	CR	VU		
カワラマツバ(キバナカワラマツバを含む)	<i>Galium verum</i> subsp. <i>asiaticum</i>	EX	CR	CR	CR		
フタバムグラ	<i>Hedyotis diffusa</i>	EX	EX	VU	—		
ツルアリドオシ	<i>Mitchella undulata</i>	・	CR	VU	NT		
イナモリソウ	<i>Pseudopyxis depressa</i>	・	・	VU	VU		
シロバナイナモリソウ	<i>Pseudopyxis heterophylla</i>	・	・	CR	・		
オオアカネ	<i>Rubia hexaphylla</i>	・	・	・	EN		
ヒルガオ科	Convolvulaceae						
マメダオシ	<i>Cuscuta australis</i>	EX	EX	EX	EX	CR	
ムラサキ科	Boraginaceae						
サワリソウ	<i>Ancistrocarya japonica</i>	・	・	CR	CR		
オオルソウ	<i>Cynoglossum zeylanicum</i>	・	CR	CR	CR		
ムラサキ	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EX	EX	CR	CR	EN	
ホタルカズラ	<i>Lithospermum zollingeri</i>	・	VU	VU	VU		
ヤマリソウ	<i>Omphalodes japonica</i>	・	VU	○	○		
ルリソウ	<i>Omphalodes krameri</i>	EX	EX	DD	DD		
クマツヅラ科	Verbenaceae						
カリガネソウ	<i>Caryopteris divaricata</i>	EW	CR	CR	DD		
アワゴケ科	Callitrichaceae						
ミズハコベ	<i>Callitriche palustris</i>	EX	EX	EN	EN		
シソ科	Labiatae						
カワミドリ	<i>Agastache rugosa</i>	・	EX	CR	CR		
カイジンドウ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	・	EX	EX	EX	VU	
ヒイラギソウ	<i>Ajuga incisa</i>	・	・	・	CR	EN	
タチキランソウ	<i>Ajuga makinoi</i>	・	・	・	CR	NT	
ツルカコソウ	<i>Ajuga shikotanensis</i>	EX	EX	・	・	VU	
ツクバキンモンソウ	<i>Ajuga yesoensis</i> var. <i>tsukubana</i>	・	EX	EN	EN		
タニジャコウソウ	<i>Chelonopsis longipes</i>	・	・	CR	CR	NT	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
アシタカジャコウソウ	<i>Chelonopsis yagiharana</i>	・	・	・	VU		
ミズネコノオ	<i>Eusteralis stellata</i>	CR	・	・	・	NT	
ミズトラノオ, ムラサキミズトラノオ	<i>Eusteralis yatabeana</i>	EX	EX	EX	EX	VU	
ヒキオコシ	<i>Isodon japonicus</i>	EX	EX	VU	NT		
ヤマジオウ	<i>Lamium humile</i>	・	・	・	CR		
キセワタ	<i>Leonurus macranthus</i>	EX	EX	EN	EN	VU	
シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>	VU	VU	VU	VU		
ラショウモンカズラ	<i>Meehania urticifolia</i>	EW	DD	○	○		
ヒメハッカ	<i>Mentha japonica</i>	EX	EX	・	・	NT	
シラゲヒメジソ, ヒカゲヒメジソ	<i>Mosla hirta</i>	NT	NT	NT	NT		
ヤマジソ	<i>Mosla japonica</i>	EX	EX	・	CR	NT	
トラノオジソ, レモンエゴマ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>hirtella</i>	・	・	CR	・		
キバナアキギリ	<i>Salvia nipponica</i>	NT	NT	○	○		
ミゾコウジュ, ユキミンソウ	<i>Salvia plebeia</i>	NT	NT	NT	NT	NT	
ヤマジノタツナミソウ	<i>Scutellaria amabilis</i>	EX	EX	CR	—		
オカタツナミソウ	<i>Scutellaria brachyspica</i>	EX	VU	VU	VU		
ヒメナミキ	<i>Scutellaria dependens</i>	EX	EX	EX	EX		
トウゴクシソバタツナミソウ	<i>Scutellaria laeteviolacea</i> var. <i>abbreviata</i>	・	・	VU	VU		
ナス科	Solanaceae						
イガホオズキ	<i>Physalisstrum echinatum</i>	EX	CR	NT	NT		
アオホオズキ	<i>Physalisstrum japonicum</i>	・	・	・	CR	VU	
ヤマホオズキ	<i>Physalis chamaesarachoides</i>	・	・	CR	CR	EN	
ヤマホロシ	<i>Solanum japonense</i> var. <i>japonense</i>	・	・	NT	NT		
タカオホロシ	<i>Solanum japonense</i> var. <i>takaoyamense</i>	・	・	NT	NT		
ゴマノハグサ科	Scrophulariaceae						
サワトウガラシ	<i>Deinostema violaceum</i>	EX	DD	CR	—		
アブノメ	<i>Dopatrium junceum</i>	EN	EN	VU	VU		
タチコゴメグサ	<i>Euphrasia maximowiczii</i>	・	・	CR	EN		
オオアブノメ	<i>Gratiola japonica</i>	EX	CR	・	CR	VU	
ヤマウツボ(ケヤマウツボを含む)	<i>Lathraea japonica</i>	・	・	EN	VU		
シソクサ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>	EX	CR	VU	VU		
キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>	VU	VU	VU	VU		
スズメノトウガラシ(エダウチスズメノトウガラシ, ヒロハスズメノトウガラシを含む)	<i>Lindernia antipoda</i>	EX	DD	CR	—		
クチナシグサ	<i>Monochasma sheareri</i>	EX	VU	VU	VU		
ハンカイシオガマ	<i>Pedicularis gloriosa</i>	・	・	CR	EN		
シオガマガク	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>oppositifolia</i>	EX	VU	VU	VU		
トモエシオガマ	<i>Pedicularis resupinata</i> subsp. <i>teucrifolia</i> var. <i>caespitosa</i>	・	・	・	CR		
ヒメトラノオ	<i>Pseudolysimachion rotundum</i> var. <i>petiolatum</i>	EX	EX	CR	CR		
ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i>	EX	CR	CR	CR	VU	
オオヒナノウスツボ	<i>Scrophularia kakudensis</i>	EX	EN	EN	EN		
サツキヒナノウスツボ	<i>Scrophularia musashiensis</i>	・	・	EN	VU		
オオヒキヨモギ	<i>Siphonostegia laeta</i>	・	CR	CR	CR	VU	
イヌノフグリ	<i>Veronica polita</i> subsp. <i>lilacina</i>	EN	EN	VU	VU	VU	
クガイソウ	<i>Veronicastrum japonicum</i>	・	・	・	EN		
ヒシモドキ科	Trapellaceae						
ヒシモドキ	<i>Trapella sinensis</i>	EX	・	・	・	EN	
キツネノマゴ科	Acanthaceae						
ハグロソウ	<i>Peristrophe japonica</i>	DD	—	○	○		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ハマウツボ科	Orobanchaceae						
オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i>	・	DD	VU	VU		
ハマウツボ(オカウツボを含む)	<i>Orobanche coerulescens</i>	・	CR	・	・	VU	
キヨスミウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	・	・	VU	CR		
タヌキモ科	Lentibulariaceae						
イヌタヌキモ	<i>Utricularia australis</i>	DD	DD	VU	VU	NT	
ミミカキグサ	<i>Utricularia bifida</i>	・	・	EX	・		
ヒメタヌキモ	<i>Utricularia minor</i>	EX	・	・	・	NT	
シャクジイタヌキモ	<i>Utricularia siakujiiensis</i>	EW	・	・	・		
ムラサキミミカキグサ	<i>Utricularia uliginosa</i>	・	・	EX	・	NT	
スイカズラ科	Caprifoliaceae						
ニッコウヒョウタンボク	<i>Lonicera mochidzukiana</i>	・	・	・	VU		
ハヤザキヒョウタンボク	<i>Lonicera praeflorens</i> var. <i>japonica</i>	・	・	・	EN		
ダイセンヒョウタンボク	<i>Lonicera strophiphora</i> var. <i>glabra</i>	・	・	・	VU		
カンボク	<i>Viburnum opulus</i> var. <i>calvescens</i>	・	DD	・	・		
ゴマキ, ゴマギ	<i>Viburnum sieboldii</i>	EX	VU	VU	・		
ミヤマシグレ	<i>Viburnum urceolatum</i> f. <i>procumbens</i>	・	・	・	VU		
カリヨセウツギ, ニシキビロードウツギ	<i>Weigela floribunda</i> var. <i>versicolor</i>	・	・	VU	VU		
キバナウツギ	<i>Weigela maximowiczii</i>	・	・	・	VU		
イワツクバネウツギ	<i>Zabelia integrifolia</i>	・	・	・	VU	VU	
レンブクソウ科	Adoxaceae						
レンブクソウ	<i>Adoxa moschatellina</i>	・	CR	VU	VU		
オミナエシ科	Valerianaceae						
オミナエシ	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	EX	DD	VU	VU		
キンレイカ	<i>Patrinia triloba</i> var. <i>palmata</i>	・	・	・	VU		
ツルカノコソウ	<i>Valeriana flaccidissima</i>	EX	VU	○	○		
マツムシソウ科	Dipsacaceae						
ナベナ	<i>Dipsacus japonicus</i>	EX	DD	VU	VU		
マツムシソウ	<i>Scabiosa japonica</i>	・	DD	EN	EN		
キキョウ科	Campanulaceae						
フクシマシャジン	<i>Adenophora divaricata</i>	・	・	VU	EN		
ミョウギシャジン	<i>Adenophora nikoensis</i> var. <i>petrophila</i>	・	・	・	CR		
ソバナ	<i>Adenophora remotiflora</i>	EX	DD	VU	NT		
ツルギキョウ	<i>Campanumoea javanica</i> var. <i>japonica</i>	・	・	CR	・	VU	
バアソブ, ヒメツルニンジン	<i>Codonopsis ussuriensis</i>	EX	DD	EN	CR	VU	
サワギキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>	DD	DD	VU	EN		
タニギキョウ	<i>Peracarpa carnosae</i> var. <i>circaeoides</i>	・	DD	VU	VU		
キキョウ	<i>Platycodon grandiflorum</i>	EX	CR	CR	CR	VU	
キク科	Compositae						
ノコギリソウ, ハゴロモソウ	<i>Achillea alpina</i>	EX	DD	CR	VU		
ヤマハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>margaritacea</i>	EX	CR	VU	NT		
カワラハハコ	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>yedoensis</i>	EX	VU	VU	VU		
ヤハズハハコ	<i>Anaphalis sinica</i>	・	・	EX	CR		
イヌヨモギ	<i>Artemisia keiskeana</i>	EX	EX	NT	NT		
サガミギク	<i>Aster ageratoides</i> subsp. <i>leiophyllus</i> var. <i>harae</i>	・	・	NT	NT		
タテヤマギク	<i>Aster dimorphophyllus</i>	・	・	CR	・	NT	
ヒメシオン	<i>Aster fastigiatus</i>	EX	DD	VU	・		
カワラノギク	<i>Aster kantoensis</i>	EX	CR	CR	VU	VU	
サワシロギク	<i>Aster rugulosus</i>	EX	・	EX	・		
ウラギク	<i>Aster tripolium</i>	EN	・	・	・	NT	
ハコネギク, ミヤマコンギク	<i>Aster viscidulus</i>	・	・	・	VU		
オケラ	<i>Atractylodes ovata</i>	EX	VU	○	○		
タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	CR	DD	DD	・		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
キクタニギク, アワコガネギク, アブラギク	<i>Chrysanthemum indicum</i> var. <i>boreale</i>	EX	VU	VU	VU	NT	
モリアザミ, ヤブアザミ	<i>Cirsium dipsacolepis</i>	EX	EX	VU	VU		
フジアザミ	<i>Cirsium purpuratum</i>	・	・	VU	VU		
キセルアザミ, マアザミ	<i>Cirsium sieboldii</i>	EX	EX	CR	・		
クサノオウバノギク	<i>Crepidiastrum chelidoniifolium</i>	・	・	・	CR	VU	
アズマギク	<i>Erigeron thunbergii</i>	EX	EX	EX	・		
フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i>	DD	DD	CR	CR	NT	
アキノハハコグサ	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	EX	CR	CR	CR	EN	
ヤナギタンポポ	<i>Hieracium umbellatum</i>	・	・	・	VU		
オグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	—	VU	CR	CR		
ホソバオグルマ	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>linariifolia</i>	EX	—	—	—	VU	
カセンソウ	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>	CR	CR	VU	VU		
タカネニガナ(ホソバノタカネニガナを含む)	<i>Ixeris alpicola</i>	・	・	・	EX		
タカサゴソウ	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	EX	EX	EX	・	VU	
カイトカラコウ	<i>Ligularia kaialpina</i>	・	・	・	CR		
オオモミジガサ, トサノモミジガサ	<i>Miricacalia makineana</i>	・	・	・	CR		
オクヤマコウモリ	<i>Parasenecio maximowicziana</i> var. <i>alata</i>	・	・	・	CR		
ヤマタイミンガサ, タイミンガサモドキ	<i>Parasenecio yatabei</i>	・	・	・	VU		
ナガバノコウヤボウキ	<i>Pertya glabrescens</i>	EX	○	○	○		
オオニガナ	<i>Prenanthes tanakae</i>	・	CR	CR	CR		
コウシュウヒゴタイ	<i>Saussurea amabilis</i>	・	・	・	CR		
ミヤコアザミ	<i>Saussurea maximowiczii</i>	EX	EX	CR	CR		
ヒメヒゴタイ	<i>Saussurea pulchella</i>	EX	・	CR	CR	VU	
タカオヒゴタイ	<i>Saussurea sinuatoides</i>	・	・	VU	VU		
セイタカトウヒレン, アキノヤハズアザミ	<i>Saussurea tanakae</i>	・	EX	CR	CR		
ヤハズヒゴタイ	<i>Saussurea triptera</i>	・	・	・	VU		
キクアザミ	<i>Saussurea ussuriensis</i>	・	EX	VU	VU		
コウリンカ	<i>Senecio flammeus</i> subsp. <i>glabrifolius</i>	・	・	EX	VU	VU	
オカオグルマ	<i>Senecio integrifolius</i> subsp. <i>fauriei</i>	EX	DD	CR	CR		
サワオグルマ	<i>Senecio pierotii</i>	EX	EX	・	・		
タムラソウ	<i>Serratula coronata</i> subsp. <i>insularis</i>	・	CR	CR	VU		
ハチジョウナ	<i>Sonchus brachyotus</i>	VU	・	・	・		
オナモミ	<i>Xanthium strumarium</i>	EX	EX	DD	VU	VU	
単子葉植物綱	MONOCOTYLEDONEAE						
オモダカ科	Alismataceae						
ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>	NT	NT	NT	NT		
サジオモダカ	<i>Alisma plantago-aquatica</i> var. <i>orientale</i>	EX	DD	DD	DD		
トウゴクヘラオモダカ	<i>Alisma rariflorum</i>	DD	DD	VU	DD	VU	
マルバオモダカ	<i>Caldesia parnassiifolia</i>	EX	・	・	・	VU	
アギナシ	<i>Sagittaria aginashi</i>	CR	CR	CR	DD	NT	
ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>	DD	DD	DD	DD		
トチカガミ科	Hydrocharitaceae						
スプタ	<i>Blyxa echinosperma</i>	EX	DD	EX	EX	VU	
ヤナギスプタ	<i>Blyxa japonica</i>	EX	EX	EN	・		
クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	NT	VU	VU	—		
トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i>	EX	VU	・	・	NT	
ミズオオバコ	<i>Ottelia alismoides</i>	VU	VU	VU	・	VU	
コウガイモ	<i>Vallisneria denseserrulata</i>	CR	VU	VU	VU		
セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i>	EX	EN	EN	EN		
ヒルムシロ科	Potamogetonaceae						

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
エビモ	<i>Potamogeton crispus</i>	VU	VU	VU	VU		
コバノヒルムシロ	<i>Potamogeton cristatus</i>	EX	EX	・	・	VU	
ヒルムシロ	<i>Potamogeton distinctus</i>	VU	VU	VU	VU		
センニンモ	<i>Potamogeton maackianus</i>	DD	—	DD	—		
ササバモ, サジバモ	<i>Potamogeton malaianus</i>	NT	NT	NT	NT		
オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i>	DD	—	—	—		
ホソバミズヒキモ	<i>Potamogeton octandrus</i>	—	DD	—	—		
ヤナギモ	<i>Potamogeton oxyphyllus</i>	—	NT	NT	—		
イトモ	<i>Potamogeton pusillus</i>	VU	VU	VU	・	NT	
カワツルモ	<i>Ruppia maritima</i>	EX	・	・	・	NT	
イバラモ科	Najadaceae						
イトトリゲモ	<i>Najas japonica</i>	—	—	VU	—	NT	
イバラモ	<i>Najas marina</i>	DD	—	—	—		
トリゲモ	<i>Najas minor</i>	DD	—	—	—	VU	
ユリ科	Liliaceae						
ヒメニラ, ヒメビル	<i>Allium monanthum</i>	EX	VU	VU	VU		
ヤマラッキョウ	<i>Allium thunbergii</i>	EX	VU	VU	VU		
アマナ	<i>Amana edulis</i>	VU	VU	NT	NT		
ヒロハノアマナ	<i>Amana latifolia</i>	・	VU	VU	CR	VU	
キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i>	・	CR	VU	DD		
ステゴビル	<i>Caloscordum inutile</i>	・	・	・	VU	VU	
アズマシライトソウ	<i>Chionographis japonica</i> var. <i>hisauchiana</i>	・	・	・	CR	VU	
オオチゴユリ, アオチゴユリ	<i>Disporum viridescens</i>	・	・	CR	CR		
カタクリ	<i>Erythronium japonicum</i>	VU	VU	VU	NT		
カイコバイモ	<i>Fritillaria kaiensis</i>	・	・	CR	・	EN	
ヒメアマナ	<i>Gagea japonica</i>	EX	・	・	・	EN	
キバナノアマナ	<i>Gagea lutea</i>	・	・	EN	EN		
シロバナショウジョウバカマ	<i>Heloniopsis orientalis</i> var. <i>flavida</i>	EX	・	CR	・		
ゼンテイカ	<i>Hemerocallis middendorffii</i> var. <i>esculenta</i> f. <i>esculenta</i>	・	・	・	VU		
ムサシノキスゲ	<i>Hemerocallis middendorffii</i> var. <i>esculenta</i> f. <i>musashiensis</i>	・	VU	・	・		
コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii</i> var. <i>tigrinum</i>	・	CR	VU	VU		
クルマユリ	<i>Lilium medeoloides</i>	・	・	・	VU		
ヒメマイヅルソウ, ケマイヅルソウ	<i>Maianthemum bifolium</i>	・	・	・	VU		
クルマバツクバネソウ	<i>Paris verticillata</i>	・	・	・	VU		
タカオワニグチソウ	<i>Polygonatum desoulavii</i> var. <i>azegamii</i>	・	・	CR	・		
ワニグチソウ	<i>Polygonatum involucratum</i>	VU	VU	NT	NT		
アマドコロ	<i>Polygonatum odoratum</i> var. <i>pluriflorum</i>	VU	VU	NT	NT		
ヤマトユキザサ, オオバユキザサ	<i>Smilacina hondoensis</i>	・	・	・	VU		
マルバサンキライ	<i>Smilax vaginata</i> var. <i>stans</i>	・	・	・	VU		
チシマゼキショウ	<i>Tofieldia coccinea</i>	・	・	・	CR		
ヤマジノホトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	VU	NT	NT	○		
ホトギス	<i>Tricyrtis hirta</i>	VU	VU	VU	NT		
タマガワホトギス	<i>Tricyrtis latifolia</i>	・	・	・	VU		
シュロソウ	<i>Veratrum maackii</i> var. <i>japonicum</i>	・	CR	VU	VU		
ヒガンバナ科	Amaryllidaceae						
キツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>sanguinea</i>	VU	VU	NT	NT		
オオキツネノカミソリ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>kiushiana</i>	・	・	VU	VU		
ヤマノイモ科	Dioscoreaceae						
ニガカシュウ	<i>Dioscorea bulbifera</i>	EX	VU	NT	NT		
ミズアオイ科	Pontederiaceae						
ミズアオイ	<i>Monochoria korsakowii</i>	CR	EX	EX	・	NT	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
アヤメ科	Iridaceae						
ヒオウギ	<i>Belamcanda chinensis</i>	EX	EX	EN	EN		
ノハナシヨウブ	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	CR	CR	VU	VU		
ヒメシャガ	<i>Iris gracilipes</i>	・	・	・	EN	NT	
カキツバタ	<i>Iris laevigata</i>	EN	CR	CR	・	NT	
アヤメ	<i>Iris sanguinea</i>	EX	EW	EN	EN		
イグサ科	Juncaceae						
ハナビゼキシヨウ	<i>Juncus alatus</i>	DD	VU	NT	—		
ヒロハノコウガイゼキシヨウ	<i>Juncus diastrophanthus</i>	—	NT	NT	—		
タチコウガイゼキシヨウ	<i>Juncus krameri</i>	—	VU	VU	—		
イトイ	<i>Juncus maximowiczii</i>	・	・	・	VU		
アオコウガイゼキシヨウ, ホソ バノコウガイゼキシヨウ	<i>Juncus papillosus</i>	DD	NT	NT	—		
ホソイ	<i>Juncus setchuensis</i> var. <i>effusoides</i>	NT	NT	NT	—		
ハリコウガイゼキシヨウ	<i>Juncus wallichianus</i>	・	DD	NT	—		
イヌイ	<i>Juncus yokoscensis</i>	NT	—	—	—		
スカボシソウ, クロボシソウ	<i>Luzula plumosa</i> var. <i>macrocarpa</i>	—	—	NT	—		
ホシクサ科	Eriocaulaceae						
ホシクサ	<i>Eriocaulon cinereum</i>	EN	VU	NT	VU		
コイヌノヒゲ, イトイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon decemflorum</i>	EX	EN	EN	EN		
ニッポンイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon hondoense</i>	EX	EN	EN	EN		
クロホシクサ	<i>Eriocaulon parvum</i>	—	—	CR	CR	VU	
ヒロハイヌノヒゲ	<i>Eriocaulon robustius</i>	NT	CR	VU	VU		
イネ科	Gramineae						
ヒメコヌカグサ	<i>Agrostis valvata</i>	CR	CR	—	—	NT	
セトガヤ	<i>Alopecurus japonicus</i>	NT	NT	NT	NT		
タカネコウボウ	<i>Anthoxanthum japonicum</i>	・	・	・	VU		
コウヤザサ	<i>Brachyelytrum japonicum</i>	・	・	・	VU		
ヒメアブラサスキ	<i>Capillipedium parviflorum</i>	・	DD	—	—		
フサガヤ	<i>Cinna latifolia</i>	・	・	・	VU		
ヒナザサ	<i>Coelachne japonica</i>	・	—	EX	—	NT	
コメサスキ	<i>Deschampsia flexuosa</i>	・	・	・	VU		
カリマタガヤ	<i>Dimeria ornithopoda</i>	—	VU	VU	—		
ミズタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	—	—	VU	—	VU	
ムツオレグサ, ミノゴメ	<i>Glyceria acutiflora</i>	VU	VU	NT	VU		
ウキガヤ	<i>Glyceria depauperata</i> var. <i>infirmata</i>	EX	EX	—	・		
コウボウ	<i>Hierochloa odorata</i> var. <i>pubescens</i>	NT	NT	NT	NT		
アズマガヤ	<i>Hystrix longiaristata</i>	—	—	NT	NT		
ハイチゴザサ	<i>Isachne nipponensis</i>	・	VU	VU	VU		
カモノハシ	<i>Ischaemum aristatum</i> var. <i>glaucum</i>	EX	・	・	・		
ミノボロ	<i>Koeleria pyramidata</i>	VU	NT	NT	NT		
アシカキ	<i>Leersia japonica</i>	NT	NT	NT	NT		
エゾノサヤヌカグサ	<i>Leersia oryzoides</i>	NT	NT	NT	—		
アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>	NT	—	—	—		
ササクサ	<i>Lophatherum gracile</i>	NT	NT	○	○		
ミチシバ, ハナビガヤ	<i>Melica onoei</i>	・	—	—	NT		
ヌマガヤ	<i>Moliniopsis japonica</i>	EX	EX	VU	—		
キダチノネズミガヤ	<i>Muhlenbergia ramosa</i>	VU	EX	NT	NT		
アイアシ	<i>Phacelurus latifolius</i>	VU	・	・	・		
セイタカヨシ, セイコノヨシ	<i>Phragmites karka</i>	DD	・	・	・		
ムカゴツツリ	<i>Poa tuberifera</i>	・	・	・	VU		
ヌメリグサ	<i>Sacciolepis indica</i> var. <i>oryzorum</i>	—	NT	NT	NT		
アズマザサ	<i>Sasaella ramosa</i>	—	NT	NT	○		
ヒゲシバ	<i>Sporobolus japonicus</i>	CR	EN	VU	—		
ヒロハノハネガヤ	<i>Stipa coreana</i> var. <i>kengii</i>	・	・	・	VU		
ハネガヤ	<i>Stipa pekinensis</i>	NT	○	○	○		
マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	NT	NT	VU	—		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
サトイモ科	Araceae						
ショウブ	<i>Acorus calamus</i>	VU	NT	NT	NT		
マイヅルテンナンショウ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	EX	EX	・	・	VU	
ヒメザゼンソウ	<i>Symplocarpus nipponicus</i>	・	CR	VU	VU		
ウキクサ科	Lemnaceae						
ヒンジモ	<i>Lemna trisulca</i>	EX	EX	・	・	VU	
ミクリ科	Sparganiaceae						
ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	NT	NT	NT	NT	NT	
ヤマトミクリ	<i>Sparganium fallax</i>	EX	DD	—	—	NT	
ナガエミクリ	<i>Sparganium japonicum</i>	NT	NT	NT	—	NT	
ヒメミクリ	<i>Sparganium subglobosum</i>	DD	—	DD	—	VU	
カヤツリグサ科	Cyperaceae						
ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>	NT	NT	NT	NT		
イセウキヤガラ	<i>Bolboschoenus planiculmis</i>	NT	・	・	・		
ハタガヤ	<i>Bulbostylis barbata</i>	—	—	VU	—		
イトハナビテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i>	—	NT	NT	NT		
トダスゲ	<i>Carex aequalta</i>	VU	・	・	・	CR	
ミノボロスゲ	<i>Carex albata</i>	EX	—	EX	—		
クロカワズスゲ	<i>Carex arenicola</i>	EX	—	EN	—		
マツバスゲ	<i>Carex biwensis</i>	EX	VU	NT	VU		
アワボスゲ	<i>Carex brownii</i>	VU	VU	VU	VU		
ハリガネスゲ	<i>Carex capillacea</i>	EX	・	・	・		
ジョウロウスゲ	<i>Carex capricornis</i>	・	VU	・	・	VU	
ヌマアゼスゲ	<i>Carex cinerascens</i>	EX	・	・	・	VU	
タマツリスゲ	<i>Carex filipes</i>	・	VU	VU	NT		
サナギスゲ	<i>Carex grallatoria</i> var. <i>heteroclita</i>	・	・	・	VU		
ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>	・	・	EN	NT		
ホソバヒカゲスゲ, ヒメヒカゲスゲ	<i>Carex humilis</i> var. <i>nana</i>	VU	VU	NT	NT		
ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i>	EX	DD	・	・		
イセアオスゲ	<i>Carex karashidaniensis</i>	・	・	・	VU		
アズマスゲ	<i>Carex lasiolepis</i>	・	・	・	EN		
ヒエスゲ(チュウゼンジスゲを含む)	<i>Carex longirostrata</i>	・	・	・	VU		
ヤガミスゲ	<i>Carex maackii</i>	NT	VU	VU	VU		
タチスゲ	<i>Carex maculata</i>	—	EN	EX	EX		
ヒメシラスゲ	<i>Carex mollicula</i>	・	・	VU	VU		
ヤチカワズスゲ	<i>Carex omiana</i>	EX	EX	EX	EX		
オタルスゲ, ヒメテキリスゲ	<i>Carex otaruensis</i>	・	・	EX	EX		
ホンモンジスゲ	<i>Carex pisiformis</i>	VU	VU	NT	NT		
タカネマスキサ	<i>Carex planata</i>	EX	VU	VU	VU		
タヌキラン	<i>Carex podogyna</i>	・	CR	・	・		
コウボウシバ	<i>Carex pumila</i>	NT	・	・	・		
クサスゲ	<i>Carex rugata</i>	DD	VU	VU	VU		
シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i>	VU	・	・	・		
オニナルコスゲ	<i>Carex vesicaria</i>	EX	EX	・	・		
クグ, イヌクグ	<i>Cyperus cyperoides</i>	DD	・	・	・		
カンエンガヤツリ	<i>Cyperus exaltatus</i> var. <i>iwasakii</i>	NT	NT	NT	NT	VU	
アオガヤツリ, オオタマガヤツリ	<i>Cyperus nipponicus</i>	NT	NT	NT	—		
シロガヤツリ	<i>Cyperus pacificus</i>	VU	—	—	—		
ミズハナビ, ヒメガヤツリ	<i>Cyperus tenuispica</i>	—	—	EX	—		
セイタカハリイ	<i>Eleocharis attenuata</i>	DD	NT	NT	—		
クロハリイ	<i>Eleocharis kamtschatica</i> f. <i>reducta</i>	EX	・	・	・		
ヌマハリイ, オオヌマハリイ	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	EX	・	・	・		
コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinox</i>	EX	DD	VU	—	VU	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
シカクイ	<i>Eleocharis wichurae</i>	EX	EX	NT	NT		
サギスゲ	<i>Eriophorum gracile</i>	EX	EX	EX	EX		
ノテンツキ, ヒラテンツキ	<i>Fimbristylis complanata</i>	DD	DD	—	—		
クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i>	CR	EN	VU	NT		
ナガボテンツキ	<i>Fimbristylis longispica</i>	DD	・	・	・		
イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis sieboldii</i>	NT	・	・	・		
アゼテンツキ	<i>Fimbristylis squarrosa</i>	NT	NT	NT	NT		
メアゼテンツキ	<i>Fimbristylis velata</i>	NT	NT	NT	NT		
アオテンツキ	<i>Fimbristylis verrucifera</i>	EX	DD	・	・		
コイヌノハナヒゲ	<i>Rhynchospora fujiana</i>	・	CR	CR	・		
ハタバカンガレイ	<i>Schoenoplectus gemmifer</i>	EX	・	・	・	VU	
ヒメホタルイ	<i>Schoenoplectus lineolatus</i>	—	DD	—	DD		
タタラカンガレイ	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>tataranus</i>	VU	VU	—	—		
シズイ, テガヌマイ	<i>Schoenoplectus nipponicus</i>	EX	EX	EX	EX		
コマツカサススキ	<i>Scirpus fuirenoides</i>	VU	VU	VU	NT		
マツカサススキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	VU	VU	VU	—		
コシンジュガヤ	<i>Scleria parvula</i>	・	DD	EX	DD		
ラン科	Orchidaceae						
マメヅタラン	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	・	・	・	CR	NT	
ムギラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	・	・	EN	EN	NT	
エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	VU	VU	VU	VU	NT	
キンセイラン	<i>Calanthe nipponica</i>	・	・	・	CR	VU	
ホテイラン	<i>Calypso bulbosa</i> var. <i>speciosa</i>	・	・	・	CR	EN	
ギンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>erecta</i>	VU	VU	VU	VU		
ユウシュンラン	<i>Cephalanthera erecta</i> var. <i>subaphylla</i>	EX	—	NT	NT	VU	
キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	VU	VU	VU	VU	VU	
ササバギンラン	<i>Cephalanthera longibracteata</i>	VU	NT	NT	NT		
アオチドリ	<i>Coeloglossum viride</i> var. <i>bracteatum</i>	・	・	・	VU		
コアツモリソウ	<i>Cypripedium debile</i>	・	・	CR	EN	NT	
クマガイソウ	<i>Cypripedium japonicum</i>	EX	CR	CR	CR	VU	
アツモリソウ	<i>Cypripedium macranthum</i> var. <i>speciosum</i>	・	EX	CR	CR	VU	
イチヨウラン	<i>Dactyloctenium aegyptium</i>	・	・	・	VU		
セッコク	<i>Dendrobium moniliforme</i>	・	・	VU	VU		
ハコネラン	<i>Ephippianthus sawadanus</i>	・	・	・	CR	VU	
コイチヨウラン	<i>Ephippianthus schmidtii</i>	・	・	・	CR		
エゾスズラン, アオスズラン	<i>Epipactis papillosa</i>	・	・	VU	VU		
カキラン, スズラン	<i>Epipactis thunbergii</i>	DD	VU	EN	DD		
ツチアケビ	<i>Galeola septentrionalis</i>	・	・	VU	VU		
オニノヤガラ	<i>Gastrodia elata</i>	VU	VU	NT	NT		
アキザキヤツシロラン	<i>Gastrodia verrucosa</i>	・	・	VU	・		
アケボノシュスラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>maximowicziana</i>	・	・	CR	CR		
ベニシュスラン	<i>Goodyera macrantha</i>	・	・	VU	・		
ツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>pendula</i>	・	・	・	CR		
ヒロハツリシュスラン	<i>Goodyera pendula</i> var. <i>brachyphylla</i>	・	・	・	CR	EN	
ヒメミヤマウズラ	<i>Goodyera repens</i>	・	・	・	VU		
シュスラン, ビロードラン	<i>Goodyera velutina</i>	・	・	VU	・		
テガタチドリ, チドリソウ	<i>Gymnadenia conopsea</i>	・	・	・	VU		
ミヤマモジズリ	<i>Gymnadenia cucullata</i>	・	・	・	VU		
サギソウ	<i>Habenaria radiata</i>	EX	EX	EX	EX	NT	
ミズトンボ	<i>Habenaria sagittifera</i>	・	EX	EX	EX	VU	
ムカゴソウ	<i>Herminium lanceum</i> var. <i>longicrura</i>	・	EX	・	DD	EN	
カゲロウラン	<i>Hetaeria agyokuana</i>	・	・	EX	・	NT	
ヒメノヤガラ	<i>Hetaeria sikokiana</i>	・	・	CR	・	VU	
ムヨウラン	<i>Lecanorchis japonica</i>	・	・	VU	・		
クロムヨウラン	<i>Lecanorchis nigricans</i>	・	・	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ジガバチソウ	<i>Liparis krameri</i>	EX	VU	VU	NT		
スズムシソウ	<i>Liparis makinoana</i>	・	・	VU	VU		
コクラシ	<i>Liparis nervosa</i>	VU	VU	NT	VU		
ヒメフタバラン, ムラサキフタバラン	<i>Listera japonica</i>	・	・	CR	・		
アオフタバラン	<i>Listera makinoana</i>	・	・	CR	CR		
タカネフタバラン	<i>Listera yatabei</i>	・	・	・	CR		
ホザキイチヨウラン	<i>Malaxis monophyllos</i>	・	・	・	VU		
アリドオシラン	<i>Myrmechis japonica</i>	・	・	・	EN		
フウラン	<i>Neofinetia falcata</i>	・	・	CR	・	VU	
サカネラン	<i>Neottia nidus-avis</i> var. <i>mandshurica</i>	・	・	CR	CR	VU	
ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	CR	EX	・	・	EN	
ヨウラクラン	<i>Oberonia japonica</i>	DD	VU	VU	・		
カモメラン	<i>Orchis cyclochila</i>	・	・	・	CR	NT	
ウチョウラン	<i>Orchis graminifolia</i>	・	・	・	CR	VU	
コケイラン	<i>Oreorchis patens</i>	・	・	EX	CR		
ジンバイソウ	<i>Platanthera florentii</i>	・	・	・	EN		
ミズチドリ	<i>Platanthera hologlottis</i>	・	EX	EX	EN		
ツレサギソウ	<i>Platanthera japonica</i>	・	EX	EN	EN		
ヤマサギソウ	<i>Platanthera mandarinorum</i> var. <i>brachycentron</i>	・	・	VU	VU		
キソチドリ	<i>Platanthera ophrydioides</i> var. <i>monophylla</i>	・	・	・	NT		
オオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i> var. <i>sachalinensis</i>	・	・	・	VU		
オオバナオオヤマサギソウ	<i>Platanthera sachalinensis</i> var. <i>hondoensis</i>	・	・	・	VU	CR	
コバノトンボソウ	<i>Platanthera tipuloides</i> var. <i>nipponica</i>	・	・	EX	・		
トキシソウ	<i>Pogonia japonica</i>	・	・	EX	EX	NT	
ヤマトキシソウ	<i>Pogonia minor</i>	・	DD	・	EN		
マツラン, ベニカヤラン	<i>Saccolabium matsuran</i>	・	・	CR	CR	VU	
モミラン	<i>Saccolabium toramanum</i>	・	・	・	CR	VU	
カヤラン	<i>Sarcochilus japonicus</i>	EX	CR	VU	VU		
クモラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	EX	EX	CR	CR		
ヒツボクロ	<i>Tipularia japonica</i>	・	・	VU	VU		
イヌマムカゴ	<i>Tulotis iinumae</i>	・	・	CR	・	EN	
トンボソウ	<i>Tulotis ussuriensis</i>	・	DD	VU	VU		
ハクウンラン	<i>Vexillabium nakaianum</i>	・	・	CR	CR		
キバナノショウキラン	<i>Yuania amagiensis</i>	・	・	VU	VU	EN	

種子植物の分類体系は日本で普及しているEnglerの分類体系を採用し、被子植物は主にMelchior (1964)、裸子植物はPilger & Werdermann (1954) に従った。シダ植物は岩槻 (1992) による。なお、科内の種名の配列は学名のアルファベット順とした。

H. Melchior, 1964. A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.2, Angiospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

R. Pilger & E. Werdermann, 1954. Gymnospermae. In: H. Melchior & E. Werdermann, A. Engler's Syllabus der Pflanzenfamilien, 12th edition, Vol.1, Allgemeiner Teil Bakterien bis Gymnospermen. Gebrüder Borntraeger, Berlin.

岩槻邦男編, 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社.

【備考】

- 1: 環境省ランクは、ヒメタデがVU、ホソバユスデがNT。
- 2: 栽培、あるいは栽培からの逸出の可能性に注意する。
- 3: 区部で、現在生育しているものが自生であると認められる。
- 4: ホシザクラの名は江戸時代から栽培されていたヤマザクラの栽培品種の名称に用いられてきた経緯がある。ここで取り上げるホシザクラはこの栽培品種とは別であり、名称の混乱を避けるために、川崎哲也画大場秀章編『サクラ図譜』(2010年、アボック社刊)で提唱された、タマノホシザクラを本リストでも採用することにした。

2. 哺乳類

【選定・評価方法の概要】

検討対象種は、東京都で生息が確認されているか、明治時代頃まで都内に生息していた記録がある在来の陸生哺乳類のうち、地域によって絶滅したか絶滅のおそれのある可能性があるものとした。

絶滅のおそれの評価は、基本的に定量的要件を用い、CR（絶滅危惧ⅠA類）とEN（絶滅危惧ⅠB類）も区別した。ただし、IUCN（2003）による「地域レベルでレッドリスト基準を適用する場合のガイドライン」（Guidelines for Application of IUCN Red List Criteria at Regional Levels, Version3.0）を参考にして、ある地域の生息状況が絶滅危惧カテゴリーの数値基準に当てはまる場合でも、その地域で増加しているか、隣接地域に普通に生息する種については、ランクを1ないし2段階下げて評価した。なお哺乳類では、本土部全体としての評価は行っていないが、4地域のなかで絶滅のおそれが最も低いランクで代表させることができると考えた。検討対象種は、前回（1998年版）の掲載種の31種に10種を加え、前回掲載種のカゲネズミはスミスネズミと同一種とみなし、合計40種とした。検討対象種の増加は調査や既存資料探索が進んだため、絶滅したオオカミとカワウソの2種が加わったほか、新たに生息確認されたものが7種あり、そのうち特にコウモリ類が5種と多い。在来種では、このほかにタヌキがいるが、レッドリストのいずれのランクにも該当しないと考えられたことから、唯一検討対象種から除外した。タヌキを含め、現在都内で生息が確認されている在来種の数、地域別にみると西多摩（39）、南多摩（27）、北多摩（13）、区部（8）の順に多い（カッコ内は種数）。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、いずれかの地域において絶滅またはそのおそれがある種（絶滅（EX）、絶滅危惧ⅠA類（CR）、絶滅危惧ⅠB類（EN）、絶滅危惧Ⅱ類（VU）、情報不足（DD）のどれかに該当する種）は、全体で28種、準絶滅危惧（NT）を含めると35種が選定された。このほかに留意種としてのみ選定されたものが2種（アズマモグラ、アカネズミ）、どのカテゴリーにも該当せずリストに掲載されないものが3種（イエコウモリ、ニホンジカ、スミスネズミ）、タヌキを含めると4種となった。

区部ではカワネズミ、ヒメネズミなど絶滅種が19種ときわめて多い。これは岸田久吉（1934）による昭和初期の調査記録（大東京の哺乳動物に就て. *Lanzania*, 6(52):17-30）に基づいている。かつては低地においても豊かな自然が存在したことが示され、区部における生態系復元の目標を考えるうえでも重要な情報である。北多摩地域については情報が乏しく、「データ無し」となった種が多い。この地域にはもともと山地性の種は少ないと考えられるが、ヒメネズミやコウモリ類の一部は生息の可能性があるものの調査データはない。南多摩地域は、高地性の種を欠くものの多くの種が生息しているが、準絶滅危惧（NT）、情

報不足 (DD) まで含めると現在生息する 27 種中 10 種 (37.0%) が何らかのランクに該当している。西多摩地域は、関東山地にみられるほぼすべての哺乳類が確認されている一方で、絶滅危惧種 (EN、VU) が 5 種 (現生種の 12.8%)、準絶滅危惧 (NT) が 13 種 (33.3%) あり、東京都の生物多様性保全上重要な地域であることが示されている。なお、高地性のミズラモグラ、ヤチネズミなどは、高標高地の小面積でしか確認されていないが、隣接県に広く分布することを考慮して、直ちに絶滅のおそれが高いとは評価せず、準絶滅危惧 (NT) とした。

基準が異なるので単純に比較することはできないが、西多摩地域で前回 (1998 年版) の評価からカワネズミやリス科 3 種のランクが下がったのは、生息状況が改善されたというより、調査が進んで分布情報が増加したためと考えられる。一方、西多摩地域のイノシシとニホンジカは、分布域の拡大、個体数の増加がみられたことからランク外とした。

留意種についてみると、区部のアズマモグラとアカネズミは、この地域にみられる数少ない野生哺乳類であり、現在のところ絶滅のおそれが高いとは言えないが、開発の進行とともに気づかぬうちに広範囲から消失する可能性があり、比較的良好な環境が保たれていることを指標する種としても注目される。南多摩地域のムササビは、開発の進行によって生じた孤立個体群がみられ、保護担保されている場所があるものの、今後の動向に注意が必要であることから選定した。

(石井 信夫)

哺乳類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
モグラ目(食虫目)	INSECTIVORA						
トガリネズミ科	Soricidae						
シントウトガリネズミ	<i>Sorex shinto</i>	・	—	DD	NT		1
カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephala</i>	EX	—	VU	NT		
ニホンジネズミ	<i>Crocidura dsinezumi</i>	EX	—	○	○		
モグラ科	Talpidae						
ヒメヒミズ	<i>Dymecodon pilirostris</i>	・	・	—	NT		
ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	EX	NT	○	○		2
ミズラモグラ	<i>Euroscaptor mizura</i>	・	・	—	NT	NT	1
アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	*1	○	○	○		
コウモリ目(翼手目)	CHIROPTERA						
キクガシラコウモリ科	Rhinolophidae						
キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	EX	—	—	DD		
コキクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>	EX	—	—	NT		1
ヒナコウモリ科	Vespertilionidae						
モモジロコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>	EX	—	—	NT		1
モリアブラコウモリ	<i>Pipistrellus endoi</i>	・	・	—	VU	EN	
ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i>	EX	—	—	NT	NT	
ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i>	VU	—	NT	NT		3, 4
ウサギコウモリ	<i>Plecotus auritus</i>	EX	—	—	NT		
テングコウモリ	<i>Murina hilgendorfi</i>	EX	—	VU	NT		
コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i>	・	—	VU	NT		
サル目(霊長目)	PRIMATES						
オナガザル科	Cercopithecidae						
ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	・	・	NT	NT		5
ネコ目(食肉目)	CARNIVORA						
イヌ科	Canidae						
キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	EX	EN	○	○		
オオカミ	<i>Canis lupus</i>	・	・	・	EX	EX	
クマ科	Ursidae						
ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i>	・	・	CR	EN		6
イタチ科	Mustelidae						
テン	<i>Martes melampus</i>	EX	—	○	○		
イタチ	<i>Mustela itatsi</i>	NT	NT	○	○		
オコジョ	<i>Mustela erminea</i>	・	・	・	VU	NT	
アナグマ	<i>Meles meles</i>	EX	NT	○	○		
カワウソ	<i>Lutra lutra</i>	EX	EX	EX	EX	EX	
ウシ目(偶蹄目)	ARTIODACTYLA						
イノシシ科	Suidae						
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	EX	—	○	○		
ウシ科	Bovidae						
カモシカ	<i>Capricornis crispus</i>	・	・	・	VU		
ネズミ目(齧歯目)	RODENTIA						
リス科	Sciuridae						
ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	EX	EN	○	○		
ムササビ	<i>Petaurista leucogenys</i>	EX	DD	*2	○		
ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i>	EX	—	NT	○		
ネズミ科	Muridae						
ヤチネズミ	<i>Eothenomys andersoni</i>	・	・	・	NT		
ハタネズミ	<i>Microtus montebelli</i>	NT	NT	○	○		7
カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	EX	EN	VU	VU		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	*3	○	○	○		
ヒメネズミ	<i>Apodemus argenteus</i>	EX	—	○	○		
ヤマネ科	Gliridae						
ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i>	.	—	NT	○		
ウサギ目(兎目)	LAGOMORPHA						
ウサギ科	Leporidae						
ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	DD	VU	○	○		

和名、学名、配列は、阿部永(監), 2008. 日本の哺乳類 改定2版. 東海大学出版社. に準拠した。

【備考】

- 1: 西多摩では生息地面積が限られるが、減少傾向がみられないことからNTとした。
- 2: 北多摩では生息地面積が限られるが、減少傾向がみられないことからNTとした。
- 3: 区部では個体数の増加傾向がみられることから、環境省判定基準よりランクを1段階下げた。
- 4: 南多摩および西多摩では生息数が限られるが、減少傾向がみられないことからNTとした。
- 5: 南多摩および西多摩では個体数の増加傾向がみられること、隣県における個体群の安定状況から、環境省判定基準よりランクを南多摩で1段階、西多摩で2段階下げた。ただし、管理手法によっては絶滅のおそれが高まる。
- 6: 西多摩では隣県における個体群の安定状況から、環境省判定基準よりランクを1段階下げた。
- 7: 区部および北多摩では出現範囲が限られるが、減少傾向がみられないことからNTとした。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	アズマモグラ	区部	現在は広く分布し、当面の絶滅のおそれはないが、孤立化した個体群が多く、広範囲から消失するおそれがあるため。
*2	ムササビ	南多摩	地域全体として絶滅のおそれはないが、一部地域で孤立化が進み、消失するおそれがあるため。
*3	アカネズミ	区部	当面の絶滅のおそれはないが、生息は一部地域に限られ、環境改変や孤立化によって消失するおそれがあるため。

3. 鳥類

【選定・評価方法の概要】

鳥類は、東京都の本土部で記録のある種の中から、生息数や生息地域が限られる種を検討対象種として合計 178 種を抽出し、これらの生息状況を精査して、ランクを判定した。判定にあたっては定量的要件を用いたが、生息状況についての把握が十分ではない種については、定性的要件により評価を行った。

鳥類は移動能力が大きいいため、本来の生息地から大きく離れて移動し、偶発的に記録される迷行記録や、安定した生息とはならない不定期記録も多く存在する。このような種は「非分布」として扱った。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は合計で 162 種となり、前回のリストと比較して大幅な増加となった。これは、環境省基準の採用により、定量的なデータを精査した結果によることもあるが、開発や土地利用の変化も要因と考えられる。一方、データの精査の結果、主要な生息地でないといった理由により「非分布」として除外された種もある。

また、絶滅した鳥類の判定には困難が伴った。日本国内全般において、明治期に狩猟のため大型鳥類が大きく減少し、東京地域についてもトキやコウノトリ、ツル類やハクガンなどの生息が消失したと思われる。しかし、これらの記録の精査は困難であるため、日本野鳥の会（1975）による「東京の鳥－東京都産鳥類目録－」の記載を元に、1930 年代以降に定常的な生息がなくなった種とした。繁殖していた種については、繁殖の記録消失によって絶滅とした。

現時点では絶滅のおそれはないが、特定の生息地への集中が強いスズガモ、カンムリカイツブリについては、環境条件の変化により生息状況が急変する可能性があるため、注意喚起のため留意種とした。

絶滅危惧（CR、EN、VU）と判定された種を目別に見ると、チドリ目が 41 種と最も多いほか、カイツブリ目やサギ目、ツル目（クイナ科）といった干潟や湿地を生息環境とする鳥類が多い。また、キジ目の鳥やスズメ目内でも、オオヨシキリやオオジュリンなど湿性草地（ヨシ原）、ヒバリやモズなど草地性の鳥が多く含まれ、湿地や草地環境の減少や悪化が、絶滅のおそれを増大させていることを示唆している。

タカ目、フクロウ目の捕食性鳥類が合わせて 21 種となったことは、食物となる生物が全体的に減少していることを示唆している。

スズメ目の中では、国外から渡ってくる夏鳥が 20 種も含まれる。都内の生息環境の変化だけでなく、越冬地や中継地の環境変化などの影響を受けている可能性がある。

地域別にみると、区部が絶滅のおそれの高い種がもっとも多い。開発が進み、鳥類の生息環境条件の悪化が大きく進行しているといえる。特に湾岸部の干潟や湿地に生息する鳥

類が本リストに多く挙げられた。1970年代に埋め立てが進行し、1980年代から1990年代前半には埋立地が自然湿地の代替機能をもっていたが、その後土地利用が進み、現在、野鳥の生息地は東京港野鳥公園や葛西海浜公園などごく一部に限られる。内陸部も畑や未利用地が減り、宅地化や都市化が進んで緑地が減少している。北多摩地域も区部に続き宅地化や都市化が進行し、緑地が減少している。南多摩地域は、丘陵地が多く比較的良好な鳥類生息環境が残っている地域だが、宅地化は進行している。西多摩地域は山地帯が多く、リストには山林性の種が多い。三多摩地域は水鳥の生息地となっている多摩川を含むため、シギ・チドリ類がリストに多く含まれる結果となった。

絶滅のおそれをもたらしている原因としては、特に湿地や草地環境が失われるなど生息環境の減少および悪化が主要なものと考えられる。

(金井 裕)

鳥類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
キジ目	GALLIFORMES						
キジ科	Phasianidae						
ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>	CR	CR	CR	CR	VU	
ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	・	DD	EN	VU		
キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	EN	VU	NT	NT		
カモ目	ANSERIFORMES						
カモ科	Anatidae						
ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	EX	・	・	・	VU	
マガン	<i>Anser albifrons</i>	EX	・	・	・	NT	
オシドリ	<i>Aix galericulata</i>	EN	VU	VU	NT	DD	
ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	CR	CR	CR	CR		
アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>	EN	EN	EN	EN		
シマアジ	<i>Anas querquedula</i>	DD	・	・	・		
トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	CR	CR	CR	・	VU	
スズガモ	<i>Aythya marila</i>	*1	・	・	・		
ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>	DD	・	・	・		
クロガモ	<i>Melanitta americana</i>	DD	・	・	・		
ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>	VU	VU	VU	NT		
ミコアイサ	<i>Mergellus albellus</i>	EN	VU	VU	NT		
ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	DD	・	・	・		
カイツブリ目	PODICIPEDIFORMES						
カイツブリ科	Podicipedidae						
カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	NT	NT	NT	NT		1
アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>	NT	NT	・	・		
カムムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	*2	NT	DD	・		
ハト目	COLUMBIFORMES						
ハト科	Columbidae						
シラコバト	<i>Streptopelia decaocto</i>	CR	CR	・	・	EN	
アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	・	NT	NT	NT		
ペリカン目	PELECANIFORMES						
サギ科	Ardeidae						
サンカンゴイ	<i>Botaurus stellaris</i>	CR	・	・	・	EN	
ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>	CR	EN	VU	VU	NT	
オオヨシゴイ	<i>Ixobrychus eurhythmus</i>	CR	・	・	・	CR	
ミゾゴイ	<i>Gorsachius goisagi</i>	・	VU	EN	VU	VU	
ササゴイ	<i>Butorides striata</i>	CR	EN	VU	VU		
ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	VU	NT	NT	NT		1
チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	VU	VU	NT	NT	NT	
コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	VU	NT	NT	NT		1
トキ科	Threskiornithidae						
クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	CR	・	・	・	EN	
ツル目	GRUIFORMES						
クイナ科	Rallidae						
クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	DD	EN	NT	NT		
ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	CR	EN	EN	EN	NT	
バン	<i>Gallinula chloropus</i>	VU	VU	VU	VU		
オオバン	<i>Fulica atra</i>	VU	VU	VU	VU		1
カッコウ目	CUCULIFORMES						
カッコウ科	Cuculidae						
ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	・	・	・	NT		
ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	・	・	NT	NT		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	・	・	NT	NT		
カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	・	VU	NT	NT		
ヨタカ目	CAPRIMULGIFORMES						
ヨタカ科	Caprimulgidae						
ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	・	CR	CR	EN	NT	
アマツバメ目	APODIFORMES						
アマツバメ科	Apodidae						
アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	・	・	・	DD		
ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis</i>	VU	NT	NT	NT		1
チドリ目	CHARADRIIFORMES						
チドリ科	Charadriidae						
タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>	VU	VU	VU	VU		
ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>	VU	VU	VU	VU	DD	
ムナグロ	<i>Pluvialis fulva</i>	VU	VU	VU	VU		
ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	VU	VU	VU	VU		
イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>	DD	VU	VU	VU		
コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	VU	VU	VU	VU		1
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	VU	VU	VU	VU	VU	
メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	NT	DD	・	・		
ミヤコドリ科	Haematopodidae						
ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	EN	DD	・	・		
セイタカシギ科	Recurvirostridae						
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	EN	EN	EN	・	VU	
シギ科	Scolopacidae						
ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	VU	VU	VU	VU		
アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	・	DD	DD	DD		
オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	VU	VU	VU	VU	NT	
チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>	DD	DD	DD	・		
タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>	VU	VU	VU	VU		
オオハシシギ	<i>Limnodromus scolopaceus</i>	CR	・	・	・		
オグロシギ	<i>Limosa limosa</i>	EN	VU	VU	・		
オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>	EN	・	・	・	VU	
チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	VU	VU	VU	VU		
ダイシャクシギ	<i>Numenius arquata</i>	CR	・	・	・		
ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	CR	・	・	・	VU	
ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	CR	DD	DD	・	VU	
アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>	EN	・	・	・	VU	
コアオアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>	EN	・	・	・		
アオアシシギ	<i>Tringa nebularia</i>	NT	NT	NT	NT		
クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>	EN	VU	VU	VU		
タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	EN	VU	VU	VU	VU	
キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	VU	VU	VU	VU		
ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>	VU	VU	VU	VU		
イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	VU	VU	VU	VU		
キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	VU	VU	VU	VU		
オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	EN	・	・	・		
コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>	CR	・	・	・		
ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>	EN	・	・	・		
トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	NT	VU	VU	VU		
オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>	VU	VU	VU	・		
ヒバリシギ	<i>Calidris subminuta</i>	VU	VU	VU	・		
ウズラシギ	<i>Calidris acuminata</i>	VU	VU	VU	・		
サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>	CR	・	・	・		
ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	NT	VU	VU	VU	NT	
ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>	CR	・	・	・	CR	
キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>	CR	DD	DD	・		
エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>	CR	DD	DD	・		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>	NT	NT	NT	NT		
ハイイロヒレアシシギ	<i>Phalaropus fulicarius</i>	NT	NT	NT	・		
タマシギ科	Rostratulidae						
タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	EN	EN	EN	EN	VU	
カモメ科	Laridae						
コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	EN	CR	EN	EN	VU	
タカ目	ACCIPITRIFORMES						
ミサゴ科	Pandionidae						
ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	EN	EN	EN	DD	NT	
タカ科	Accipitridae						
ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	・	CR	CR	CR	NT	
トビ	<i>Milvus migrans</i>	NT	VU	NT	NT		
チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>	EN	VU	VU	・	EN	
ハイイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>	DD	DD	DD	・		
ツミ	<i>Accipiter gularis</i>	CR	CR	VU	VU		
ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	EN	VU	VU	VU	NT	
オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	CR	EN	VU	VU	NT	1
サシバ	<i>Butastur indicus</i>	・	CR	CR	CR	VU	
ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	EN	VU	VU	VU		
クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>	・	VU	CR	CR	EN	
フクロウ目	STRIGIFORMES						
フクロウ科	Strigidae						
オオコノハズク	<i>Otus lempiji</i>	・	CR	CR	EN		
コノハズク	<i>Otus sunia</i>	・	CR	CR	EN		
フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	CR	EN	EN	VU		
アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>	CR	EN	EN	VU		
トラフズク	<i>Asio otus</i>	CR	EN	EN	VU		
コミミズク	<i>Asio flammeus</i>	CR	EN	EN	VU		
ブッポウソウ目	CORACIIFORMES						
カワセミ科	Alcedinidae						
アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	・	CR	CR	CR		
カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	VU	NT	NT	NT		1
ヤマセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	・	VU	VU	VU		
ブッポウソウ科	Coraciidae						
ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	・	CR	CR	CR	EN	
キツツキ目	PICIFORMES						
キツツキ科	Picidae						
アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	EN	NT	NT	NT		
アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	・	NT	NT	NT		
オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	・	VU	VU	VU		
タカ目	FALCONIFORMES						
ハヤブサ科	Falconidae						
チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	EN	VU	VU	VU		
コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	DD	DD	DD	DD		
チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	DD	DD	DD	DD		
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	EN	VU	VU	CR	VU	
スズメ目	PASSERIFORMES						
ヤイロチョウ科	Pittidae						
ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	・	・	・	CR	EN	
サンショウクイ科	Campephagidae						
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	・	CR	CR	CR	VU	
カササギヒタキ科	Monarchidae						
サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	EX	VU	VU	VU		
モズ科	Laniidae						
チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>	EX	CR	CR	CR	CR	
モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	VU	VU	NT	NT		
アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	CR	CR	CR	CR	EN	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
カラス科	Corvidae						
ホシガラス	<i>Nucifraga caryocatactes</i>	・	・	・	VU		
キクイタダキ科	Regulidae						
キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	・	NT	NT	NT		
シジュウカラ科	Paridae						
ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>	VU	NT	○	○		
ヒバリ科	Alaudidae						
ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	VU	VU	VU	NT		1
ツバメ科	Hirundinidae						
コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	VU	VU	NT	NT		
ウグイス科	Sylviidae						
ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	・	VU	VU	NT		
ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	NT	NT	○		
エナガ科	Aegithalidae						
エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	・	NT	○	○		
ムシクイ科	Phylloscopidae						
メボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	・	・	・	VU		
エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	・	・	・	VU		
センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	・	VU	VU	VU		
センニュウ科	Locustellidae						
オオセッカ	<i>Locustella pryeri</i>	CR	・	・	・	EN	
ヨシキリ科	Acrocephalidae						
オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	VU	VU	VU	NT		
コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	EN	NT	NT	NT		
ゴジュウカラ科	Sittidae						
ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	・	・	EN	NT		
キバシリ科	Certhiidae						
キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	・	・	・	NT		
ミソサザイ科	Troglodytidae						
ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	・	NT	NT	NT		
カワガラス科	Cinclidae						
カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	・	・	VU	NT		
ヒタキ科	Muscicapidae						
マミジロ	<i>Zoothera sibirica</i>	・	・	・	VU		
トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	VU	VU	VU	VU		
クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	・	NT	NT	NT		
コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>	・	・	・	VU		
コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	・	・	・	NT		
イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	DD	NT	NT	NT		
サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	・	・	・	VU		
コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	EX	VU	VU	EN		
オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	・	VU	NT	NT		
イワヒバリ科	Prunellidae						
イワヒバリ	<i>Prunella collaris</i>	・	・	・	NT		
カヤクグリ	<i>Prunella rubida</i>	・	NT	NT	NT		
セキレイ科	Motacillidae						
セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	VU	NT	NT	NT		
アトリ科	Fringillidae						
ハギマシコ	<i>Leucosticte arctoa</i>	・	・	DD	NT		
オオマシコ	<i>Carpodacus roseus</i>	・	・	DD	NT		
イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>	・	NT	NT	NT		
ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	VU	VU	NT	NT		
ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	NT	NT	NT	NT		
イカル	<i>Eophona personata</i>	NT	NT	NT	NT		
ホオジロ科	Emberizidae						
コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i>	DD	DD	DD	・	VU	
ノジコ	<i>Emberiza sulphurata</i>	・	・	・	DD	NT	

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	NT	NT	NT	NT		
オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	NT	NT	NT	NT		

和名、学名、配列は、日本鳥学会目録編集委員会(編), 2012. 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会. に準拠した。

【備考】

1:主に繁殖状況を評価した。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	スズガモ	区部	生息数は多いが、東京湾内では市川・船橋沖と葛西沖に集中している。特定の場所への集中は、病気の発生など生息保全上のリスクがあるので、生息場所の拡散状況や病気・事故の発生がないか留意する必要があるため。
*2	カンムリカイツブリ	区部	かつては生息数が少なかった。近年は生息数が大きく増加しているが、大部分の個体が葛西海浜公園周辺海上に集中している。特定の場所への集中は、病気の発生など生息保全上のリスクがあるので、生息場所の拡散状況や病気・事故の発生がないか留意する必要があるため。

4. 爬虫類

【選定・評価方法の概要】

東京都産（本土部）の爬虫類は外来種を除き 14 種であり、その内訳はカメ類 3 種、トカゲ類 3 種、ヘビ類 8 種の合計 14 種である。検討対象種はこれら 14 種全てとした。

絶滅のおそれの評価は、基本的に定性的要件を用いた。東京都産の爬虫類に関しては、分布、生息状況に関する客観的データが極めて少なかったため、他の専門研究者の助言を受けて評価作業を行った。

【選定・評価結果の概要】

評価作業の結果、全 14 種が本レッドリストの掲載種に選定された。クサガメについては、最新の研究により国内の個体群は古い時代の移入種の可能性が非常に高いことが示唆されているが、現時点では判断が困難である。そのため、今回は「情報不足」(DD)とした。

ニホンイシガメについては、以前からのペット用販売状況などを考慮すると、多くが放逐個体であると考えられる。しかし、分布域を全て細かく調査することが難しく、在来個体との見分けが極めて困難であるのが現状である。環境保全の観点からいえば、累代的繁殖地域などが発見された場合はその個体群の由来に関係なく、その周辺も含めた環境が高く評価されなくてはならない。このようにニホンイシガメに関しては総合的な判断から評価した。

ニホンヤモリは、以前は区部で最も多く広範囲に生息していた種で、シナントロープ*の代表ともいえる生物であったが、区部では明らかに分布域と個体数に減少傾向が見られる。理由の 1 つに建築物の構造が大きく変化し、古い人家などがなくなったことが容易に想像がつく。その他には主なエサとなる昆虫類の種数や個体数の変化や減少が考えられる。ニホンヤモリは同じシナントロープのアオダイショウ（幼蛇）のエサとなることが知られているので、区部のアオダイショウの変化とも関係していると考えられる。また以前には分布していなかったとされる南多摩地域、西多摩地域でも度々観察されており、明らかに分布を広げている。ニホンヤモリを捕食する可能性があるシロマダラなどのヘビ類の個体数や分布に変化が出るか留意する必要がある。そのため、ニホンヤモリを留意種としてとりあげた。

ニホンカナヘビとニホントカゲに関しては 2 種間で生息環境の違いが知られているが、区部をはじめ多くの地域でニホンカナヘビが好む、陽当たりの良い草原が著しく少なくなり、かつてはどこにでも普通に生息していたニホンカナヘビも、一般的に考えられているほど個体数は多くないと考えられる。それは陽当たりの良い草原と隣接した石垣やガレキ場、それらをふくむ斜面などを好むニホントカゲにも言えることである。

ヘビ類については、区部で生息環境の悪化が見られ、特にタカチホヘビなど極めて乾燥に弱い種は特殊性を持った一部の地域を除いて、その生息状況はほぼ壊滅的と考えられる。

その他の地域でもシマヘビ、ヤマカガシなど以前は普通に見られた種も著しく減少し、とくにヤマカガシの減少には注目すべきである。その 1 つの原因として考えられるのは、水田の急速な減少であるように思える。

またマムシに関しては、以前は区部でも確かな目撃例があったが、現在ではほぼ無くなっている。生息密度が高いといわれていた南多摩地域、西多摩地域でも、一般的に考えられているほど個体数が多かったとは思えない。近県の似たような生息環境と比較しても明らかに少なく思える。一因に、マムシは水辺を好む種であるために、水辺（水田）の減少が関係しているのかもしれない。

この生物群は東京都（本土部）では、その多くの種が極めて深刻な状況であると考えられる。

爬虫類はイノシシを主とした雑食性の大型哺乳類の増加により直接的または間接的なダメージを受けやすく、短期間で個体数を激減させる可能性がある。イノシシの他には外来種のアライグマも被害を与えられられる。

また、スッポンではシナスッポンとの交雑が、ニホンイシガメ、クサガメでは、お互いは無論、特にアジア産淡水ガメとの交雑が容易に行われるため注意を要する。

* シナントロフ Synanthrope 「人とともに」といった意味の造語で、人間の住居や生活環境を巧みに利用し、繁殖し、利益を得ている生物のことを指す。代表的な生き物として、スズメ、ツバメ、一部のゴキブリの仲間、クマネズミ、ドブネズミなどがある。

（長坂 拓也）

爬虫類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
カメ目	TESTUDINES						
イシガメ科	Geoemydidae						
ニホンイシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	CR	CR	CR	CR	NT	1
クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i>	DD	DD	DD	DD		1
スッポン科	Trionychidae						
ニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis japonicus</i>	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	DD	1
トカゲ目	SQUAMATA						
ヤモリ科	Gekkonidae						
ニホンヤモリ	<i>Gekko japonicus</i>	VU	*1	*1	*1		
トカゲ科	Scincidae						
ニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>	CR+EN	VU	VU	NT		
カナヘビ科	Lacertidae						
ニホンカナヘビ	<i>Takydromus tachydromoides</i>	VU	VU	NT	NT		
ナミヘビ科	Colubridae						
ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	CR	CR	VU	NT		
タカチホヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>	DD	—	VU	NT		
アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	NT	NT	NT	NT		
シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	CR	VU	NT	NT		
ヒバカリ	<i>Amphiesma vibakari vibakari</i>	VU	VU	NT	NT		
シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>	CR+EN	DD	VU	NT		
ヤマカガシ	<i>Rhabdophis tigrinus tigrinus</i>	CR	VU	VU	VU		
クサリヘビ科	Viperidae						
ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	CR	CR	CR+EN	EN		

種名と配列は、日本爬虫両棲類学会による日本産爬虫両生類標準和名(2009年12月6日改訂案)に従った。ただしニホンスッポンについては、環境省版レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)(2006年改訂)(報道発表資料)に準じて、亜種名を表記した。

【備考】

1:放流された移入個体も生息しているが、ここでは在来個体群のみを評価対象とした。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	ニホンヤモリ	北多摩	急速に都市化が進んでおり、すみかとなる古い家屋などに変化が生じるなどして、本種の生息環境が悪化する可能性があるため。
		南多摩	
		西多摩	

5. 両生類

【選定・評価方法の概要】

東京都には2目6科8属15種の在来両生類の生息が確認されている。今回の改定では、15種すべてを検討対象種として、文献調査および実地調査に基づいて生息状況を把握するように努めた。その際、分布域の特定や個体群密度の推定が可能な種については、定量的要件を用い、それが難しい種では定性的要件で評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

サンショウウオ目では前回（1998年版）同様、4種すべてが本レッドリストの掲載種となった。絶滅危惧ⅠA類（CR）と判定されたのはトウキョウサンショウウオ（北多摩地域）とアカハライモリ（区部）の2種2地域であった。西多摩地域のヒダサンショウウオとハコネサンショウウオ以外はすべて前回と比べランクが上昇した。カエル目では今回新たにニホンアマガエルが加わり、東京都に生息している在来カエル類11種すべてが掲載種となった。

今回の改定では、1998年版と比較して多くの種と地域でランクが上昇した。詳細なデータが利用できるトウキョウサンショウウオで、この10年間の傾向を概観してみよう。彼らの主な繁殖場である谷戸田の耕作が放棄され乾燥化が進んだ結果、この10年間で繁殖場の約20%が消失し、さらに生き残った繁殖場でも個体群サイズの縮小が進み、東京都全体で総産卵メスの個体数は40%弱減少したと推定された。同じ止水で繁殖するアカハライモリでも状況は変わらないか、むしろ生息地や個体数の減少は前者より激しいかもしれない。それに対して、西多摩地域の山地溪流で繁殖するヒダサンショウウオやハコネサンショウウオでは一部の地域を除き大きな変化は見られていない。

カエル目では水田に生息する種類のランクに大きな変化があった。例えば、前回ランク外であったニホンアマガエルは、今回、西多摩地域で準絶滅危惧（NT）、南多摩地域と北多摩地域で絶滅危惧Ⅱ類（VU）、区部で絶滅危惧ⅠB類（EN）と評価された。他にも水田に生息する種のランクが上がっている。この理由は、最近10年間の都内における水田面積の減少によるものである。一方、水田に依存しない種、例えば、山地溪流性のカジカガエルやタゴガエルなどのランクは前回とそれほど変化しなかった。

地域区分ごとにみると、区部では河川敷や水辺公園がおもな生息地になっている。しかし、いずれの生息地も小規模で孤立している。さらに、以前は良好と考えられていた生息地の多くにウシガエルが侵入し、在来種に悪影響を及ぼしている。特に水辺から離れないツチガエルやトウキョウダルマガエルは壊滅的な影響を受けている。今回、区部においてはツチガエルの確実な繁殖場所を確認することができなかった。なお、区部では都外から持ち込まれた複数種のカエル類の生息が確認されている。このうち、ニホンヒキガエルについてはアズマヒキガエルとの交雑が懸念される。また、サンショウウオ目で唯一区部

に生息するアカハライモリについては、信頼できる生息情報がなく、すでに絶滅した可能性も否定できない。

北多摩地域は区部に次いで生息環境が減少している。水田の減少率は4地域区分の中で最も高いうえ、都市化が急速に進んで緑地も減少している。モリアオガエルを除き、前回Cランク*であった種はすべて絶滅危惧Ⅱ類(VU)以上となった。なお、ツチガエルとカジカガエルは前回「非分布」とされたが、その後の調査で分布が確認され、今回の改定でランクが付けられた。狭山丘陵にはトウキョウサンショウウオが現在も生息するが、この地域内の丘陵部の産卵場は10か所以下で、いずれも孤立化し、繁殖個体数も極めて少ないため、絶滅リスクが他の地域に比べても高いと考えられる。

南多摩地域は丘陵地に水田が残されており、北多摩地域と比較すると環境が維持されている。しかし、水田の減少や耕作放棄が各所で見られ、両生類の生息環境は悪化している。八王子市西部のヒダサンショウウオの生息環境は現在良好な環境とは決して言えず、生息分布の縮小が続いている。特に高尾山周辺では最近20年間程生息情報がない。

西多摩地域ではハコネサンショウウオやナガレタゴガエルなどの山地性の両生類は前回と同程度のランクに留まった。しかしながら、丘陵部から平地の止水で繁殖する種に関しては他の地域区分と同様、厳しい評価となった種も多い。トウキョウサンショウウオの基準産地であるあきる野市・日の出町の丘陵部では谷戸田の乾燥化が進み、この10年間で多くの産卵場が消失した。カエル目では前回ランク外であった水田依存の種が準絶滅危惧(NT)などに位置付けられた。

*1998年当時環境庁レッドデータブックの「希少種」に相当

(福山 欣司・草野 保)

両生類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	
サンショウウオ目	CAUDATA					
サンショウウオ科	Hynobiidae					
トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	・	CR	EN	EN	VU
ヒダサンショウウオ	<i>Hynobius kimurae</i>	・	・	EN	NT	NT
ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>	・	・	・	NT	
イモリ科	Salamandridae					
アカハライモリ	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	CR	EN	EN	EN	NT
カエル目	ANURA					
ヒキガエル科	Bufonidae					
アズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>	NT	○	○	○	
アマガエル科	Hylidae					
ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>	EN	VU	VU	NT	
アカガエル科	Ranidae					
タゴガエル	<i>Rana tagoi tagoi</i>	・	・	VU	NT	
トウキョウダルマガエル	<i>Rana porosa porosa</i>	CR	EN	EN	VU	NT
ツチガエル	<i>Rana rugosa</i>	CR	CR	CR	VU	
ナガレタゴガエル	<i>Rana sakuraii</i>	・	・	VU	NT	
ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	EN	EN	EN	VU	
ヤマアカガエル	<i>Rana ornativentris</i>	—	EN	EN	NT	
アオガエル科	Rhacophoridae					
シュレーゲルアオガエル	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	CR	VU	VU	NT	
モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>	・	NT	NT	NT	
カジカガエル	<i>Buergeria buergeri</i>	・	VU	VU	NT	

種名と配列は、日本爬虫両棲類学会による日本産爬虫両生類標準和名(2009年12月6日改訂案)に従った。

6. 淡水魚類

【選定・評価方法の概要】

東京都の淡水魚類の生息水域は、主に江戸川・隅田川を含む旧利根川水系と、荒川水系、多摩川水系、鶴見川水系源流部、および神田川、目黒川を始めとする小規模河川群とそれらに付随する湧水池や溜池からなる。なお、ここでいう淡水魚は純淡水魚のほか、通し回遊魚^{*1}や汽水魚^{*2}を含んでいる。

旧利根川水系と荒川水系は河川形態Bc型^{*3}の下流域と感潮域^{*4}からなり、両岸には切り立ったコンクリート護岸が施されている。河口部には局所的に干潟や人工干潟が形成されており、狭いながらも汽水魚の生息水域となっている。近年は下水道の整備により水質の改善が進み、下流域・河口域ともに魚類層に回復の兆しが認められる。

多摩川水系は、Aa型^{*3}の源流部から感潮域まで多様な河川環境を持つ都内唯一の水系であるが、多数のダムや堰などの河川横断構造物によって河道が分断されているために、河川環境の連続性は絶たれている。

淡水魚類の検討対象種は、前回（1998年版）の掲載種の37種に4種を加えた41種とし、絶滅のおそれの評価は、基本的に定性的要件を用いた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、13科38種が本レッドリストの掲載種に選定された。このうち5種は留意種としてのみ選定された。

奥多摩湖より上流の渓流域にはヤマメ、イワナ、カジカ、アブラハヤ、ウグイなどの生息域がまだ広く存在するが、河床の荒廃により自然繁殖は困難に陥っている水域が多い。現在見られるヤマメやイワナの多くは種苗放流によって維持されている個体群であり、天然個体群はごく限られた水域に残存するのみである。

奥多摩湖下流から日原川合流までの多摩川は、河川流量が非常に少なく、魚類層も貧弱である。日原川の合流点から羽村堰までは清冽な水が確保されており、ヤマメやウグイ、カジカなどが生息しているが、河床のアーマー化^{*5}が進んで河川環境の多様性が乏しいので、魚類の生息数も限られている。

羽村堰から下流は、この堰からの水道水の取水により下流の河川流量が極端に少なくなる。さらに下流の多摩大橋付近からは下水処理水が放流されて河川流量は増加するが、水温や水質が大きく変化するために魚類相や底生動物相は大きく変化する。以前は農繁期限定で羽村堰から毎秒2トンの灌漑用水が下流へ放水されていたが、10年ほど前から環境維持用水として年間を通じて毎秒2トンが流されるようになり、冬季の生息環境は改善されている。

田園調布取水堰より下流の感潮域は、下水道の整備や環境維持用水の確保などにより水質は高度経済成長期と比較して大幅に改善している。また、田園調布取水堰が平成18年よ

りアユの遡上期に合わせて堰が開放されるようになったことにより、堰の上流に堆積していた土砂が河口域に供給されて河口の干潟が復活した。これらの環境変化を反映し、河口域における汽水魚の出現種数や生息数は近年増加傾向にある。

このように、多摩川水系の淡水魚の生息状況は近年好転傾向にある。一方で、比較的水質汚染に強い魚種として、中流域ではウグイ、ギンブナ、モツゴ、河口域ではボラ類、マルタ、マハゼなどが増えている。

また、多摩川水系では、外来種の侵入が影響を及ぼしている。国内外来種としては、近年、ムギツク、オヤニラミ、スゴモロコなどアユ種苗に混入しにくい魚種の侵入が目立っている。一方、国外外来種も、かつてはカダヤシやオオクチバスなど放流目的の明確な種が多かったが、最近ではグッピーやプレコなどの観賞魚が多くなり、平成15年くらいからはコクチバスやガーパイクなど外来種への食害が懸念される種が増える傾向にある。生息確認種数は国内・国外外来種の合計で既に200種を超え、外来種数よりもはるかに多い。

多摩川以外の河川でも、下水道等の整備によって昭和60年前後を境に水質の改善が進み、荒川、江戸川、多摩川の下流域や多くの小規模河川では、平成15年頃よりアユやウキゴリ類などの回遊魚の遡上が顕著に回復し、野川や善福寺川などではアブラハヤやギバチなど比較的きれいな水を好む淡水魚の姿も見られるようになった。

以上のように、都内の淡水魚類の生息状況は近年大きく改善され、種の多様性も高まる傾向にある。ただし、これは下水道等の整備や、一部の河川で実施されている高度処理水を利用した流量の確保に依存している。

多摩川や荒川などの大規模河川では、ダムや堰などの河川横断工作物が多数設置されている。これらの工作物には人工魚道が設置されていないか、設置されていても機能的に充分とは言い難いため、ハゼ類を中心とする多くの回遊魚は生息できる水域が実質的に中下流域のごく一部に限定されている。

*1 川と海を往来する回遊を行う魚。

*2 河川の河口部周辺など、淡水と海水が混合する汽水域を主な生息場とする魚。

*3 可児藤吉による河川区分で、Bc型とは1蛇行区間に瀬と淵が一つずつあり、瀬と淵の落差が小さくて瀬から淵へ波立たずに流れ込む場合をいう。Aa型とは1蛇行区間に瀬と淵が複数あり、瀬と淵の落差が大きい場合をいう。

*4 河川の下流部で海洋の潮汐変動に応じて水位変動が起こる区間。

*5 上流からの細粒の砂礫の供給が減少して河床の表面から細粒の砂礫が失われ、それによって河床が大粒径の石だけからなるようになること。

(丸山 隆・山崎 充哲)

淡水魚類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧 I A類 [EN]絶滅危惧 I B類 [CR+EN]絶滅危惧 I 類 [VU]絶滅危惧 II 類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
ヤツメウナギ目	PETROMYZONTIFORMES						
ヤツメウナギ科	Petromyzontidae						
スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>	CR	CR	EN	EN	VU	
ウナギ目	ANGUILLIFORMES						
ウナギ科	Anguillidae						
ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	VU	VU	VU	VU	EN	
コイ目	CYPRINIFORMES						
コイ科	Cyprinidae						
キンブナ	<i>Carassius auratus</i> subsp. 2	CR+EN	VU	VU	VU	VU	
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	EX	EX	—	—	CR	1
ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	EX	EX	DD	DD	NT	1
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	EX	EX	EX	—	EN	1
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira</i> subsp. 1	EX	—	—	EX	EN	1
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	EX	EX	EX	—	CR	1
アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	VU	VU	NT	CR		2
マルタ	<i>Tribolodon brandti</i>	*1	*1	*1	・		
シナイモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila pumila</i>	EX	—	—	—	CR	
カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	NT	NT	NT	NT		
ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	NT	NT	NT	NT		
ドジョウ科	Cobitidae						
シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>	VU	VU	VU	NT		
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	CR+EN	CR+EN	VU	VU	EN	
ナマズ目	SILURIFORMES						
ギギ科	Bagridae						
ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>	CR	VU	VU	VU	VU	
ナマズ科	Siluridae						
ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	*2	*2	*2	*2		
サケ目	SALMONIFORMES						
シラウオ科	Salangidae						
イシカワシラウオ	<i>Salangichthys ishikawae</i>	*3	・	・	・		
サケ科	Salmonidae						
ニッコウイワナ	<i>Salvelinus laucomaenis pluvius</i>	・	・	・	CR	DD	
サクラマス(降海型), ヤマメ(陸封型)	<i>Oncorhynchus masou masou</i>	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	NT	
トゲウオ目	GASTEROSTEIFORMES						
トゲウオ科	Gasterosteidae						
ムサシトミヨ	<i>Pungitius</i> sp.	EX	EX	・	・	CR	
ボラ目	MUGILIFORMES						
ボラ科	Mugilidae						
メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i>	NT	*4	・	・		
ダツ目	BELONIFORMES						
メダカ科	Adrianichthyidae						
メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	CR+EN	CR+EN	CR+EN	CR+EN	VU	3
カサゴ目	SCORPAENIFORMES						
カジカ科	Cottidae						
カジカ(カジカ大卵型; 河川陸封型)	<i>Cottus pollux</i>	*5	CR+EN	CR+EN	VU	NT	
スズキ目	PERCIFORMES						
ハゼ科	Gobiidae						
トビハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	CR	・	・	・	NT	
ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i>	DD	DD	DD	—		
シロウオ	<i>Leucopsarion petersii</i>	DD	・	・	・	VU	
ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	VU	・	・	・		

和名	学名	東京都ランク				環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩		
エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>	VU	・	・	・	VU	
ビリンゴ	<i>Gymnogobius castaneus</i>	NT	—	—	・		
ジュズカケハゼ	<i>Gymnogobius laevis</i>	VU	VU	VU	VU	EN	
アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>	*6	・	・	・		
マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	VU	・	・	・	VU	
ヒメハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>	NT	・	・	・		
アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>	NT	・	・	・		
スジハゼ	<i>Acentrogobius pflaumii</i>	NT	・	・	・		
ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	*7	*7	*7	NT		
チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>	*8	*8	*8	—		

和名、学名、配列は、中坊徹次(編), 2000. 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. 東海大学出版会. に準拠した。

【備考】

- 1: 稀に鑑賞用の遺棄個体などが採れることがある。
- 2: 西多摩では国内外来種のタカハヤの侵入によって、交雑または種間競争による置き換わりが生じている可能性がある。
- 3: 放流された移入個体は多数生息しているが、ここでは在来個体群のみを評価対象とした。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	マルタ	区部 北多摩 南多摩	かつて減少したが、水質改善に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表す。ただし、魚道が機能なくなると遡上出来なくなり、繁殖できなくなるため引き続き留意する必要があるため。
*2	ナマズ	区部 北多摩 南多摩 西多摩	現状では絶滅のおそれは少ないが、産卵場所や仔稚魚の生育場所となる環境が減少しており、今後の動向に留意する必要があるため。
*3	イシカワシラウオ	区部	一時期は絶滅したと考えられるが、堰の開放による底質改善及び水質改善に伴って近年確認されるようになってきた。ただし、堰が閉まると再び絶滅する可能性が高いことから、今後の動向に留意する必要があるため。
*4	メナダ	北多摩	堰が出来たことによって減少したが、環境配慮による魚道の整備や堰の開放によって近年回復している。ただし、堰が閉まると減少する可能性が高いことから、今後の動向に留意する必要があるため。
*5	カジカ(カジカ大卵型; 河川陸封型)	区部	かつて生息数・生息水域ともに減少したが、水質・底質改善に伴って区部まで分布が拡大し、自然の回復状況を表すため。ただし区部のものは繁殖はしていない。
*6	アシシロハゼ	区部	かつて激減したが、河口干潟の保全に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため。
*7	ヌマチチブ	区部 北多摩 南多摩	堰が出来たことによって減少したが、環境配慮による魚道の整備や堰の開放によって近年回復している。ただし、堰が閉まると減少する可能性が高いため、今後の動向に留意する必要があるため。
*8	チチブ	区部 北多摩 南多摩	かつて減少したが、水質・底質改善に伴って増加傾向にあり、自然の回復状況を表すため。

7. 昆虫類

今日、地球上に分布する昆虫の分類別の目による種類数は、『日本動物大百科 昆虫Ⅱ・Ⅲ』（1997・1998, 平凡社）によると次のように推定されている。多いものから順に 1. コウチュウ目約 37 万種、2. チョウ目約 20 万種、3. ハチ目約 12 万種以上、4. ハエ目約 11 万種で、おそらくこれは昆虫類が熱帯原産で降雨林の中で多様化したという事実からの推定と思われる。温帯の日本ではまだ種類のすべてがわかっていないが、上述の種数の比に準じているものと考えられる。

東京都においても昆虫の種数は非常に多く、今回の評価は委員が専門としている目毎に担当し、記録文献の選択と種ごとのランクの判定にあたった。しかし、この作業は困難を極めた。客観的な評価を行うためには、過去から現在に至る各種の分布、生息状況、その変化の把握が不可欠である。隣接する埼玉県、神奈川県、千葉県では、1990 年代以降、相次いで県単位の昆虫誌や目録が作成され、地域博物館や同好会誌などにも多くの資料や記録が集積されているために、その概要を知ることができる。しかし、東京都においては、皇居など、限定された場所についてのまとまった報告は見られるが、比較的最近のものとして広域を対象としたものは、ごく限られていた。

そのため、定量的評価をしようにも情報量そのものが少なく、定性的評価しかできない場合が多々あった。結果として、定量的要件と定性的要件の両方を用いて評価を行った。

また、前回（1998 年版）の選定種の中には、分布の根拠となる文献・情報を収集できなかったものもあるが、これらについては今回収集した文献や情報を優先して評価を行った。今回の評価に際しても、分布・生息の可能性が十分考えられるものの当該地域の記録が見当たらなかったものが少なくないが、これらは「データ無し」として扱った。

また、地域区分ごとの情報量の差が大きく、評価できない地域が多くあることが想像されたため、区部、北多摩、南多摩、西多摩の 4 地域区分に加えて、本土部全体のランクをつけた。なお、本土部全体の評価は、当然のことだが全体的な知見からの評価であるため、各地域のランクとは必ずしも整合しないが、本土部全体の傾向を示しているため、各地域のランクの使用にあたっては、地域ごとの評価だけでなく本土部全体の傾向にも配慮する必要がある。

(矢島 稔)

(1) トンボ目

【選定・評価方法の概要】

東京都本土部のトンボ目は古くから記録されており、すでに1932年には目録が作成されている（奥村定一, 1932. 東京産蜻蛉目目録. 昆虫, 5(5):209-215.）。現在までに、東京都本土部から記録されたトンボ目は90種（明らかな偶産種*を除く）である。これは全国的にも上位に位置する種数であり、面積的に狭小なことを考えると、種多様性の極めて高い地域であることがうかがえる。しかし、他の分類群同様、高度成長期以降の大規模開発や生活様式の変化に伴い、多くの種で衰亡が見られ、現存種数や生息状況から見た場合、今や全国的に最も貧弱な地域の1つとなってしまっている。特に区部や隣接する北多摩の一部にしか記録のないオオセスジイトトンボ、コバネアオイトトンボ、メガネサナエ、マダラヤンマ、ベッコウトンボ、オオキトンボなどの種では、その多くが絶滅状態となっている。また、東京で得られた材料を基に記載されたものとして、オオモノサシトンボ（葛飾区水元）、グンバイトンボ（三鷹市井の頭）があるが、どちらも東京からの確実な記録が途絶えて久しい。

比較的最近のものとしては、皇居（友国雅章・斎藤洋一, 2000. 皇居のトンボ, 国立科学博物館専報, (36):7-18.、斎藤洋一・大和田守・加藤俊一・井上繁一, 2006. 皇居のトンボ類モニタリング調査(2001-2005). 国立科学博物館専報, (43):383-406.）など、限定された場所についてのまとまった報告が見られる。一方、広域を対象としたものは大森武昭（1983. 多摩川水系のトンボ相とその生態. とうきゅう環境浄化財団（一般）研究助成, (31):1-56+PL12.）や、1990年代から都立稲城高校、南多摩高校の部活動として行われ、各部報等（例えば、都立稲城高校野外活動部・都立南多摩高校生物部, 1997. 多摩川水系の流水性トンボ調査. 東京トンボ研究会資料.）に報告されている一連の調査程度で、どちらも多摩川水系流域を対象としており、都レベルとしてはまとまったものはまったくない状況である。しかし、トンボ目は関心の高い分類群であることから、個々の報告や情報は比較的多く、それらを丹念に拾い集めることによって、区市町村別レベル程度の分布や記録の変遷などの情報を一定程度把握することが可能であった。

そのため、今回は、より客観的な評価の試みとして、定量的要件による判定を試みた。基本となるのは既知生息地数に対する現存生息地数であり、これによって算出される減少率に、生息条件や個体群の維持に重要と考えられる5つの補正項の数値を加えた補正減少率を基にランクを決定した。絶滅危惧I類のランクについては、絶滅危惧IA類（CR）と絶滅危惧IB類（EN）を区別した。過去の記録は戦前のもも含めて採用した。生息地の定義については基本的に区市町村とし、詳細が明らかになっている一部の種については具体的な生息（記録）地数を用いた。また、一部において現地調査も行った。同様の評価手法はすでに愛知県と神奈川県で試みられており、今回用いた定義や判定基準等についてはそれらを参考として決定した。

定量的評価を行うためにはより多くの確実な情報を収集する必要があるため、日本蜻蛉学会員を中心とした方々に未発表記録や生息状況、文献資料などの提供をして頂いた。

検討対象種は、1998年版に掲載されている67種に、今回新たに検討対象として12種を加えた79種とし、これらについて評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、59種が本レッドリストの掲載種に選定された。基本的に定量的判定による数値によってランク付けをおこなったが、区市町村レベルでは減少が見られない一方で、個々の生息地レベルでの減少が著しい種や、十分な情報が収集できなかった一部の種については、定性的要件を用いて最終的なランクを決定したものもある。また、当然のことだが、絶滅危惧に該当するかどうかで判定したため、記録がごく少ないなど希少性が高くとも、現状として生息環境・状況が安定的であると判断された種や、増加傾向にある種についてはランク外とした。

地域区分別では、区部で何らかのランク付けがなされ他地域よりランクが高くなった種、次いで北多摩地域でランク付けがなされた種が多い。これは区部や北多摩地域での生息環境の改変の方が南多摩地域や西多摩地域より大きいことを示している。このような種も南多摩地域や西多摩地域では比較的健在な場合があり、これによって該当地域や本土部全体ではランクが低い、またはランク外となった種もある。しかし、これは、その地域にしか安定的な生息地が残されていないことや、生息環境の改変に脆弱であることを示しているため、ランク外だからといってまったく配慮しなくともよいということではない。

一方、池沼性の種については、区部の方が他地域に比べてランクが低くなったものがみられる。これは生息環境としての池沼が区部に多く、公園などに組み入れられて残されているのに対し、多摩地域には元来少なく、現在では極めて限られていることに起因するものである。

なお、近年になって、明らかに人為的な放虫に由来すると判断されるものや、その可能性が強く疑われる記録や個体群も存在している。これらについては、確実性の高いものは評価から除外した。

*その地域では定着していないと判断される種。台風や季節風などによって偶発的に飛来する種などが該当する。

(須田 真一)

トンボ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
トンボ目(蜻蛉目)	ODONATA							
イトトンボ科	Coenagrionidae							
モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i>	EX	CR	CR	CR	CR	NT	
ヒヌマイイトトンボ	<i>Mortonagrion hirosei</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
キイトトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i>	EN	CR	NT	EN	EN		
ベニイトトンボ	<i>Ceriagrion nipponicum</i>	VU	—	—	—	VU	NT	
ムズジイトトンボ	<i>Cercion sexlineatum</i>	○	DD	DD	・	○		
セスジイトトンボ	<i>Cercion hieroglyphicum</i>	CR	CR	○	○	EN		
オオイトトンボ	<i>Cercion sieboldii</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
オオセスジイトトンボ	<i>Cercion plagiosum</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
モノサシトンボ科	Platycnemidae							
グンバイトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	EX	EX	EX	・	EX	NT	
モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	DD	DD	DD	DD	DD		
オオモノサシトンボ	<i>Copera tokyoensis</i>	CR	・	・	・	CR	EN	
アオイトトンボ科	Lestidae							
アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	○	VU	○	NT	NT		
コバネアオイトトンボ	<i>Lestes japonicus</i>	EX	・	・	・	EX	EN	
オツネイトトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>	EN	VU	NT	NT	VU		
ホソミオツネイトトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	NT	VU	NT	○	NT		
カワトンボ科	Calopterygidae							
アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i>	EX	EX	EN	VU	EN	NT	
ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i>	VU	○	○	○	○		
アサヒナカワトンボ	<i>Mnais pruinosa</i>	—	—	○	○	○		
ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	EX	CR	VU	—	EN		
ムカシヤンマ科	Petaluridae							
ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i>	・	VU	EN	EN	EN		
サナエトンボ科	Gomphidae							
メガネサナエ	<i>Stylurus oculatus</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
ナゴヤサナエ	<i>Stylurus nagoyanus</i>	DD	・	・	・	DD	VU	
ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	EX	EN	VU	VU	EN		
キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i>	EX	EX	CR	—	CR	NT	
ホンサナエ	<i>Gomphus postocularis</i>	CR	VU	NT	NT	VU		
コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i>	CR	CR	CR	EN	CR		
ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>	EX	○	○	○	○		
ヒメサナエ	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	EX	・	○	○	○		
アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	EX	VU	VU	NT	VU		
オナガサナエ	<i>Onychogomphus viridicostus</i>	NT	NT	○	○	○		
コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>	NT	○	○	○	○		
ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	○	NT	VU	VU	NT		
オニヤンマ科	Cordulegasteridae							
オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	NT	○	○	○	○		
ヤンマ科	Aeschnidae							
サラサヤンマ	<i>Oligoaeschna pryeri</i>	CR	EN	EN	VU	EN		
コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	EX	CR	VU	VU	EN		
ミルンヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>	DD	DD	○	○	○		
アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	EN	DD	—	DD	EN	NT	
ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	CR	DD	DD	—	CR	NT	
カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>	CR	CR	VU	VU	EN		
マダラヤンマ	<i>Aeshna mixta soneharai</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i>	・	—	NT	NT	NT		
オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna nigroflava</i>	・	—	DD	DD	DD		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
エゾトンボ科	Corduliidae							
トラフトンボ	<i>Epithea marginata</i>	CR	EX	—	—	CR		
エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiaenea</i>	EX	CR	—	CR	CR		
ハネヒロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i>	EX	—	—	DD	DD	VU	
タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>	・	DD	○	○	○		
コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena</i>	DD	EN	NT	NT	NT		
キロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	・	・	EX	・	EX	NT	
トンボ科	Libellulidae							
ハラヒロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>	VU	VU	NT	NT	NT		
シオヤトンボ	<i>Orthetrum japonicum</i>	VU	VU	○	○	NT		
ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>	EN	EN	VU	VU	EN		
ベッコウトンボ	<i>Libellula angelina</i>	EX	EX	EX	—	EX	CR	
ハッコウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	—	—	—	—	EX		1
ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	VU	○	○	○	○		
マイコアカネ	<i>Sympetrum kumckeli</i>	NT	DD	DD	DD	VU		
ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i>	DD	DD	NT	NT	VU		
リスアカネ	<i>Sympetrum risi</i>	NT	○	○	○	○		
キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>	EX	EX	EX	DD	DD		
オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i>	EX	EX	—	—	EX	EN	
チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>	NT	VU	NT	NT	NT		

和名、学名は、杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司, 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑, 北海道大学図書刊行会. に準拠した。ただし、カワトンボ属2種については、二橋亮, 2007. カワトンボ属の最新の分類学的知見, 昆虫と自然42(9)4-7. に従った。また、科や種の配列に関しては、石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊, 1988. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説, 東海大学出版会. に従った。

【備考】

1: 東京都における記録は「東京府産」とされる標本写真1例だけであり、具体的な記録が不明である。そのため、地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。

(2) カマキリ目・バッタ目

【選定・評価方法の概要】

カマキリ目とバッタ目は、共に直翅系昆虫に属する分類群であること、解説に共通する部分が多いことなどの理由により、ここでまとめて扱う。

東京都本土部のカマキリ目・バッタ目は古くから記録されている。例えば東京府（1938. 武蔵野昆虫誌, 194+28pp.）には武蔵野地域の目録が掲載されており、平山修次郎（1933. 原色千種昆虫図譜. 三省堂, 東京. 186pp. +104PL.、1937. 続原色千種昆虫図譜. 三省堂, 東京. 194pp. +88PL.）の図版にも多くの東京産の標本が図示されている。その中には全国的にも近年まったく記録のないアカハネバッタのような種も含まれており、往時の種構成や生息環境の多様性をうかがい知ることができる。しかし、他の分類群同様、高度成長期以降の大規模開発や生活様式の変化に伴い、クツワムシやクルマバッタなど、過去には各地で記録されていた普通種が消えていく一方、アオマツムシやヒメクダマキモドキのように、分布域、個体数共に増加し、勢力を増している外来種や暖地性の種もみられる。比較的近年のものとしては、皇居（山崎柄根, 2000. 皇居で見られた直翅系昆虫. 国立科学博物館専報, (36):19-27.）など、限定された場所についてのまとまった報告は見られるが、広域を対象としたものは、バッタ目では和田一郎（1995. 東京の直翅目. ぱったりぎす, (103):46-65.、2001. 東京 23 区内の直翅類. 寄せ蛾記, (103):40-49.）による報文のみであり、カマキリ目では見出せなかった。このように評価に資する基礎的なデータが極めて不足しているのが現状である。そのため、今回の評価はすべて定性的要件によって行い、入手できた文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考として、一部、現地調査も実施した。

絶滅危惧 I 類のランクについては、絶滅危惧 IA 類 (CR) と絶滅危惧 IB 類 (EN) を区分した。過去の記録はさかのぼれるものについては戦前のものも含め採用した。

カマキリ目は今回新たに評価対象とした分類群であり、3 種を検討対象種として評価を行った。バッタ目については、1998 年版に掲載されている 22 種に、今回新たに検討対象とした 7 種を加えた 29 種について評価を行った。

なお、評価にあたっては、多くの方から未発表記録や生息状況などについて多数提供していただいた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、カマキリ目は検討対象種の 3 種全てが、バッタ目では 28 種が本レッドリストの掲載種に選定された。

評価にあたっては、過去から現在にいたる減少度合いを基本とし、生息環境の脆弱性、分布範囲などの情報も加味してランクを決定した。当然のことだが、絶滅危惧に該当するかどうかで判定したため、記録がごく少ないなど、希少性が高くとも、現状として生息環

境・状況が安定的であると判断された種や、増加傾向にある種についてはランク外とした。全般にわたって「情報不足」(DD)、あるいは「データ無し」と評価されたものが多いが、これは基礎的な情報が極めて不足していることによるものである。

今回、絶滅危惧種のCR、EN、VUとなった種についてみると、河川敷に生息あるいは残存している種が多い。これはエゾエンマコオロギやカワラバッタなど礫河原に固有な種にとっては、河川敷が唯一の生息環境となっていること、面積的にも連続した緑地が維持されていること、出水などのかく乱によって、様々な植生や環境が創出されることによる。しかし、河川敷においてもすでに危機的となっている種が多いことは、生息環境としての質がすでに劣化していることを示している。

なお、バッタ目については近年、分類学的な再検討が盛んに行われ（日本直翅類学会編, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会. 687pp.）、複数種に分割されたものや、新たに記載された種が多い。その中にはイズササキリやコガタカンタンなど、東京都から記録されているものもあるが、これらについては分布や生息状況の把握が十分でないために、今回は検討対象種としなかった。また、オオオカメコオロギ、チョウセンカマキリなど、確実な記録があまりにも少なく、生息状況（特に近年）が不明なために評価が困難な種、ヤマトマダラバッタなど、記録は存在するものの、その真偽が不明なものについても同様の扱いとした。さらにスズムシ、マツムシ、ヒガシキリギリスなどでは、飼育個体の逸出や人為的な放虫に由来すると強く疑われる記録や個体群が存在しており、これらについても確実性の高いものは評価の対象から外した。

(須田 真一)

カマキリ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
カマキリ目(螳螂目)	MANTODEA						
ヒメカマキリ科	Acromantidae						
ヒメカマキリ	<i>Acromantis japonica</i>	—	—	DD	—	DD	
カマキリ科	Mantidae						
ヒナカマキリ	<i>Amantis nawai</i>	DD	—	—	—	DD	
ウスバカマキリ	<i>Mantis religiosa</i>	DD	DD	DD	—	DD	

和名、学名、配列は、宮武頼夫・加納康嗣(編著), 1992. 検索入門セミ・バッタ, 保育社. に準拠した。

バッタ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧 I A類 [EN]絶滅危惧 I B類 [CR+EN]絶滅危惧 I 類 [VU]絶滅危惧 II 類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
バッタ目(直翅目)	ORTHOPTERA						
コロギス科	Gryllacrididae						
コロギス	<i>Prosopogryllacris japonica</i>	DD	○	○	○	○	
ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>	DD	○	○	○	○	
キリギリス科	Tettigoniidae						
カヤキリ	<i>Pseudorhynchus japonicus</i>	CR	CR	CR	DD	CR	
シブイロカヤキリ (シブイロカヤキリモドキ)	<i>Xestophrys javanicus</i>	DD	○	○	○	○	
クツワムシ科	Mecopodidae						
クツワムシ	<i>Mecopoda niponensis</i>	CR	CR	CR	DD	CR	
ツユムシ科	Phaneropteridae						
アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>	DD	DD	○	○	○	
ヘリグロツユムシ	<i>Psyrana japonica</i>	DD	—	○	○	○	
コオロギ科	Gryllidae						
エゾエンマコオロギ	<i>Teleogryllus infernalis</i>	—	CR	CR	CR	CR	
タンボコオロギ	<i>Modicogryllus siamensis</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
クマコオロギ	<i>Mitius minor</i>	DD	DD	DD	—	DD	
ヒメコオロギ	<i>Comidogryllus nipponensis</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
クマスズムシ	<i>Sclerogryllus punctatus</i>	DD	DD	DD	—	DD	
マツムシ科	Eneopteridae						
マツムシ	<i>Xenogryllus marmoratus</i>	CR	CR	CR	DD	CR	
カヤコオロギ	<i>Euscirtus japonicus</i>	DD	—	DD	—	DD	
ヒロバネカントン	<i>Oecanthus euryelytra</i>	DD	DD	—	DD	DD	
ヒバリモドキ科	Trigonidiidae						
キンヒバリ	<i>Natula matsurai</i>	DD	DD	○	○	DD	
エゾスズ	<i>Pteronemobius yezoensis</i>	DD	DD	DD	○	DD	
ヤチスズ	<i>Pteronemobius ohmachi</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
カワラスズ	<i>Dianemobius furumagiensis</i>	DD	VU	VU	VU	VU	
ヒゲシロスズ	<i>Polionemobius flavoantennalis</i>	DD	NT	○	○	○	
バッタ科	Acrididae						
アオフキバッタ	<i>Aopodisma subaptera</i>	・	・	DD	○	○	
セグロイナゴ (セグロバッタ)	<i>Shirakiacris shirakii</i>	CR	CR	CR	DD	CR	
ショウリョウバッタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>	VU	VU	VU	DD	VU	
イナゴモドキ	<i>Mecostethus parapleurus</i>	EX	EX	CR	—	CR	
ツマグロバッタ (ツマグロイナゴモドキ)	<i>Stethophyma magister</i>	DD	—	—	—	DD	
クルマバッタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	CR	CR	CR	CR	CR	
アカハネバッタ	<i>Celes akitanus</i>	EX	EX	EX	・	EX	CR
カワラバッタ	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	CR	CR	CR	CR	CR	

和名、学名、配列は、日本直翅類学会(編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑, 北海道大学出版会, に準拠した。

(3) カメムシ目

【選定・評価方法の概要】

東京都本土部のカメムシ目のまとまった記録として、古いものでは東京府（1938. 武蔵野昆虫誌, 194+28pp.）による武蔵野地域の目録がある。しかし、その多くは学名・和名のみで記述にとどまっており、記録地など具体的な情報が不明な種が多い。平山修次郎（1933. 原色千種昆虫図譜. 三省堂, 東京. 186pp. +104PL.、1937. 続原色千種昆虫図譜. 三省堂, 東京. 194pp. +88PL.）の図版にも多くの東京産の標本が図示されている。これらには、現在では絶滅したタガメやコバンムシなどが掲載されており、記述からは区部周辺にもこれらの種が生息していたことがうかがえる。

東京都本土部からは、現時点で 1,074 種（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト, <http://homepage3.nifty.com/TKM/>, 2010 年 1 月 1 日現在）のカメムシ目が記録されている。極めて種数の多い多様な分類群であることに加え、後述のように基礎的なデータが極めて不足している現状から、今回の選定にあたっては、前回（1998 年版）評価対象となっていたセミ科と、ある程度現状が把握できた水生カメムシ類について評価を行った。

近年のまとまった報告としては、皇居（友国雅章・林正美・碓井徹, 2000. 皇居の半翅目（腹吻群同翅類を除く）. 国立科学博物館専報, (36):35-55.）など、限定された場所についてはあるものの、今回、評価対象とした科に限定しても広域を対象としたものは見当たらず、評価に資する基礎的なデータが極めて不足しているのが現状である。したがって、検討対象種は 1998 年版の掲載種 8 種に、今回新たに 15 種を加えた 23 種とし、評価はすべて定性的要件によって行った。評価にあたっては、現地調査の結果や入手できた文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考とした。

なお、セミ科以外の陸生カメムシ類については、シロヘリツチカメムシなど絶滅危惧に該当すると考えられる種もあるが、既存情報が不足しているため今回は評価対象外とした。

また、絶滅危惧 I 類のランクについては、絶滅危惧 IA 類 (CR) と絶滅危惧 IB 類 (EN) を区分した。過去の記録は遡れるものについては戦前のもも含め採用した。評価にあたっては、多くの方から未発表記録や生息状況などについて多数提供して頂いた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、19 種が本レッドリストの掲載種に選定された。チツチゼミおよび水生カメムシ類で「情報不足」(DD) と評価されたものは、絶滅危惧に該当すると考えられ、確実な記録も存在するが、評価に資する情報が極めて不足しているものである。

セミ科では、前回（1998 年版）8 種が選定されていたが、半数にあたる 4 種が地域区分・東京都全体ともにランク外と判定された。これは、今回の評価基準として、過去から現在にいたる減少度合いを基本とし、生息環境の脆弱性、分布範囲などの情報も加味してランクを決定したことによる。エゾハルゼミのように分布は限定されているが、生息地では普

通に見られ、現状として生息環境・状況が安定的であると判断された種、コエゾゼミなどのように記録がごく少ないなど、希少性が高くとも、現状として生息環境・状況が安定的であると判断された種、クマゼミのように明らかに増加傾向にある種は、この基準を満たしていないためランク外と判定した。

今回新たに評価対象に加えた水生カメムシ類は、池沼や湿地環境に生育しており、生息環境の改変に脆弱な種が多い。また、丘陵の谷戸や河川敷などの水域だけでなく、区部の公園などに残されている平地の池沼も重要な生息地となっている。特に、エサキアメンボ、ババアメンボ、ホッケミズムシなどは区部でしか確認されていない。

(須田 真一)

カメムシ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
カメムシ目(半翅目)	HEMIPTERA						
セミ科	Cicadidae						
アカエゾゼミ	<i>Tibicen flammatus</i>	・	・	DD	○	○	
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	EX	CR	EN	EN	EN	
ヒメハルゼミ	<i>Euterpnosia chibensis</i>	・	・	CR	・	CR	
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>	NT	NT	○	○	○	
チッチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>	・	・	DD	DD	DD	
タイコウチ科	Nepidae						
タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>	EX	VU	VU	VU	VU	
ミズカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	NT	○	○	○	○	
ヒメミズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	CR	EX	—	—	CR	
コオイムシ科	Belostomatidae						
コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	CR	CR	EN	—	CR	NT
オオコオイムシ	<i>Appasus major</i>	—	EN	VU	VU	VU	
タガメ	<i>Lethocerus deyrolli</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU
ミズムシ科	Corixidae						
ホッケミズムシ	<i>Hesperocorixa distanti hokkensis</i>	DD	—	—	—	DD	NT
ミヤケミズムシ	<i>Xenocorixa vittipennis</i>	DD	—	—	—	DD	NT
コバンムシ科	Naucoridae						
コバンムシ	<i>Ilyocoris exclamationis</i>	EX	EX	・	・	EX	EN
アメンボ科	Gerridae						
オオアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	CR	VU	○	○	○	
ババアメンボ	<i>Gerris argentatus babai</i>	DD	—	—	—	DD	NT
ハネナシアメンボ	<i>Gerris amenbo</i>	DD	—	—	—	DD	
エサキアメンボ	<i>Limnopus esakii</i>	DD	—	—	—	DD	NT
シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	NT	○	○	○	○	

和名、学名、配列は、セミ科については、宮武頼夫・加納康嗣(編著), 1992. 検索入門セミ・バッタ, 保育社. に準拠した。

その他については、河合禎次・谷田一三(編), 2005. 日本産水生昆虫, 東海大学出版会. に準拠し、一部、評価者の判断により修正を加えた。

(4)ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目

【選定・評価方法の概要】

ヘビトンボ目とアミメカゲロウ目は、今回新たに評価対象とした分類群である。これらは、共に脈翅系昆虫に属する分類群であることや、解説に共通する部分が多いことなどの理由により、ここでまとめて扱う。

東京都本土部からは、上記2目にラクダムシ目を加えた広義のアミメカゲロウ目として、現時点で61種が記録されている（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト, <http://homepage3.nifty.com/TKM/>, 2010年1月1日現在）。これらのうち、今回は、ある程度現状が把握できたセンブリ科、ヘビトンボ科、ツノトンボ科を評価対象とした。ラクダムシ目（確実に記録されているのはラクダムシ1種のみ）についても検討を行ったが、評価に資する基礎的なデータがほとんどないために評価対象外とした。

したがって、検討対象種はヘビトンボ目で5種、アミメカゲロウ目では1種とした。

東京都においては、皇居（塚口茂彦, 2000. 皇居の脈翅類. 国立科学博物館専報, (36):109-113.）など、限定された場所についてのまとまった報告は見られるものの、今回対象とした3つの科に限定しても、広域を対象としたものは見当たらず、評価に資する基礎的なデータが極めて不足しているのが現状である。そのため、今回の評価はすべて定性的要件によって行い、入手できた文献資料や現地調査結果のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考とした。その際、未発表記録や生息状況などについて、多くの方々から情報提供していただいた。

評価にあたっては、絶滅危惧I類を絶滅危惧IA類（CR）と絶滅危惧IB類（EN）に区分し、過去の記録はさかのぼれるものについては戦前のものも含め採用した。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、検討対象としたヘビトンボ目5種、アミメカゲロウ目1種の計6種全てが本レッドリストの掲載種に選定された。過去から現在にいたる減少度合いを基本とし、生息環境の脆弱性、分布範囲などの情報も加味してランクを決定した。当然のことだが、絶滅危惧に該当するかどうかで判定したため、記録がごく少ないなど、希少性が高くとも、現状として生息環境・状況が安定的であると判断された種や、増加傾向にある種についてはランク外とした。また、全般にわたって「情報不足」（DD）や「データ無し」と評価されたものが多いが、これは基礎的な情報が極めて不足していることによるものである。

ヘビトンボ目のセンブリ科とヘビトンボ科は、幼虫が水生であり、今回の掲載種もすべて池沼や湿地、小規模な流水に生息する種である。一部の種では区部の公園などの水域にも残存している。

アミメカゲロウ目のキバネツノトンボでは、確実な記録は平山修次郎（1933. 原色千種昆虫図譜. 三省堂. 186pp. +104PL.）に図示されたものしか見出すことができなかった。本種に

については、昼行性で目立つために記録されやすいことや、生息環境や近隣県の状況などから少なくとも記録地からは絶滅したと判断された。一方、オオツノトンボの場合は現地調査でも北多摩地域で確認されたが、それを含めても数例の記録のみであり、絶滅危惧にあるかを判断できなかった。そのほかにも、例えばウスバカゲロウ科には、河川敷などの砂礫地に生息するニセコウスバカゲロウ（クロコウスバカゲロウ）やオオウスバカゲロウなど、絶滅危惧に該当すると考えられる種もあるが、確実な記録があまりにも少ない、生息状況（特に近年）が不明、記録は存在するがその真偽が不明、などの理由によって、今回は評価することができなかった。

上記のように、ヘビトンボ目・アミメカゲロウ目に属していても、今回評価対象としなかった分類群（科）もあり、この中には絶滅危惧に該当すると考えられる種もある。

（須田 真一）

ヘビトンボ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
ヘビトンボ目(広翅目)	MEGALOPTERA						
センブリ科	Sialidae						
ヤマトセンブリ	<i>Sialis yamatoensis</i>	—	EX	DD	CR	CR	DD
ネグロセンブリ	<i>Sialis japonica</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
クロセンブリ	<i>Sialis melania tohokuensis</i>	・	DD	DD	DD	DD	
ヘビトンボ科	Corydalidae						
ヤマトクロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes japonicus</i>	CR	NT	○	○	○	
クロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes continentalis</i>	DD	DD	○	○	○	

和名、学名、配列は、河合禎次・谷田一三(編), 2005. 日本産水生昆虫, 東海大学出版会. に準拠した。

アミメカゲロウ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
アミメカゲロウ目(脈翅目)	NEUROPTERA						
ツノトンボ科	Ascalaphidae						
キバネツノトンボ	<i>Ascalaphus ramburi</i>	—	EX	—	—	DD	

和名、学名、配列は、伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇(編著), 1977. 全改訂新版原色日本昆虫図鑑(下), 保育社. に準拠した。

(5) コウチュウ目

【選定・評価方法の概要】

コウチュウ目では、1998年版の掲載種 308 種を再評価するとともに、生息情報が比較的得られている種類（とくにゲンゴロウ科やクワガタムシ科、カミキリムシ科など）の中から 51 種を新たに検討対象種に加え、評価を行った。

評価方法はすべての種類で定性的要件を用い、入手できた文献資料のほか、聞き取りなどの情報も参考とした。絶滅危惧 I 類のランクについては、絶滅危惧 I A 類 (CR) と絶滅危惧 I B 類 (EN) を区別した。過去の記録は原則として戦後以降 (1945 年以降) としたが、一部の種類については戦前の文献も用いた (とくに区部と北多摩地域)。これは分布していた (あるいは生息している) ことが明らかであるものの、戦後以降の記録を探し出せなかったことによる。

また、オサムシ科とホソクビゴミムシ科、数種のカミキリムシ科については、協力者から情報を得て評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

『東京都の野生生物種目録 1998 年版』には本土部で 1,130 種のコウチュウ目が記載されているが、今回の検討対象種は 359 種であり、そのうち 195 種が本レッドリストの掲載種に選定された。これらのうち、今回新たにレッドリストに加えられた種類はカミキリムシ科 24 種をはじめ、合計で 51 種に及ぶ。また、前回 (1998 年版) のリストから削除された種類はオサムシ科 44 種、ハネカクシ科 20 種、カミキリムシ科 73 種をはじめ、合計で 164 種に及ぶが、これは今回の選定方針として希少性 (過去の記録がごく少ない) を評価基準で重要視しなかった点が大い。

地域区分別では、予想された通り、区部で掲載種が著しく多く、次いで北多摩地域、南多摩地域、西多摩地域の順となる。これは、区部ではほとんどの地域で生息環境が失われてしまっていること、北多摩地域では狭山丘陵以外に広域な生息環境が見あたらないこと、南多摩地域では八王子市の高尾山の存在と、小仏山地ならびに多摩丘陵の一部に良好な生息環境を残していること、西多摩地域では奥多摩をはじめとして南多摩地域以上に健全な地域が広がっていることに起因している。

生息環境別では、ゲンゴロウ科やガムシ科など池沼・湿地性の種類の衰亡が著しく、この傾向は地域区分によらない。また、オサムシ科の多くの種類のように、川原・草地環境に生息するものも同様で、特に多摩川における河口域と下流部の生息環境の劣化が要因と考えられる。海浜性の種類も同様であろうが、分布・生息情報がほとんど得られなかったため、今回は検討対象種としたもの自体が少ない。以上のような非森林環境と比較する限りでは、森林環境に生息するものの衰亡は全体として顕著でない。ただし、アトキリゴミムシ類や一部のカミキリムシ類などでは、森林性の種類であっても平地や丘陵部では減少

傾向にあるものが多い。これは地域区分別の良好な生息環境の有無・大小・連続性と密接に関連している。

(高桑 正敏)

コウチュウ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
コウチュウ目(鞘翅目)	COLEOPTERA						
カワラゴミムシ科	Omophronidae						
カワラゴミムシ	<i>Omophron aequalis</i>	CR	—	EN	—	EN	
ハンミョウ科	Cicindelidae						
エリザハンミョウ	<i>Cicindela elisae</i>	VU	NT	NT	NT	NT	
コハンミョウ	<i>Cicindela specularis</i>	NT	NT	○	○	○	
ニワハンミョウ	<i>Cicindela japana</i>	—	NT	NT	○	○	
ホソハンミョウ	<i>Cicindela gracilis</i>	CR	CR	EN	・	CR	VU
カワラハンミョウ	<i>Cicindela laetescipta</i>	EX	—	—	・	EX	EN
オサムシ科	Carabidae						
クロナガオサムシ	<i>Leptocarabus procerulus</i>	EN	NT	○	○	○	
セアカオサムシ	<i>Hemicarabus tuberculosus</i>	—	DD	—	—	DD	NT
ヒメマイマイカブリ	<i>Damaster blaptoides oxuroides</i>	NT	○	○	○	○	
フタモンマルクビゴミムシ	<i>Nebria pulcherrima</i>	—	EX	—	—	CR	EN
キベリマルクビゴミムシ	<i>Nebria livida angulata</i>	—	EX	—	—	CR	EN
ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	<i>Clivina castanea</i>	DD	—	—	—	○	
ホソチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius steno</i>	DD	—	DD	—	DD	
ナガチビヒョウタンゴミムシ	<i>Dyschirius cheloscelis</i>	DD	・	・	・	DD	
オサムシモドキ	<i>Craspedonotus tibialis</i>	VU	VU	—	—	NT	
クラサワメクラチビゴミムシ	<i>Kurasawatrechus eriophorus</i>	・	・	・	*1	*1	
ムツモンコミズギワゴミムシ	<i>Paratachys plagiatus shimosae</i>	DD	・	・	・	DD	
アトモンコミズギワゴミムシ	<i>Tachyura klugi euglypta</i>	DD	DD	—	○	DD	
キバネキバナガミズギワゴミムシ	<i>Armatocillenus aestuarii</i>	CR	・	・	・	CR	VU
キアシリミズギワゴミムシ	<i>Bembidion trajectum</i>	EN	—	○	○	○	
アオヘリミズギワゴミムシ	<i>Bembidion leucoleum</i>	NT	・	・	・	NT	
ヒラタマルゴミムシ	<i>Cosmodiscus platynotus</i>	NT	DD	DD	○	DD	
ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisii</i>	NT	○	○	—	○	
オオナガゴミムシ	<i>Pterostichus fortis</i>	NT	—	○	○	○	
アシミゾヒメヒラタゴミムシ	<i>Agonum thoreyi nipponicum</i>	EN	—	VU	NT	VU	
コクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus melantho</i>	VU	—	○	○	○	
ヒメクロツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus congruus</i>	NT	—	○	—	○	
ブリットンツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus orbicollis</i>	NT	NT	—	—	NT	
キアシツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus callitheres</i>	NT	NT	—	○	NT	
ツヤマルガタゴミムシ	<i>Amara obscuripes</i>	NT	DD	DD	DD	DD	
キアシマルガタゴミムシ	<i>Amara ampliata</i>	EN	—	VU	—	VU	
ヒョウゴマルガタゴミムシ	<i>Amara hiogoensis</i>	DD	—	—	—	DD	
タナカツヤハネゴミムシ	<i>Anisodactylus andrewesi</i>	CR	—	—	—	CR	DD
トゲアシゴモクムシ	<i>Harpalus calceatus</i>	DD	DD	○	○	○	
チョウセンゴモクムシ	<i>Harpalus crates</i>	CR	NT	—	—	NT	VU
ヒロゴモクムシ	<i>Harpalus corporosus</i>	NT	○	○	○	○	
オオイクビツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus nipponicus</i>	NT	○	○	○	○	
キュウシュウツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus vespertinus</i>	VU	—	—	—	○	
ヒコサンツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus noctuabundus</i>	DD	—	○	○	○	
オオクロツヤゴモクムシ	<i>Trichotichnus lewisi</i>	CR	—	—	—	NT	
ホソチビゴモクムシ	<i>Acupalpus sobosanus</i>	DD	・	・	・	DD	
ムネミゾチビゴモクムシ	<i>Anthracus horni</i>	DD	・	・	・	DD	
ヨツボシゴミムシ	<i>Panagaeus japonicus</i>	VU	NT	NT	—	NT	
クビナガヨツボシゴミムシ	<i>Tinoderus singularis</i>	—	VU	VU	・	VU	DD
オオヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>	EN	VU	NT	—	VU	
ニッポンヨツボシゴミムシ	<i>Dischissus japonicus</i>	—	NT	○	○	○	
イグチケブカゴミムシ	<i>Peronomerus auripilis</i>	—	NT	NT	・	NT	NT

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
ムナビロアオゴミムシ	<i>Chlaenius sericimicans</i>	NT	—	NT	•	NT	
アカガネアオゴミムシ	<i>Chlaenius abstersus</i>	VU	NT	NT	—	NT	
コアトワアオゴミムシ	<i>Chlaenius hamifer</i>	VU	—	DD	•	VU	
オオヒラタトックリゴミムシ	<i>Oodes virens</i>	•	•	EX	•	EX	CR
ニセトックリゴミムシ	<i>Oodes helopioides tokyoensis</i>	EN	—	NT	NT	NT	
ヤマトックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis japonica</i>	VU	○	○	○	○	
トックリゴミムシ	<i>Lachnocrepis prolixa</i>	NT	NT	○	—	NT	
ナカグロキバネクビナガゴミムシ	<i>Odacantha puziloi</i>	DD	•	•	•	DD	
チャバネクビナガゴミムシ	<i>Odacantha aegrota</i>	NT	○	○	—	○	
フタモンクビナガゴミムシ	<i>Archicolliuris bimaculata nipponica</i>	NT	NT	NT	—	NT	
カタアカアトキリゴミムシ	<i>Cymindis collaris</i>	DD	DD	—	—	DD	
アトグロジュウジアトキリゴミムシ	<i>Lebia idae</i>	DD	—	—	DD	DD	
キイロアトキリゴミムシ	<i>Philorhizus optimus</i>	DD	—	—	—	DD	
キイロホソゴミムシ	<i>Drypta fulveola</i>	CR	•	•	•	CR	EN
アオヘリホソゴミムシ	<i>Drypta japonica</i>	NT	○	○	○	○	
オオアオホソゴミムシ	<i>Desera geniculata</i>	•	•	CR	•	CR	
ミイデラゴミムシ	<i>Pheropsophus jessoensis</i>	CR	NT	*2	*2	NT	
ゲンゴロウ科	Dytiscidae						
キベリクロヒメゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>	EN	CR	—	—	CR	NT
シマゲンゴロウ	<i>Hydaticus bowringi</i>	EX	EX	CR	—	CR	NT
オオイチモンジシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus pacificus conspersus</i>	—	EX	—	—	EX	EN
ウスイロシマゲンゴロウ	<i>Hydaticus rhantoides</i>	EN	—	—	—	EN	
マルガタゲンゴロウ	<i>Graphoderus adamsii</i>	EX	EX	EX	—	EX	VU
クロゲンゴロウ	<i>Cybister brevis</i>	EX	CR	—	EN	CR	NT
コガタノゲンゴロウ	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	EX	EX	EX	•	EX	VU
ゲンゴロウ(ナミゲンゴロウ)	<i>Cybister japonicus</i>	EX	EX	EX	EX	EX	VU
シャープゲンゴロウモドキ	<i>Dytiscus sharpi</i>	EX	•	•	•	EX	CR
ミズスマシ科	Gyrinidae						
オオミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	EN	EN	—	—	CR	NT
ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	CR	EN	VU	NT	VU	VU
コミズスマシ	<i>Gyrinus curtus</i>	EX	—	—	—	DD	EN
ヒメミズスマシ	<i>Gyrinus gestroi</i>	—	DD	—	—	DD	EN
ガムシ科	Hydrophilidae						
ヤマトホソガムシ	<i>Hydrochus japonicus</i>	DD	—	—	—	DD	NT
ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>	EX	CR	EN	—	EN	NT
ヒメガムシ	<i>Sternolophus rufipes</i>	VU	DD	DD	—	DD	
コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>	EN	VU	NT	DD	NT	DD
マメガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>	EN	VU	—	—	VU	
ハネカクシ科	Staphylinidae						
オサシデムシモドキ	<i>Apatetica princeps</i>	—	DD	DD	○	○	
シラオビシデムシモドキ	<i>Nodynus leucofasciatus</i>	—	DD	DD	○	○	
オオツノハネカクシ	<i>Bledius salsus</i>	VU	DD	VU	•	VU	DD
ウミベアカバハネカクシ	<i>Phucobius simulator</i>	VU	•	•	•	VU	
クロガネハネカクシ	<i>Platydracus inornatus</i>	VU	○	○	○	○	
キンボシハネカクシ	<i>Ocypus weisei</i>	VU	NT	NT	—	NT	
クシヒゲハネカクシ	<i>Velleius pectinatus</i>	—	—	NT	—	NT	
クロヒゲオレハネカクシ	<i>Acylophorus honshuensis</i>	NT	—	—	—	NT	
チャムネハラホソハネカクシ	<i>Atanygnathus terminalis</i>	—	—	—	NT	NT	
クワガタムシ科	Lucanidae						
ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus</i>	•	—	NT	○	○	
ノコギリクワガタ	<i>Prosopocoilus inclinatus</i>	NT	○	○	○	○	
スジクワガタ	<i>Macrodercas striatipennis</i>	VU	NT	○	○	○	
ヒラタクワガタ	<i>Serrognathus platymelus pilifer</i>	VU	NT	NT	NT	NT	
オオクワガタ	<i>Dorcus hopei</i>	CR	CR	CR	—	CR	VU
コガネムシ科	Scarabaeidae						
マエカドコエンマコガネ	<i>Caccobius jessoensis</i>	DD	DD	DD	○	DD	
ヤマトケシマグソコガネ	<i>Psammodytes japonicus</i>	DD	•	•	•	DD	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
ヒゲブトハナムグリ	<i>Anthypna pectinata</i>	EN	NT	○	○	○	
ヒゲコガネ	<i>Polyphylla laticollis</i>	VU	VU	VU	・	VU	
ツヤスジコガネ	<i>Mimela difcilis</i>	DD	○	○	○	○	
ハンノヒメコガネ	<i>Anomala puncticollis</i>	DD	DD	DD	—	DD	
トラハナムグリ	<i>Trichius japonicus</i>	DD	—	—	—	DD	
ヒメトラハナムグリ	<i>Lasiotrichius succinctus</i>	EN	NT	NT	○	NT	
クロカナブン	<i>Rhomborrhina polita</i>	EN	NT	○	○	○	
ハナムグリ	<i>Eucetonia pilifera</i>	CR	EN	DD	○	NT	
シラホシハナムグリ	<i>Protaetia brevitarsis</i>	EX	CR	—	EN	CR	
アカマダラコガネ (アカマダラハナムグリ)	<i>Poecilophilides rusticola</i>	EX	—	*3	*3	*3	DD
コカブトムシ	<i>Eophileurus chinensis</i>	VU	NT	○	○	○	
ナガドロムシ科	Heteroceridae						
タマガワナガドロムシ	<i>Heterocerus japonicus</i>	*4	—	—	—	○	
ヒメドロムシ科	Elmidae						
アヤスジミゾドロムシ	<i>Graphelmis shirahatai</i>	*5	・	・	・	○	EN
タマムシ科	Buprestidae						
マスタクロホシタマムシ	<i>Ovalisia vivata</i>	VU	NT	○	○	○	
ウバタマムシ	<i>Chalcophora japonica</i>	CR	NT	NT	NT	NT	
タマムシ(ヤマトタマムシ)	<i>Chrysochroa fulgidissima</i>	NT	○	○	○	○	
クロタマムシ	<i>Buprestis haemorrhoidalis japonensis</i>	CR	VU	VU	NT	VU	
コメツキムシ科	Elateridae						
ウバタマコメツキ	<i>Cryptoalaus berus</i>	CR	EN	NT	NT	VU	
ホタル科	Lampyridae						
ゲンジボタル	<i>Luciola cruciata</i>	EN	VU	○	○	○	
ヘイケボタル	<i>Luciola lateralis</i>	EN	VU	NT	NT	NT	
ホソカミキリ科	Disteniidae						
ホソカミキリ	<i>Distenia gracilis</i>	VU	VU	○	○	NT	
カミキリムシ科	Cerambycidae						
ウスバカミキリ	<i>Megopsis sinica</i>	NT	NT	○	○	NT	
ノコギリカミキリ	<i>Prionus insularis</i>	NT	NT	○	○	NT	
コバネカミキリ	<i>Psephactus remiger</i>	・	DD	○	○	○	
オオマルクビヒラタカミキリ	<i>Asemum striatum</i>	EX	—	EX	○	VU	
ケブカヒラタカミキリ	<i>Nothorhina punctata</i>	NT	—	NT	—	NT	
サビカミキリ	<i>Arhopalus coreanus</i>	EN	EN	○	○	NT	
クロカミキリ	<i>Spondylis buprestoides</i>	VU	NT	○	○	NT	
ホンドニセハイイロハナカミキリ	<i>Rhagium femorale</i>	EX	—	NT	○	NT	
フタコブルリハナカミキリ	<i>Stenocorus caeruleipennis</i>	EX	—	NT	○	○	
ヒナルリハナカミキリ	<i>Dinoptera minuta</i>	NT	NT	○	○	○	
ツヤケシハナカミキリ	<i>Anastrangalia scotodes</i>	EX	VU	NT	○	NT	
アカハナカミキリ	<i>Corymbia succedanea</i>	CR	EN	○	○	○	
ツマグロハナカミキリ	<i>Leptura modicenotata</i>	CR	EN	○	○	NT	
ムネアカクロハナカミキリ	<i>Leptura dimorpha</i>	EX	—	NT	○	NT	
ヨツスジハナカミキリ	<i>Leptura ochraceofasciata</i>	CR	EN	○	○	○	
オオヨツスジハナカミキリ	<i>Megaleptura regalis</i>	・	・	NT	○	NT	
カタキハナカミキリ	<i>Pedostrangalia femoralis</i>	—	—	NT	NT	NT	
ベニバハナカミキリ	<i>Paranaspia anaspoides</i>	NT	—	○	—	○	
オニホソコバネカミキリ	<i>Necydalis gigantea</i>	・	・	・	DD	DD	
アオスジカミキリ	<i>Xystrocera globosa</i>	EX	CR	VU	—	EN	
マルクビケマダラカミキリ	<i>Trichoferus campestris</i>	VU	NT	○	—	NT	
ミヤマカミキリ	<i>Massicus raddei</i>	VU	NT	○	○	NT	
キマダラヤマカミキリ	<i>Aeolesthes chrysothrix</i>	NT	NT	○	○	○	
キイロミヤマカミキリ	<i>Margites fulvidus</i>	・	・	VU	・	VU	
ヨツボシカミキリ	<i>Stenygrinum quadrinotatum</i>	EX	CR	CR	CR	CR	EN
タイワンメダカカミキリ	<i>Stenhomalus taiwanus</i>	VU	—	NT	○	NT	
オダヒゲナガコバネカミキリ	<i>Glaphyra gracilis</i>	・	—	NT	○	○	
クスベニカミキリ	<i>Pyrestes nipponicus</i>	EN	—	○	○	○	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
アオカミキリ	<i>Schwarzerium quadricolle</i>	EN	VU	NT	○	NT	
アカアシオアオカミキリ	<i>Chloridolum japonicum</i>	CR	VU	EN	DD	EN	
ミドリカミキリ	<i>Chloridolum viride</i>	CR	EN	NT	○	NT	
スギカミキリ	<i>Semanotus japonicus</i>	VU	NT	○	○	○	
ヨツボシヒラタカミキリ	<i>Phymatodes quadrimaculatus</i>	EX	—	CR	—	CR	
ブドウトラカミキリ	<i>Xylotrechus pyrrhoderus</i>	VU	NT	○	○	NT	
トラフカミキリ	<i>Xylotrechus chinensis</i>	EN	VU	NT	○	NT	
シロオビトラカミキリ	<i>Clytus raddensis</i>	・	・	・	DD	DD	
キスジトラカミキリ	<i>Cyrtoclytus caproides</i>	VU	NT	○	○	○	
タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>	NT	NT	NT	NT	NT	
クトラカミキリ	<i>Chlorophorus diadema inhirsutus</i>	CR	—	VU	VU	VU	
トウキョウトラカミキリ	<i>Rhaphuma yedoensis</i>	—	DD	・	DD	DD	
ホソトラカミキリ	<i>Rhaphuma xenisca</i>	CR	VU	○	○	○	
キイロトラカミキリ	<i>Grammographus notabilis</i>	CR	VU	○	○	NT	
トガリバアカネトラカミキリ	<i>Anaglyptus niponensis</i>	NT	—	○	○	○	
スギノアカネトラカミキリ	<i>Anaglyptus subfasciatus</i>	CR	—	—	—	DD	
ホタルカミキリ	<i>Dere thoracica</i>	EN	NT	NT	○	NT	
シロオビゴマフカミキリ	<i>Falsomesosella gracilior</i>	CR	—	○	○	○	
キクスイモドキカミキリ	<i>Asaperda rufipes</i>	CR	—	○	○	○	
ハイイロヤハズカミキリ	<i>Niphona furcata</i>	EN	VU	○	○	○	
イタヤカミキリ	<i>Mecynippus pubicornis</i>	CR	VU	VU	NT	VU	
ヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus grandis</i>	EX	—	NT	○	NT	
ヒメヒゲナガカミキリ	<i>Monochamus subfasciatus</i>	EN	NT	○	○	○	
センノカミキリ	<i>Acalolepta luxuriosa</i>	VU	NT	○	○	○	
ヒメビロウドカミキリ	<i>Acalolepta degener</i>	EX	CR	—	—	CR	NT
チャイロヒゲビロウドカミキリ	<i>Acalolepta kusamai</i>	EN	—	NT	NT	NT	
シロスジカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>	EN	NT	NT	○	NT	
ヒゲナガゴマフカミキリ	<i>Palimna liturata</i>	EX	EX	○	○	NT	
ネジロカミキリ	<i>Pogonocherus seminivus</i>	EN	—	NT	DD	NT	
フタオビアラゲカミキリ	<i>Rhopaloscelis bifasciatus</i>	NT	—	○	○	○	
カッコウカミキリ	<i>Miccolamia cleroides</i>	EX	EN	○	○	NT	
ヒゲナガモモトカミキリ	<i>Acanthocinus orientalis</i>	EN	DD	NT	DD	NT	
ナカバヤシモモトカミキリ	<i>Leiopus guttatus</i>	—	—	VU	VU	VU	
シラオビゴマフケシカミキリ	<i>Exocentrus guttulatus</i>	NT	—	○	○	○	
ハンノキカミキリ	<i>Cagosima sanguinolenta</i>	EX	CR	VU	VU	EN	
オニグルミノキモンカミキリ	<i>Menesia flavotecta</i>	EN	—	NT	○	○	
ヤツメカミキリ	<i>Eutetrappa ocelota</i>	VU	NT	○	○	NT	
アサカミキリ	<i>Thyestilla gebleri</i>	EX	EX	CR	CR	CR	VU
ヘリグロリンゴカミキリ	<i>Nupserha marginella</i>	EN	VU	○	○	○	
アオキクスイカミキリ	<i>Phytoecia coeruleomicans</i>	EX	EX	EX	—	EX	CR
ハムシ科	Chrysomelidae						
ホソネクイハムシ	<i>Donacia vulgaris</i>	DD	・	・	○	EN	
ツヤネクイハムシ	<i>Donacia nitidior</i>	・	*6	・	・	*6	
スゲハムシ	<i>Plateumaris sericea</i>	CR	CR	—	VU	EN	
ハッカハムシ	<i>Chrysolina exanthematica</i>	DD	—	DD	—	DD	
オオルリハムシ	<i>Chrysolina virgata</i>	CR	・	・	・	CR	NT
ドロノキハムシ	<i>Chrysomela populi</i>	CR	—	CR	CR	CR	
ヤナギハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata</i>	EX	EN	—	—	EN	
ゾウムシ科	Curculionidae						
オオアオゾウムシ	<i>Chlorophanus grandis</i>	DD	DD	DD	—	DD	

和名、学名については、東京都本土部昆虫目録(東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト) <http://homepage3.nifty.com/TKM/index.html>

を基本とし、評価者の判断により修正を加えた。また、配列は、以下の3巻に従った。

上野 俊一・黒沢 良彦・佐藤 正孝(編著), 1986. 原色日本甲虫図鑑Ⅱ, 保育社。

黒沢 良彦・久松 定成・佐々治 寛之(編著), 1985. 原色日本甲虫図鑑Ⅲ, 保育社。

林 匡夫・木元 新作・森本 桂(編著), 1984. 原色日本甲虫図鑑Ⅳ, 保育社。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	クラサワメクラチビゴミムシ	西多摩 本土部	タイプロカリティであること、また高い採集圧がかかる可能性があるため。
*2	ミイデラゴミムシ	南多摩 西多摩	草地環境を指標する種であること、また幼虫はケラの卵塊を食して成長するという特殊な生態を有するため。
*3	アカマダラコガネ (アカマダラハナムグリ)	南多摩 西多摩 本土部	幼虫はオオタカをはじめとした猛禽類の残渣に依存して生活することが知られ、その盛衰と密接に関連すると考えられるため。
*4	タマガワナガドROMシ	区部	本州から九州の各地で記録されているが、良好な水環境に生息すると考えられるため。また、準絶滅危惧 (NT) に準ずると考えられ、動向に注目する必要があるため。
*5	アヤスジミヅROMシ	区部	ほとんど記録のない稀な水生種であるが、顕著な形態を示し、また良好な水環境を指標すると考えられるため。
*6	ツヤネクイHAMシ	北多摩 本土部	本種は良好な湿地に限って分布し、しかも東京都ではごく狭い1か所の湿地から知られているにすぎないことから、今後の推移を見守る必要があるため。

(6)ハチ目

【選定・評価方法の概要】

ハチ目は、前回（1998年版）の本土部のレッドリストでは対象とされていなかったが、今回、アリ科を除くハチ目を評価対象とした。ハチ目（アリ科を除く）では東京都全体のまとまった調査報告はないため、初歩的段階として隣接県での分布及び生息状況等を参考に、検討対象種として11科18種を選定し、定性的要件により評価を行った。文献及び標本調査では、なるべく最近の記録を取り上げるようにしたが、種類や地域区分によっては1920年代の文献記録や標本しか見いだせなかった場合がある。なお、ハチ目は上位分類も含めて、研究途上にある。ここでは、現在広く受け入れられていると考えられる分類を用いたが、今後の研究の進展により科などの扱いが変わる可能性がある。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、15種が本レッドリストの掲載種に選定された。ハチ目（アリ科を除く）は、文献・標本等が限定されていることもあり、本土部全体におけるランクの内訳は、絶滅(EX)が5種、情報不足(DD)が10種となった。

区部では1950年代まではムツボシクモバチ、キスジクモバチ、ヤマトアシナガバチ、キボシトックリバチの記録があった。河川周辺では最近でもキオビクモバチ、キアシハナダカバチモドキの生息が確認されている。絶滅(EX)としたクロマルハナバチであるが、野生個体群でないハウス内花粉媒介用に放飼されたと考えられる個体が野外で得られており注意が必要である。

北多摩地域では都内他地域で記録が見い出されなかったヤスマツヒメハナバチ、フルカワフトハキリバチ、ウスルリモンハナバチの記録があった。花蜂と訪花植物の関係では、ヤスマツヒメハナバチとヤナギ類、フルカワフトハキリバチとキキョウ・アザミ類、ウスルリモンハナバチとアキノタムラソウという結びつきがあるので、これらの昆虫がいたということは、かつて植物相が豊かであったということが想像できる。狭山丘陵には、その名残があるが、これらの昆虫は絶滅したと考えられる。

南多摩地域では都内他地域で記録のないバラヒラタハバチの記録があるが、これは西多摩地域でも発見される可能性が高い。南多摩地域及び西多摩地域には山地性の種類が分布しているが、調査不十分で検討できなかった。今回検討できなかったが、多摩地域の丘陵部における環境の変化は著しく、かなりの種類が激減または絶滅していると考えられる。

なお、検討対象種としたものの、評価の結果、ランク外とした種にクチナガハバチとヒダクチナガハバチがある。両種は全国的にも記録が少なく、環境省レッドリスト（2007）では「情報不足」(DD)に挙げられている。都内においても記録はわずかしかなく、生態情報が不足しているが、実際には都内の西部に広く分布している可能性がある。

(高橋 秀男)

ハチ目(本土部) ※アリ科を除く

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧 I A類 [EN]絶滅危惧 I B類 [CR+EN]絶滅危惧 I 類 [VU]絶滅危惧 II 類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ハチ目(膜翅目)	HYMENOPTERA							
ヒラタハバチ科	Pamphilidae							
バラヒラタハバチ	<i>Pamphilus hilaris</i>	-	-	DD	-	DD		
コマユバチ科	Braconidae							
ウマノオバチ	<i>Euurobracon yokahamae</i>	DD	DD	DD	DD	DD	NT	1
セイボウ科	Chrysididae							
ムサシトゲセイボウ	<i>Elampus musashinus</i>	DD	DD	-	-	DD	NT	
クモバチ科(ベッコウバチ科)	Pompilidae							
ムツボシクモバチ (ムツボシベッコウ)	<i>Anoplius viaticus</i>	EX	EX	-	-	EX	NT	
キオビクモバチ (キオビベッコウ)	<i>Batozonellus annulatus</i>	DD	DD	-	-	DD		
キスジクモバチ (キスジベッコウ)	<i>Batozonellus lacertida</i>	EX	EX	DD	-	DD		
スズメバチ科	Vespidae							
キボシトックリバチ	<i>Eumenes fraterculus</i>	DD	DD	-	-	DD		
ヤマトアシナガバチ	<i>Polistes japonicus</i>	DD	DD	DD	-	DD	DD	
アナバチ科	Sphecidae							
フジジガバチ	<i>Ammophila atripes japonica</i>	EX	EX	-	-	EX	NT	
ギングチバチ科	Crabronidae							
アカオビケラトリ	<i>Larra amplipennis</i>	DD	-	DD	DD	DD	NT	
キアシハナダカバチモドキ	<i>Stizus pulcherrimus</i>	DD	-	-	-	DD	VU	
ヒメハナバチ科	Andrenidae							
ヤスマツヒメハナバチ	<i>Andrena yasumatsui</i>	-	DD	-	-	DD	DD	
ハキリバチ科	Megachilidae							
フルカワフトハキリバチ	<i>Megachile lagopoda furukawai</i>	-	EX	-	-	EX	DD	
ミツバチ科	Apidae							
ウスルリモンハナバチ	<i>Thyreus centrimacula</i>	-	EX	-	-	EX		
クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>	EX	DD	DD	DD	DD	NT	2

和名、学名、配列は基本的に、九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター(編)、1989. 日本産昆虫総目録II. を基本とし、
 評価者の判断により修正を加えた。

【備考】

- 1: 区部の最近の記録は移入の可能性が高い。
- 2: 野生個体でないものが見つかっている。

(7)ハエ目

【選定・評価方法の概要】

ハエ目は、昆虫類の中ではコウチュウ目、ハチ目、チョウ目に次いで種数が多いグループであり、日本から約 5,300 種、世界では約 11 万種が知られている。なおかつ、周極地域から熱帯地域まで、海浜から油田や氷河の下の流水中まで、ありとあらゆる環境に適応して生息している。このため、生活史は極めて多様であり、特定の環境にはそれに対応したハエ目相が見られ、環境指標性は比較的高い。

東京都から記録されたハエ目については古い記録はほとんど見られないが、平成になってからは、『多摩川中流域の丘陵部における里山昆虫の研究』（里山昆虫研究会, 1995）、『皇居の生物相Ⅲ. 昆虫』（2000. 国立科学博物館専報No. 36.）、「狭山丘陵の双翅目(2)」(伊東憲正, 2003. はなあぶNo. 15-1.）、『赤坂御用地と常盤松御用邸の動物相』（2005. 国立科学博物館専報No. 39.）、「森林総合研究所多摩森林科学園の双翅目昆虫相」（松本和馬・三井偉由・鳥居隆史, 2007. 森林総合研究所研究報告No. 6(1):77-88.）などのすぐれた報告が公表されており、現時点で1,331種（東京都本土部昆虫目録作成プロジェクト, <http://homepage3.nifty.com/TKM/>, 2010年1月1日現在）のハエ目が記録されている。この種数は全国の都道府県の記録を見ても上位に位置する。しかし、その内訳を見るとほとんどが区部の記録に偏っており、本来ハエ目の種数が多いはずの北多摩地域や南多摩地域、西多摩地域の記録は少なく、中でも東京都最高峰の雲取山を含む東京都の中で一番良好な自然が残っていると考えられる西多摩地域の記録が最も少ない。

今回のリストは、このような東京都のハエ目の現状をふまえて、現時点で記録されている種の中から、主に環境指標性が高く比較的特徴的であり、なおかつ同定が容易な 12 種を検討対象種とした。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 12 種となった。ガガンボ科からは大型種で里山的な環境との結びつきが強いミカドガガンボ（北多摩地域、南多摩地域、西多摩地域に記録あり）を、カ科からは良好な樹林環境に生息し幼虫は他種のボウフラを捕食するトワダオオカ（南多摩地域、西多摩地域に記録あり）を、ハルカ科からは樹林環境に生息し第三紀の周北極要素を示す種として学術的にも貴重な種であるハマダラハルカ（南多摩地域、西多摩地域に記録あり）を留意種に選定した。また、ムシヒキアブ科からは樹林環境に生息する大型のムシヒキアブであるオオイシアブ（北多摩地域、南多摩地域、西多摩地域に記録あり）とチャイロオオイシアブ（北多摩地域、南多摩地域、西多摩地域に記録あり）を、ハナアブ科からは良好な樹林環境に生息するハチモドキハナアブ（北多摩地域、南多摩地域に記録あり）とクロベッコウハナアブ（区部、北多摩地域、南多摩地域に記録あり）を留意種とした。さらに、ニクバエ科からは海浜砂丘に生息するハマベニクバエ（区部に

記録あり)を、クロバエ科からは湿性草地に生息するショウジョウクロバエ(西多摩地域に記録あり)と樹林環境に生息するミドリバエ(南多摩地域、西多摩地域に記録あり)を留意種として選定した。

また、過去に記録があるものの最近の記録が全くない種として、良好な樹林環境に生息するハナアブ科のオオナガハナアブ(1950年に日原で採れて以降記録無し)と良好な湿地環境に生息するクロバエ科のカエルキンバエ(1968年以前に東京都から記録があるがそれ以降記録無し)の2種を絶滅危惧I類(CR+EN)に選定した。

(伊東 憲正)

ハエ目(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ハエ目(双翅目)	DIPTERA							
ガガンボ科	Tipulidae							
ミカドガガンボ	<i>Ctenacroscelis mikado</i>	—	*1	*1	*1	*1		
ハルカ科	Cramptonomyiidae							
ハマダラハルカ	<i>Haruka elegans</i>	—	—	*2	*2	*2	DD	
カ科	Culicidae							
トワダオオカ	<i>Toxorhynchites towadensis</i>	—	—	*3	*3	*3		
ムシヒキアブ科	Asilidae							
オオイシアブ	<i>Laphria mitsukurii</i>	—	*4	*4	*4	*4		
チャイロオオイシアブ	<i>Laphria rufa</i>	—	*5	*5	*5	*5		
ハナアブ科	Syrphidae							
クロベッコウハナアブ	<i>Volucella nigricans</i>	*6	*6	*6	—	*6		
ハチモドキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>	—	*7	*7	—	*7		
オオナガハナアブ	<i>Spilomyia gigantea</i>	—	—	—	CR+EN	CR+EN		
クロバエ科	Calliphoridae							
ショウジョウクロバエ	<i>Dexopollenia flava</i>	—	—	—	*8	*8		
カエルキンバエ	<i>Lucilia chini</i>	—	—	—	—	CR+EN	DD	1
ミドリバエ	<i>Isomyia senomera</i>	—	—	*9	*9	*9		
ニクバエ科	Sarcophagidae							
ハマベニクバエ	<i>Sarcophaga alba</i>	*10	・	・	・	*10		

和名、学名は、環境庁(編), 1995. 日本産野生生物目録無脊椎動物編Ⅱ. に、配列は、石井実・他, 1997. 日本動物大百科第9巻 昆虫Ⅱ. 平凡社. に準拠した。

ただし、ハマベニクバエの学名は、Pape, T., 1996. Catalogue of the Sarcophagidae of the World (Insecta; Diptera). に準拠した。

【備考】

1: 東京都における記録は、Fauna JaponicaにTokyoと記述されているのみで、具体的な記録地が不明である。そのため、地域区分ごとの評価ができず、本土部全体での判定のみとせざるを得なかった。

Kano, R. and Shinonaga, S. (1968). Calliphoridae (Insecta: Diptera) (Fauna Japonica), Tokyo Biogeographical Society of Japan

【留意種とした理由】

和名	地域区分	留意種とした理由
*1 ミカドガガンボ	北多摩	幼虫は細流の砂地中に生息することから、里山的な環境を指標する種であり、なおかつ大型種で確認が容易であるため。
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	
*2 ハマダラハルカ	南多摩	幼虫はネムノキの朽木の樹皮下に生育することから、樹林環境を指標する種であり、なおかつ、第三紀の周北極要素を示す種として学術的にも貴重な種であるため。
	西多摩	
	本土部	
*3 トワダオオカ	南多摩	幼虫は樹洞内の溜まり水に発生し、他種のボウフラを捕食することから、古い樹木の残る良好な樹林環境を指標する種であるため。
	西多摩	
	本土部	
*4 オオイシアブ	北多摩	成虫、幼虫ともに捕食性であり、幼虫は朽木に生息し、成虫も樹林環境周辺に見られることから、良好な樹林環境を指標する種で、環境指標性が高いため。
	南多摩	
	西多摩	
	本土部	

	和名	地域区分	留意種とした理由
*5	チャイロオオイシアブ	北多摩	成虫、幼虫ともに捕食性であり、幼虫は朽木に生息し、成虫も樹林環境周辺に見られることから、良好な樹林環境を指標する種で、環境指標性が高いため。オオイシアブよりも山地に生息する。
		南多摩	
		西多摩	
		本土部	
*6	クロベッコウハナアブ	区部	本種の幼虫はクロスズメバチ類の巣に寄生することから、クロスズメバチ類が生息している良好な樹林環境の指標となるため。
		北多摩	
		南多摩	
		本土部	
*7	ハチモドキハナアブ	北多摩	低地から台地、丘陵地のクスギを主とした樹林環境を指標する種であり、なおかつ特徴的で確認が容易であるため。
		南多摩	
		本土部	
*8	ショウジョウクロバエ	西多摩	丘陵地から山地の湿地草原に生息し、環境指標性が高いため。
		本土部	
*9	ミドリバエ	南多摩	丘陵地から山地の樹林環境周辺に生息しており、環境指標性が高いため。なお本種の幼虫は、朽木などに生息するシロアリに寄生する可能性が疑われている。
		西多摩	
		本土部	
*10	ハマベニクバエ	区部	海岸の砂浜に生息する種で環境指標性が高く、全国的に個体数が減少しているため。
		本土部	

(8) チョウ目チョウ類

【調査・評価方法の概要】

東京都の蝶類データ集（倉地正・栗山定(編), 2007. グループ多摩虫. 187pp.）によれば、戦前（1945 年以前）を含め、2006 年までに記録された東京都本土部のチョウ類の種数は、アゲハチョウ科 13 種、シロチョウ科 12 種、シジミチョウ科 37 種、テングチョウ科 1 種、マダラチョウ科 5 種、タテハチョウ科（ジャノメチョウ亜科を含む）52 種、セセリチョウ科 19 種の合計 139 種に及ぶ。このうち、前回（1998 年版）に選定された本土部のチョウ類の種数は、アゲハチョウ科 3 種、シロチョウ科 2 種、シジミチョウ科 21 種、テングチョウ科 1 種、タテハチョウ科（ジャノメチョウ亜科を含む）20 種、セセリチョウ科 7 種、合計 54 種を数える。

今回の改定作業は、文献による情報収集を中心に定性要件を取り入れ評価した。前回、人為分布の可能性が考えられるとし、評価対象から外したギフチョウを今回は検討対象種に加え、奥多摩の石灰岩地域に遺存分布するホシミスジも貴重種と判断し、検討対象種に組み入れた。その結果、今回の改定で検討対象種は 56 種とした。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 50 種となった。2009 年よりさかのぼっておおむね 30 年以上記録がなく、絶滅したと判断できる場合は絶滅 (EX) とした。また、環境の変化で絶滅した可能性が高いが判断が困難な種は、絶滅危惧 I 類 (CR+EN) としたものもある。区部のオナガアゲハ、ウラナミアカシジミ、南多摩のアイノミドリシジミ、ウラギンスジヒョウモン、西多摩のウスイロオナガシジミ、ウラミスジシジミ、ジョウザンミドリシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモンがそれに当たる。また、前回（1998 年版）掲載種のうち、ベニシジミ、テングチョウ、サカハチチョウ、フタスジチョウ、コムスジ、サトキマダラヒカゲの 6 種は今回の改定によりランク外となり、掲載種から外れる結果となった。

前回、区部で A ランク*であったコムスジが、今回は個体数の増加によりランク外になった。増加の理由はよく分からないが、ニセアカシアの街路樹で発生している点は興味深い。

長いスパンで振り返ると、東京都から大規模な湿地帯が無くなったことで絶滅したのではないかと思われるチョウがいる。古くは、ヒメシロチョウ、ここ 30 年では、アサマイチモンジである。

多摩地域では、森林草地の刈取りが衰退し、奥多摩の尾根に分布していたヒメシジミが絶滅した。このように、東京都には、人間の営みの中で個体数の増減があるチョウと、奥多摩の自然林の中で発生するアイノミドリシジミ、キバネセセリのように、人間の営みにほとんど影響されないチョウが生息している。今回の掲載種 50 種はこれら両方に関係している。

* 1998 年当時環境庁レッドデータブックの「絶滅危惧種」に相当

(福田 晴男)

チョウ目チョウ類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
チョウ目(鱗翅目)	LEPIDOPTERA							
アゲハチョウ科	Papilionidae							
ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	・	・	EX	・	EX	VU	1
ウスバアゲハ	<i>Parnassius citrinarius</i>	・	DD	○	○	○		
オナガアゲハ	<i>Papilio macilentus</i>	CR+EN	○	○	○	○		
ミヤマカラスアゲハ	<i>Papilio maackii</i>	DD	DD	○	○	○		
シロチョウ科	Pieridae							
ヒメシロチョウ	<i>Leptidea amurensis</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EN	
ツマグロキチョウ	<i>Eurema laeta</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EN	
シジミチョウ科	Lycaenidae							
ゴイシジミ	<i>Taraka hamada</i>	DD	○	○	○	○		
ウラゴマダラシジミ	<i>Artopoetes pryeri</i>	EX	DD	○	○	○		
ムモンアカシジミ	<i>Shirozua jonasi</i>	・	・	DD	DD	DD		
アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	DD	○	○	○	○		
ウラナミアカシジミ	<i>Japonica saepestriata</i>	CR+EN	*1	○	○	○		
ミズイロオナガシジミ	<i>Antigius attilia</i>	*2	○	○	○	○		
ウスイロオナガシジミ	<i>Antigius butleri</i>	・	・	VU	CR+EN	VU		
ウラムシジミ	<i>Wagimo signatus</i>	・	・	DD	CR+EN	DD		
ハヤシミドリシジミ	<i>Favonius ultramarinus</i>	・	・	VU	VU	VU		
オオミドリシジミ	<i>Favonius orientalis</i>	DD	○	○	○	○		
ジョウザンミドリシジミ	<i>Favonius taxila</i>	・	・	・	CR+EN	CR+EN		
ミドリシジミ	<i>Neozephyrus japonicus</i>	DD	*3	*3	*3	*3		
アイノミドリシジミ	<i>Chrysozephyrus brilliantinus</i>	・	・	CR+EN	DD	DD		
カラスシジミ	<i>Fixsenia w-album</i>	・	・	NT	DD	NT		
コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>	EX	DD	○	○	○		
クロシジミ	<i>Niphanda fusca</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EN	
シルビアシジミ	<i>Zizina otis</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EN	
ヒメシジミ	<i>Plebejus argus</i>	・	・	・	EX	EX	NT	
アサマシジミ	<i>Lycaeides subsolanus</i>	・	・	EX	EX	EX	EN	
ミヤマシジミ	<i>Lycaeides argyrognomon</i>	EX	EX	EX	EX	EX	EN	
タテハチョウ科	Nymphalidae							
ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	DD	DD	○	○	○		
ウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome laodice</i>	EX	EX	CR+EN	CR+EN	CR+EN	VU	
オオウラギンスジヒョウモン	<i>Argyronome rulsana</i>	DD	DD	○	○	○		
クモガタヒョウモン	<i>Nephargynnis anadyomene</i>	EX	DD	○	○	○		
メスグロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>	DD	○	○	○	○		
ウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana adippe</i>	CR+EN	CR+EN	CR+EN	DD	DD		
オオウラギンヒョウモン	<i>Fabriciana nerippe</i>	EX	EX	EX	EX	EX	CR	
ミスジチョウ	<i>Neptis philyra</i>	EX	DD	○	○	○		
オオミスジ	<i>Neptis alwina</i>	EX	EX	EX	DD	DD		
ホシミスジ	<i>Neptis pryeri</i>	・	—	VU	○	○		
イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla</i>	DD	○	○	○	○		
アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>	EX	EX	EX	EX	EX		
コムラサキ	<i>Apatura metis</i>	*4	○	○	○	○		
オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	EX	DD	○	○	○	NT	
コジャノメ	<i>Mycalesis francisca</i>	DD	○	○	○	○		
ジャノメチョウ	<i>Minois dryas</i>	EX	○	○	○	○		
ヒメキマダラヒカゲ	<i>Zophoessa callipteris</i>	・	・	DD	○	○		
セセリチョウ科	Hesperiidae							
キバネセセリ	<i>Burara aquilina</i>	・	・	・	VU	VU		
ミヤマセセリ	<i>Erynnis montanus</i>	EX	*5	○	○	○		

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>	EX	DD	*6	*6	*6		
ホシチャバネセセリ	<i>Aeromachus inachus</i>	・	・	・	EX	EX	EN	
ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>	DD	○	○	○	○		
コキマダラセセリ	<i>Ochlodes venatus</i>	・	・	EX	DD	DD		
アカセセリ	<i>Hesperia florinda</i>	・	・	・	EX	EX	EN	

和名、学名、配列は、白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑, 学習研究社. に準拠した。

【備考】

1: 1970年代前半で絶滅し、その後の記録は他産地の飼育個体由来のものと考えられる。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	ウラナミアカシジミ	北多摩	クヌギ林に生息しているが、宅地開発等によりクヌギ林が減少し、絶滅危惧種になる可能性があるため。
*2	ミズイロオナガシジミ	区部	公園等のクヌギの減少により、絶滅危惧種になる可能性があるため。
*3	ミドリシジミ	北多摩	湿地のハンノキ林に生息しているが、宅地開発等により湿地が減少し、絶滅危惧種になる可能性が高いため。
		南多摩	
		西多摩	
		本土部	
*4	コムラサキ	区部	ヤナギのある良好な水辺環境を指標する種であり、このような環境は区部では残存的であることから生息地が限定されるため。
*5	ミヤマセセリ	北多摩	クヌギを含めた雑木林に生息しているが、宅地開発等によりクヌギ林を含めた雑木林が減少し、絶滅危惧種になる可能性があるため。
*6	ホソバセセリ	南多摩	疎林草原の減少により、絶滅危惧種になる可能性があるため。
		西多摩	
		本土部	

(9) チョウ目ガ類

【選定・評価方法の概要】

昆虫の中でもガ類は、沢山の種類があり、多種多様で非常に繁栄している仲間である。日本産蛾類大図鑑（1982, 講談社）によると、日本では 4,578 種が知られていた。その後、新発見などで種類数が増加し、現在では 6,000 種を超える種が日本に産し、将来は 7,000 種以上産するのではないかとわれている。ガ類の多くは、その食性から環境の指標となりうるものが多く、環境アセスメントの評価に際し役立っている。東京都のガ類の記録は、昆虫採集のメッカとして有名だった高尾山をはじめ、奥多摩、多摩川流域などのものがある。しかし、発表されたものは少なく、多くの記録が日の眼を見ないで埋もれてしまっている。また、発表も散発的で、東京都全体のまとまった目録は作成されていない。

東京都の 1998 年版レッドリストでは、ガ類は対象外であった。それは、都内で継続してガ類の調査が行われることが少なかったこと、ガ類の研究者が減少し調査が行われていないこと、都市化により灯火が増え、夜間のトラップ採集が難しくなったことなどが理由と考えられる。今回、ガ類をレッドリストの対象に加えるにあたって、確実に絶滅と考えられる種と、大型で目立ち、衰退がある程度認識できる種に絞って検討対象種をリストアップした。他にもリストアップすべきと思われる種は多数あったが、調査不足、情報不足から衰退が不明で、ほとんどが評価できないという結果となってしまうので、やむをえず除外した。その結果、今回の改定での検討対象種は 7 種とした。

絶滅のおそれの評価は、基本的に定性的要件を用いた。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、本レッドリストの掲載種は 7 種となった。今回、絶滅 (EX) と判断したのは、カバシタムクゲエダシャク、タケウチエダシャク、マエアカヒトリの 3 種である。カバシタムクゲエダシャクは小金井市（蛾類大図鑑で清瀬市とあるのは間違い）のクヌギ林で 1958 年の 3 月に採集された雌 1 個体の記録しかなく、その後の探索でもみつかっていない。タケウチエダシャクは、戦前の記録しかなく、国立科学博物館には三鷹で 1941 年 4 月、高尾山で 1933 年 4 月に採集された個体が所蔵されている。戦後の確実な記録はない。マエアカヒトリは、以前は害虫とされており、石神井、清瀬、立川、八王子市などで採集されていた。1960 年代以降、急速に減少し、現在では他の多くの地域で絶滅危惧種にリストアップされている。イボタガは、区部では大田区、世田谷区などで 1965 年頃までは生息していたが、その後の生息は確認されていないので絶滅危惧 I 類 (CR+EN) とした。同じくクスサン、ウスタビガも区部では同様の CR+EN とした。都区内の自然が残っている地として有名な皇居、赤坂御所などで継続してガ類の調査は行われているが、この 3 種は採集されていない。南多摩地域、北多摩地域などの山間部ではこれらの種の衰退ははっきりわかっていない。オオミズアオは区部で一度非常に減少したが、最近復活してきたようで皇居な

どで生息が確認されている。この種は山間部では普通に産し、問題はない。今回、調査、情報不足のため検討対象種にリストアップしなかったガ類には、高尾山をタイプロカリティ*として記載されたタカオキリガ、平地のクヌギ林に生息するヤガ科のシタバ(カトカラ)類のほか、河川敷、湿地のガ類などがある。また、藁ぶき屋根の家屋がなくなったことにより、その屋根に生えるコケ類を食すヤネホソバ、シロホソバなどのコケガ類の衰退も注意が必要である。

* 分類・命名に使用した基準となる標本を採集した地点。

(岸田 泰則)

チョウ目ガ類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
チョウ目(鱗翅目)	LEPIDOPTERA						
シャクガ科	Geometridae						
カバシタムクゲエダシャク	<i>Sebastosema bubonarum</i>	・	EX	・	・	EX	CR
タケウチエダシャク	<i>Biston takeuchii</i>	・	EX	EX	・	EX	
イボタガ科	Brahmaeidae						
イボタガ	<i>Brahmaea japonica</i>	CR+EN	CR+EN	VU	VU	VU	
ヤママユガ科	Saturniidae						
クスサン	<i>Saturnia japonica</i>	CR+EN	VU	○	○	○	
ウスタビガ	<i>Rhodinia fugax</i>	CR+EN	VU	○	○	○	
オオミズアオ	<i>Actias aliena</i>	VU	VU	○	○	○	
ヒトリガ科	Arctiidae						
マエアカヒトリ	<i>Aloa lactinea</i>	EX	EX	EX	EX	EX	

和名、学名、配列は、神保宇嗣, 2004-2008. 日本産蛾類総目録. <http://listmj.mothprog.com/> に準拠した。

8. 甲殻類

【選定・評価方法の概要】

甲殻類は、1998年版では対象とされておらず、今回、初めて対象となった分類群である。水中あるいは周辺湿地に生息する動物群で、顕微鏡サイズのミジンコ類から節足動物中最大のタカアシガニまで、大小も形態も生態も著しく変化に富んでいる。河川や湖沼、磯や干潟から深海まで多くの種が知られているが、エビ類、ヤドカリ類、カニ類（十脚甲殻類）には水産資源として重要な種が含まれている。

今回、評価対象としたのは十脚甲殻類のみである。ミジンコ類など微小なプランクトンや湿地性のワラジムシ類なども水質や環境を知るためには重要な指標となること、また、生息環境が埋め立てや宅地化により失われつつあることは事実であるが、分布記録が少ないこと、肉眼での観察、種名の決定が困難であることなどの理由で評価対象から除外した。

十脚甲殻類は海水性、汽水性、純淡水性、半陸生性、両側回遊性に分けられる。今回は海産種以外を評価対象とし、汽水域で記録されている種については、主たる生息地がどこかということを検討した。

東京都から記録されている汽水産、淡水産の十脚甲殻類は、エビ類6種、カニ類12種である。このうち、エビジャコは汽水域で相当数採集されたことがあるが（国土交通省「平成13年度河川水辺の国勢調査」）、本来の生息地は数～十数メートルの海底であるので評価対象外とした。また、コブシガニは汽水域よりもむしろ遠浅の潟が、イソガニは岩礁がそれぞれ本来の生息地であるとして評価対象外とした。そのため、その他のエビ類5種、カニ類10種を検討対象種とした。

既存の生息記録が少ないことから、個体数や生息地の経年的増減を知ることができないため、定性的要件に基づいて評価を行った。

【選定・評価結果の概要】

検討対象種とした15種について、現在の生息環境と他県での生息状況などを考え合わせ、全ての種において問題のない個体数が維持されていると判断されたが、下記の理由により留意する必要があるため、留意種とした。

海と陸が隔てられた短い海岸線、大都会を流れている河川、宅地化が進む北多摩地域、南多摩地域、自然が残る西多摩地域と、東京都は明らかに異なる環境から成る。汽水域から淡水域まで遡上するクロベンケイガニ、多摩地域の溪流に生息するサワガニ、大型河川の中流域に生息するテナガエビなどの例を見るまでもなく、十脚甲殻類が東京都全域に分布することはなく、希少種や特定の環境を必要とする種はすでに淘汰され、比較的環境変化に強い種が生息しているのが現状であると判断される。結果として、現在生息している種の増減こそが、水域環境の直接的指標となると考えられることから、多くの種を留意種に指定した。また、2004年に東京湾で採集されたチュウゴクモクズガニの増殖が危惧され

ることから、生態的に競合するモクズガニも留意種とした。

浮遊幼生が他海域から補給される海産甲殻類と比較して、淡水域や汽水域に生息する甲殻類は水質の状況に応じて個体数は増減し、あるいは宅地造成などによって生息地が失われて絶滅する。十脚甲殻類は水中生活であることから、採集や観察は容易ではないが、いずれも環境指標種として有用である。

なお、既刊の図鑑類では未だ見られないが、研究者間では、従来のスナガニ科をオサガニ科やコメツキガニ科など、イワガニ科をモクズガニ科やベンケイガニ科などに細分する傾向が強く、本書でも科名を最新の研究結果に従って表記した。

(武田 正倫)

甲殻類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
エビ目(十脚目)	DECAPODA						
テナガエビ科	Palaemonidae						
シラタエビ	<i>Palaemon orientis</i>	*1	・	・	・	*1	
スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	*2	*2	*2	*2	*2	
ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>	*3	・	・	・	*3	
テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>	*4	・	*4	*4	*4	
ヌマエビ科	Atyidae						
ヌカエビ	<i>Paratya improvisa</i>	*5	・	*5	*5	*5	
サワガニ科	Potamidae						
サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>	*6	*6	*6	*6	*6	
オサガニ科	Macrophthalmidae						
ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	*7	・	・	・	*7	
コメツキガニ科	Dotillidae						
チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>	*8	・	・	・	*8	
コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>	*9	・	・	・	*9	
モクズガニ科	Varunidae						
モクズガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	*10	・	*10	・	*10	
ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>	*11	・	・	・	*11	
ベンケイガニ科	Sesarmidae						
クロベンケイガニ	<i>Chiromantes dehaani</i>	*12	・	・	・	*12	
ベンケイガニ	<i>Sesarmops intermedius</i>	*13	・	・	・	*13	
カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>	*14	・	・	・	*14	
アシハラガニ	<i>Helice tridens</i>	*15	・	・	・	*15	

和名、学名は三宅貞祥, 1983. 原色日本大型甲殻類図鑑. 保育社. および, Ng, P.K.L., D. Guinot & P.J.F. Davie, 2008.

Systema Brachyurorum: Part I. An Annotated Checklist of Extant Brachyuran Crabs of the World. Raffles Bull. Zool., Suppl. (17), 286 pp. に準拠した。また、配列は評価者の判断に従った。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	シラタエビ	区部 本土部	下流域に生息する汽水性エビ類の代表種で、適度な塩分濃度のある環境の指標となるため。
*2	スジエビ	区部 北多摩 南多摩 西多摩 本土部	典型的な「中流域に生息するエビ」で、緩やかな流れに水草が育つ良好な河川の指標となるため。
*3	ユビナガスジエビ	区部 本土部	下流域に生息する淡水性エビ類の代表種で、その生息地は汚染の影響を受けるため。
*4	テナガエビ	区部 南多摩 西多摩 本土部	緩やかな流れと水草のある河川のやや深みに生息する種で、下流域から中流域上部まで生息域が広い。大型種で注目度が高いことから、良好な河川環境の指標として利用しやすいため。
*5	ヌカエビ	区部 南多摩 西多摩 本土	中流域の止水環境に生息する種で、緩やかな流れと水草のある良好な河川の指標となるため。

	和名	地域区分	留意種とした理由
*6	サワガニ	区部	清流にすむカニであるが、低地では生息環境が失われた地域が多く、山間部では樹木の伐採、倒木の放置などにより良好な生息地が狭められつつあるため。
		北多摩	
		南多摩	
		西多摩	
		本土部	
*7	ヤマトオサガニ	区部	河口の軟泥地に穴居し、干潮時に巣穴の外で活動する。鳥類の餌として重要であり、干潟の環境指標としても役立つため。
		本土部	
*8	チゴガニ	区部	河口近くの泥まじりの砂地に穴居し、干潮時に活動する。きれいな干潟の象徴となるため。
		本土部	
*9	コメツキガニ	区部	チゴガニよりも岸寄りに生息する。きれいな干潟の象徴となるため。
		本土部	
*10	モクズガニ	区部	河川の中流域で生活し、産卵のために降海する両側回遊種であり、稚ガニは海から遡上するために河口域の汚染の指標となる。また、生態的に競合する特定外来生物、チュウゴクモクズガニ(シヤンハイガニ)の動向とともに個体数の増減に留意する必要があるため。
		南多摩	
		本土部	
*11	ケフサイソガニ	区部	生息地はヤマトオサガニよりもやや岸寄りの軟泥地で、河川の汚染を直接受けることから、環境の指標となるため。鳥類の餌としても重要である。
		本土部	
*12	クロベンケイガニ	区部	河川の流軸に沿って遡上し、水質の汚染にも比較的強い。過度の汚染の指標となるため。
		本土部	
*13	ベンケイガニ	区部	下流域に生息し、流域の土手などに穴居するため、河川改修の影響を強く受け、環境指標となるため。
		本土部	
*14	カクベンケイガニ	区部	流域から離れて、土手から陸上へと進出するが、草地のような生息環境を必要とするため。
		本土部	
*15	アシハラガニ	区部	河口域のヨシ原を主生息地とするカニで、河口域の自然植生の指標となるため。
		本土部	

9. クモ類

【選定・評価方法の概要】

クモ類 (Arachnida) は 1998 年版には取り上げられておらず、今回の改定において初めて対象に加わった動物群である。クモ類には、いわゆる糸を出すクモ目 (Araneae) のほかダニ目 (Acari)、ザトウムシ目 (Opiliones)、カニムシ目 (Pseudoscorpiones) など多くの群を含むが、ダニは保護の観点からの情報に乏しく、また、ザトウムシおよびカニムシについては差し迫った対象種がなかったため、本土部においてはクモ目のみを評価対象とした。

クモは日本に約 1,500 種が知られる多様性に富む動物で、個体数も多く、体サイズや生態学的な特性も変化に富む。生涯を通じて肉食性で、自然環境あるいは市街地の緑地等の人為環境下の生態系において昆虫類の捕食者として、また、鳥類や両生類、爬虫類などの小型脊椎動物の食餌動物としても重要な役割を果たしている。

検討に際しては、文献の探索や国立科学博物館が所蔵する標本の再検討のほか、東京都のクモ類について造詣のある多くのクモ研究者と情報交換を行なった。その過程で、東京都で確認されているクモ類 600 種近くのうち約 1 割を掲載候補として検討を重ね、最終的には 33 種を検討対象種として評価を行った。

分類体系や学名および和名は『日本産クモ類』(小野展嗣編, 2009. 東海大学出版会) に従い、ランク付けは、環境省の『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物、クモ類・甲殻類等 2006』を参考に、東京都の特殊性を加味して定性的要件に基づいて行った。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、33 種が本レッドリストの掲載種に選定された。洞窟等暗湿な環境に依存している種 (ニッパラマシラグモ等) や分散を歩行に頼る移動能力の低い種 (カネコトタテグモ等) もあるが、多くは純粋に森林、草原、水辺などの良好な環境を必要としたり、餌となる昆虫の大きさや多様性に影響されやすい等植生や環境の人為的な変化に敏感に影響されるクモであり、そうした種々の要因が複合的に働き結果的に個体数を減らしたり希少となっているものである。

(小野 展嗣)

クモ類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
 [NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
クモ目	ARANEAE						
ワスレナグモ科	Calommatidae						
ワスレナグモ	<i>Calommata signata</i>	NT	NT	NT	DD	NT	NT
カネコタテグモ科	Antrodiaetidae						
カネコタテグモ	<i>Antrodiaetus roretzii</i>	VU	NT	VU	NT	NT	NT
トタテグモ科	Ctenizidae						
キシノウエトタテグモ	<i>Latouchia typica</i>	VU	NT	NT	NT	NT	NT
キノボリトタテグモ	<i>Conothele fragaria</i>	VU	NT	NT	DD	NT	NT
エンマグモ科	Segestriidae						
コマツエンマグモ	<i>Segestria nipponica</i>	—	—	DD	DD	DD	
ユウレイグモ科	Pholcidae						
アケボノユウレイグモ	<i>Spermophora akebona</i>	・	・	・	NT	NT	
マシラグモ科	Leptonetidae						
ヤマトマシラグモ	<i>Falcileptoneta japonica</i>	VU	DD	DD	DD	DD	
ニッパラマシラグモ	<i>Masirana nippara</i>	・	・	・	VU	VU	
ヤギヌマグモ科	Telemidae						
ヤマトヤギヌマグモ	<i>Telega nipponica</i>	—	—	—	DD	DD	
タナグモ科	Agelenidae						
ムサシミタナグモ	<i>Cryphoea shinkaii</i>	・	・	・	VU	VU	
ハウシグモ科	Zodariidae						
ドウシグモ	<i>Doosia japonica</i>	VU	NT	NT	NT	NT	DD
サシアシグモ科	Trechaleidae						
シノビグモ	<i>Shinobius orientalis</i>	—	—	—	DD	DD	
コモリグモ科	Lycosidae						
スズキコモリグモ	<i>Lycosa suzukii</i>	EX	DD	EX	DD	DD	
サラグモ科	Linyphiidae						
カナコキグモ	<i>Tapinopa guttata</i>	・	・	・	DD	DD	
ニシキサラグモ	<i>Taranucnus nishikii</i>	・	・	・	NT	NT	
ホラヒメグモ科	Nesticidae						
トウキョウホラヒメグモ	<i>Nesticus shinkaii</i>	・	・	・	VU	VU	
アシナガグモ科	Tetragnathidae						
サンロードヨウグモ	<i>Meta japonica</i>	・	・	・	NT	NT	
コガネグモ科	Araneidae						
キジロオヒキグモ	<i>Arachnura logio</i>	NT	DD	DD	DD	NT	
コガネグモ	<i>Argiope amoena</i>	VU	NT	NT	NT	NT	
ツシマトリノフンダマシ	<i>Paraplectana tsushimensis</i>	—	—	DD	DD	DD	
マメイタイセキグモ	<i>Ordgarius hobsoni</i>	—	—	DD	DD	DD	
ムツトゲイセキグモ	<i>Ordgarius sexspinosus</i>	—	—	NT	NT	NT	
トゲグモ	<i>Gasteracantha kuhlii</i>	—	—	DD	DD	DD	
コケオニグモ	<i>Araneus seminiger</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
ニシキオニグモ	<i>Araneus variegatus</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
ゴマジロオニグモ	<i>Mangora herbeoides</i>	—	—	NT	DD	DD	
アワセグモ科	Selenopidae						
アワセグモ	<i>Selenops bursarius</i>	—	—	VU	—	DD	
アシダカグモ科	Sparassidae						
コアシダカグモ	<i>Sinopoda forcipata</i>	VU	NT	NT	DD	NT	
カニグモ科	Thomisidae						
カトウツケオグモ	<i>Phrynarachne katoi</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
ヨコフカニグモ	<i>Xysticus transversomaculatus</i>	NT	DD	DD	DD	DD	
オビボソカニグモ	<i>Xysticus trizonatus</i>	DD	DD	DD	DD	DD	
アシナガカニグモ	<i>Heriaeus mellottei</i>	DD	DD	NT	NT	NT	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	
イツツグモ科	Anyphaenidae						
ナガイツツグモ	<i>Anyphaena ayshides</i>	—	—	—	DD	DD	

和名、学名、配列は、小野展嗣(編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, に準拠した。

10. 貝類

【選定・評価方法の概要】

貝類は、本土部においては1998年版で対象とされておらず、今回、初めて対象となった分類群である。対象とした範囲は、ほぼ環境省に準拠して、陸域と淡水域を含む陸水域に生息する種である。陸水域の一部として、いわゆる干潟にも生息する種も対象としたが、ハマグリ等の種は対象外とした。また、種小名の確定していない種（sp. で表記したもの；未記載種や現時点で種レベルでの種名の確定が困難なもの）も対象とした。対象種は、これまでに東京都から分布記録が報告されている種か、東京都産の標本が存在するもののみとした。

貝類では、分布記録は比較的多いが、高度経済成長期以降のものを除き経時的な密度変化を示すデータはほとんど存在しないので、評価は定性的要件に基づいた。そのため、基本的に絶滅危惧ⅠA類（CR）と絶滅危惧ⅠB類（EN）の評価を区別しなかった。

対象とした年代は、明治期以降としたが、具体的には報告の増加する昭和初期（およそ1930年代）以降である。なお、目名は学術用語集に、科名・学名等はわずかに新しい見解で変更したが、環境省のレッドリスト（2007）に準拠した。

評価の対象としたものは、およそ陸産種100種、淡水産30種、汽水・干潟産20種程度で、このうち71種を検討対象種とした。

【選定・評価結果の概要】

評価の結果、検討対象種71種全てが本レッドリスト掲載種に選定された。区部では、汽水・干潟産種では、干潟の消失等で多くの種が絶滅と判断され、他の生息場所でも選定された種数が多かった。一方、北多摩地域では、過去の文献と標本が極めて少なく、掲載種数はわずかとなった。また、淡水産種も近年の環境調査を含む文献・標本とも少なく、多くの種が高いランクとなった。

陸産貝類では、小面積でも人為改変が少ないと高い多様性を保っていることは経験的にも知られており、皇居・高尾山・御岳・日原鍾乳洞付近等がそのような地域と考えられる。淡水産貝類では、杉並区善福寺公園等でいくつかの種が確認されているが、良好に多数の種が残存している地域を確認することができなかった。汽水域では、多摩川河口や江戸川放水路のアシ原やその前面の河口干潟でいくつかの種が生息している。

貝類でも外来種（移入種）が着実に増加しており、移入のタイワンシジミによる土着のマシジミの激減も知られている。また、意図的な移入（導入）も淡水産種で比較的多く、例えば皇居外濠のカラスガイも移入と考えられたので今回は評価の対象としていない。

（黒住 耐二）

貝類(本土部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [CR+EN]絶滅危惧Ⅰ類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [*]留意種 [○]ランク外 [-]データ無し [・]非分布

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
オキナエビス目	ARCHAEOGASTROPODA							
ユキノカサ科	Acmaeidae							
ツボミガイ	<i>Patelloida conulus</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
ヤマキサゴ科	Helicinidae							
ヤマキサゴ	<i>Waldemaria japonica</i>	・	・	VU	NT	NT		
ニナ目	MESOGASTROPODA							
ヤマタニシ科	Cyclophoridae							
サドヤマトガイ	<i>Japonia sadoensis</i>	CR+EN	—	VU	—	VU	NT	
タニシ科	Viviparidae							
マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis</i>	CR+EN	—	—	DD	CR+EN	NT	
オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	NT	
ワカウラツボ科	Iravadiidae							
カワグチツボ	<i>Iravadia elegantula</i>	*1	・	・	・	*1	NT	
カワザンショウガイ科	Assimineidae							
ムシヤドリカワザンショウ	<i>Angustassiminea parasitologica</i>	DD	・	・	・	DD	NT	
ヨシダカワザンショウ	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>	VU	・	・	・	VU	NT	
ミズゴマツボ科	Stenothyridae							
ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ)	<i>Stenothyra edogawensis</i>	*2	・	・	・	*2	VU	
ミズゴマツボ	<i>Stenothyra japonica</i>	DD	・	・	・	DD	NT	
エゾマメタニシ科	Bithyniidae							
マメタニシ	<i>Parafossarulus manchouricus japonicus</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	VU	
ヘナタリガイ科	Potamididae							
クロヘナタリ	<i>Cerithidea largillierti</i>	EX	・	・	・	EX	CR+EN	
フトヘナタリ	<i>Cerithidea rhizophorarum</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
ヘナタリ	<i>Cerithideopsis cingulata</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
カワアイ	<i>Cerithideopsis djadjariensis</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
ウミニナ科	Batillariidae							
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	EX	・	・	・	EX	VU	
オカミミガイ目	ARCHAEOPULMONATA							
ケシガイ科	Carychiidae							
ケシガイ	<i>Carychium pessimum</i>	—	—	—	NT	NT	NT	
モノアラガイ目	BASOMMATOPHORA							
モノアラガイ科	Lymnaeidae							
モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>	VU	—	—	VU	VU	NT	
ヒラマキガイ科	Planorbidae							
カワネジガイ	<i>Camptoceras hirasei</i>	EX	—	—	—	EX	CR+EN	
ヒダリマキモノアラガイ	<i>Culmenella prashadi</i>	EX	—	—	—	EX	CR+EN	
ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis spirillus</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	DD	
ハブタエヒラマキ	<i>Gyraulus illibatus</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	DD	
ミズコハクガイ	<i>Gyraulus soritai</i>	—	—	CR+EN	—	CR+EN	VU	
トウキョウヒラマキ	<i>Gyraulus tokyoensis</i>	VU	—	—	—	VU	DD	
ヒラマキガイモドキ	<i>Polypylis hemisphaerula</i>	CR+EN	VU	—	—	CR+EN	DD	
マイマイ目	STYLOMMATOPHORA							
オカモノアラガイ科	Succineidae							
コウフオカモノアラガイ	<i>Neosuccinea kofui</i>	—	*3	*3	—	*3	VU	
ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>	NT	*4	*4	*4	NT	NT	
キバサナギガイ科	Vertiginidae							
スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella armigerella</i>	—	—	*5	—	*5	NT	
ナタネキバサナギガイ	<i>Vertigo eogea eogea</i>	—	—	VU	—	VU	VU	
キバサナギガイ	<i>Vertigo hirasei</i>	—	—	CR+EN	—	CR+EN	CR+EN	

和名	学名	東京都ランク					環境省 ランク	備考
		区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部		
キセルガイ科	Clausiliidae							
オオギセル	<i>Megalophaedusa martensi</i>	・	・	VU	VU	VU		1
オクガタギセル	<i>Mundiphaedusa dorcas</i>	・	・	VU	NT	NT	NT	
オオトノサマガセル	<i>Mundiphaedusa rex</i>	・	・	—	NT	NT	NT	
ツメギセル	<i>Mundiphaedusa rhopalia</i>	・	・	VU	—	VU	NT	
ヤグラギセル	<i>Mundiphaedusa yagurai</i>	・	・	・	VU	VU	VU	
ヒロクチコギセル	<i>Reimia variegata</i>	DD	・	・	・	DD	CR+EN	
ベッコウマイマイ科	Helicarionidae							
ヒラベッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	・	・	—	DD	DD	DD	
カントウベッコウ	<i>Bekkochlamys septentrionalis</i>	・	・	—	NT	NT	DD	
スカシベッコウ	<i>Bekkochlamys serenus</i>	・	・	—	DD	DD	NT	
ハコネヒメベッコウ	<i>Japanochlamys hakonensis</i>	・	・	NT	NT	NT	DD	
ハクサンベッコウ	<i>Nipponochlamys hakusanus</i>	・	・	—	NT	NT	DD	
キヌツヤベッコウ	<i>Nipponochlamys semisericata</i>	・	—	NT	NT	NT	DD	
ヒゼンキビ	<i>Parakaliella hizenensis</i>	・	・	—	DD	DD	NT	
ヒメハリマキビ	<i>Parakaliella pagoduloides</i>	NT	—	—	DD	NT	NT	
カサネシタラガイ	<i>Sitalina insignis</i>	・	・	—	DD	DD	NT	
ウメムラシタラガイ	<i>Sitalina japonica</i>	NT	—	—	NT	NT	NT	
オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>	NT	—	—	NT	NT	DD	
タカキビ	<i>Trochochlamys praealta</i>	・	—	—	NT	NT	NT	
ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	NT	—	—	—	NT	NT	
マサトヨキビ	<i>Trochochlamys</i> sp. 1	・	・	VU	—	VU		
ニッパラキビ	<i>Trochochlamys</i> sp. 2	・	・	—	NT	NT		
ナンバンマイマイ科 (ニッポンマイマイ科)	Camaenidae							
ビロードマイマイ (トウカイビロードマイマイ)	<i>Nipponochloritis oscitans</i>	DD	—	—	—	DD	DD	
カントウビロードマイマイ	<i>Nipponochloritis pumila kantoensis</i>	—	—	DD	DD	DD	NT	
ヤセアナナシマイマイ	<i>Satsuma fausta</i>	・	・	—	VU	VU	VU	
オナジマイマイ科	Bradybaenidae							
オモイガケナマイマイ	<i>Aegista inexpectata</i>	・	・	・	CR+EN	CR+EN	CR+EN	
カドコオオベソマイマイ	<i>Aegista proba goniosoma</i>	・	・	NT	NT	NT	NT	
コケラマイマイ	<i>Aegista mikuriyensis</i>	VU	・	NT	NT	NT	NT	
トウキョウコオオベソマイマイ	<i>Aegista tokyoensis</i>	NT	—	・	・	NT	NT	
コオオベソマイマイ類の一種	<i>Aegista</i> sp.	NT	—	—	—	NT		
ミヤマヒダリマキマイマイ (タカヤマヒダリマキマイマイ)	<i>Euhadra scaevola</i>	・	・	CR+EN	VU	VU	VU	
カタマメマイマイ	<i>Lepidopisum verrucosum</i>	DD	NT	NT	NT	NT	VU	
イシガイ目	UNIONOIDA							
イシガイ科	Unionidae							
タガイ	<i>Anodonta japonica</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN		
カラスガイ	<i>Cristaria plicata</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	NT	2
ヨコハマシジラガイ	<i>Inversunio jokohamensis</i>	—	—	—	—	CR+EN	NT	
マツカサガイ	<i>Pronodularia japonensis</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	NT	
ハマグリ目	VENEROIDA							
フナガタガイ科	Trapeziidae							
ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>	EX	・	・	・	EX	NT	
シジミ科	Corbiculidae							
ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	*6	・	・	・	*6	NT	
マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	CR+EN	—	—	—	CR+EN	NT	
マメシジミ科	Pisidiidae							
マメシジミ類の一種	<i>Pisidium</i> sp.	—	—	DD	—	DD		
ハナグモリガイ科	Glauconomidae							
ハナグモリガイ	<i>Glauconome chinensis</i>	DD	・	・	・	DD	VU	

目名は、文部省・日本動物学会(編), 1988. 学術用語集 動物学編(増訂版). 丸善. に準拠した。

和名、学名、配列は、基本的に以下に準拠し、一部の種に関しては評価者の見解に従った。

環境省報道発表資料 平成19年8月3日 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II のレッドリストの見直しについて

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=8648>

【備考】

- 1: 区部において目黒区内の人家で確認されたことがあるが、移入と考えられるため、評価対象から除外した。
 2: 区部において皇居で確認されている個体群は移入と考えられているため、評価対象から除外した。

【留意種とした理由】

	和名	地域区分	留意種とした理由
*1	カワグチツボ	区部 本土部	内湾潮下帯泥底の環境を指標するため。
*2	ウミゴマツボ (エドガワミズゴマツボ)	区部 本土部	内湾泥底の指標種である。東京都の個体群は本種の模式産地である千葉県市川市とも隣接し連続した海域に生息するものである。本種には、分類学的な検討の未了な近縁種の存在も知られており、模式産地の個体群は貴重であると考えられるため。
*3	コウフオカモノアラガイ	北多摩 南多摩 本土部	河川敷という攪乱程度の大きな水辺の環境を指標するため。
*4	ナガオカモノアラガイ	北多摩 南多摩 西多摩	汚染の少ない水際の環境を指標するため。
*5	スナガイ	南多摩 本土部	草原的な環境を指標するため。ただし、国内移入の場合もあるため、今後の動態を見る必要がある。
*6	ヤマトシジミ	区部 本土部	河口汽水域の指標種であるため。ただし、移入群も多いと考えられるので、今後の動態を見る必要がある。

和名索引(植物)

和名	頁
アイアシ	37
アイアスカイノデ	24
アイズシモツケ	29
アイナエ	31
アオガヤツリ	38
アオコウガイゼキショウ	37
アオスズラン	39
アオチゴユリ	36
アオチドリ	39
アオテンツキ	39
アオナラガシワ	26
アオネカズラ	25
アオフタバラン	40
アオホオズキ	33
アオホラゴケ	23
アオミズナラ	26
アカハナワラビ	23
アカヤシオ	31
アキザキヤツシロラン	39
アギナシ	35
アキノギンリョウソウ	31
アキノハハコグサ	35
アキノヤハズアザミ	35
アケボノシユスラン	39
アケボノソウ	32
アサザ	32
アサマツゲ	30
アサマフウロ	29
アシカキ	37
アシタカジャコウソウ	33
アスカイノデ	24
アズマイチゲ	27
アズマカモメヅル	32
アズマガヤ	37
アズマギク	35
アズマザサ	37
アズマシャクナゲ	31
アズマシライトソウ	36
アズマスゲ	38
アズマツメクサ	28
アズマツリガネツツジ	31
アズマレイジンソウ	27
アゼオトギリ	28
アゼガヤ	37
アゼテンツキ	39
アツモリソウ	39
アブノメ	33
アブラギク	35
アマクサシダ	24
アマドコロ	36
アマナ	36
アヤメ	37
アリドオシラン	40
アワコガネギク	35
アワボスゲ	38
イヌマムカゴ	40
イオウソウ	31
イガホオズキ	33
イカリソウ	27
イセアオスゲ	38
イセウキヤガラ	38
イソヤマテンツキ	39
イチヤクソウ	31
イチヨウシダ	24

和名	頁
イチヨウラン	39
イッポンワラビ	25
イトイ	37
イトヌノヒゲ	37
イトトリゲモ	36
イトハナビテンツキ	38
イトモ	36
イナモリソウ	32
イヌイ	37
イヌクグ	38
イヌスギナ	23
イヌセンブリ	32
イヌタヌキモ	34
イヌノフグリ	33
イヌハギ	29
イヌブシ	26
イヌヨモギ	34
イバラモ	36
イブキシミレ	30
イラモミ	26
イワイヌワラビ	25
イワウイキョウ	31
イワウサギシダ	25
イワウメヅル	30
イワウラジロ	24
イワオウギ	29
イワオモダカ	25
イワシモツケ	29
イワツクバネウツギ	34
イワニンジン	31
イワヒメワラビ	23
イワヘゴ	24
イワヤシダ	25
イワユキノシタ	28
ウキガヤ	37
ウキヤガラ	38
ウスギオウレン	27
ウスバサイシン	28
ウスヒメワラビ	25
ウチョウラン	40
ウチワゴケ	23
ウマスゲ	38
ウマノスズクサ	28
ウメウツギ	28
ウメガサソウ	31
ウメバチソウ	28
ウメバチモ	27
ウラギク	34
ウラジロ	23
ウラジロイチゴ	29
ウラジロヒカゲツツジ	31
ウラジロマタタビ	28
ウリカワ	35
エキサイゼリ	31
エゾキイチゴ	29
エゾコスミレ	30
エゾスズラン	39
エゾノアオイスミレ	30
エゾノサヤヌカグサ	37
エゾノヒメクラマゴケ	23
エゾハタザオ	28
エゾミソハギ	30
エダウチスズメノトウガラシ	33
エドヒガン	29

和名	頁
エビガライチゴ	29
エビネ	39
エビモ	36
エビランダ	25
オウレンシダ	23
オオアカウキクサ	26
オオアカネ	32
オオアブノメ	33
オオキジノオ	23
オオキツネノカミソリ	36
オオキヨズミシダ	25
オオクジャクシダ	24
オオクボシダ	25
オオコガネネコノメ	28
オオダイコンソウ	29
オオタマガヤツリ	38
オオチゴユリ	36
オオツルウメモドキ	30
オオナンバンギセル	34
オオニガナ	35
オオヌマハリイ	38
オオバキハダ	29
オオバクサフジ	29
オオバナオオヤマサギソウ	40
オオバナキハダ	29
オオバナハチジョウシダ	24
オオバユキザサ	36
オオヒキヨモギ	33
オオヒナノウスツボ	33
オオモミジガサ	35
オオヤマカタバミ	29
オオヤマサギソウ	40
オオルリソウ	32
オカウツボ	34
オカオグルマ	35
オカタツナミソウ	33
オキナグサ	27
オクタマシダ	24
オクヤマコウモリ	35
オグルマ	35
オケラ	34
オサシダ	24
オサバグサ	28
オシャグジデンダ	25
オタルスゲ	38
オナモミ	35
オニイノデ	24
オニカナワラビ	24
オニゼンマイ	23
オニナルコスゲ	38
オニノヤガラ	39
オニバス	27
オニヒカゲワラビ	25
オノエヤナギ	26
オノオレカンバ	26
オヒルムシロ	36
オミナエシ	34
カイコバイモ	36
カイジンドウ	32
カイタカラコウ	35
ガガブタ	32
カキツバタ	37
カキラン	39
カゲロウラン	39

和名	頁
カゴノキ	27
カザグルマ	27
カセンソウ	35
カタクリ	36
カタシログサ	28
カテンソウ	26
カナウツギ	29
カナヤマイチゴ	29
カナワラビ	24
カモノハシ	37
カモメラン	40
カヤラン	40
カラクサイヌワラビ	25
カラクサシダ	24
カラフトミヤマシダ	25
カリガネソウ	32
カリマタガヤ	37
カリヨセウツギ	34
カワツルモ	36
カワミドリ	32
カワラケツメイ	29
カワラサイコ	29
カワラナデシコ	26
カワラノギク	34
カワラハハコ	34
カワラマツバ	32
カンエンガヤツリ	38
カントウイワウチワ	31
カントウミヤマカタバミ	29
カンボク	34
キキョウ	34
キクアザミ	35
キクザキイチゲ	27
キクタニギク	35
キクムグラ	32
キクモ	33
キケマン	28
キジカクシ	36
キジノシダ	23
キセルアザミ	35
キセワタ	33
キノチドリ	40
キダチノネズミガヤ	37
キツネノカミソリ	36
キハギ	29
キバナアキギリ	33
キバナウツギ	34
キバナカワラマツバ	32
キバナノアマナ	36
キバナノコマノツメ	30
キバナノショウキラン	40
キバナハタザオ	28
ギフベニシダ	24
キヨスミウツボ	34
キヨズミシダ	25
キヨスミヒメワラビ	24
キレハオオクボシダ	25
キンギョモ	27
キンセイラン	39
キンモウワラビ	25
キンラン	39
ギンラン	39
ギンリョウソウモドキ	31
キンレイカ	34

和名	頁
ギンロバイ	29
クガインウ	33
クグ	38
クサスゲ	38
クサタチバナ	32
クサネム	29
クサノオウバノギク	35
クサレダマ	31
クチナシグサ	33
クマガイソウ	39
クモノスシダ	24
クモラン	40
クリハラン	25
クルマバツクバネソウ	36
クルマムグラ	32
クルマユリ	36
クロカワズスゲ	38
クロカンバ	30
クロクモソウ	28
クロツバラ	30
クロテンツキ	39
クロハリイ	38
クロホシクサ	37
クロボシソウ	37
クロムヨウラン	39
クロモ	35
ゲンナイフウロ	29
ケマイヅルソウ	36
ケヤマウツボ	33
ゲンジスミレ	30
コアツモリソウ	39
コイケマ	32
コイチヨウラン	39
コイヌノハナヒゲ	39
コイヌノヒゲ	37
コイワウチワ	31
コイワザクラ	31
コウガイモ	35
コウシュウヒゴタイ	35
コウボウ	37
コウボウシバ	38
コウホネ	27
コウモリカズラ	27
コウヤザサ	37
コウリンカ	35
コオニユリ	36
コオノオレ	26
コガネシダ	25
コカモメヅル	32
ゴカヨウオウレン	27
コガンピ	30
ゴキヅル	30
コキンバイ	29
コ克蘭	40
コケイラン	40
コケシノブ	23
コケミズ	26
コケリンドウ	31
コゴメヤナギ	26
コジキイチゴ	29
コシダ	23
コシンジュガヤ	39
コタニワタリ	24
コツブヌマハリイ	38

和名	頁
コヌカボタデ	26
コハシゴシダ	25
コハナヤスリ	23
コバノイシカグマ	23
コバノイチヤクソウ	31
コバノイラクサ	26
コバノトンボソウ	40
コバノヒルムシロ	36
コヒロハハナヤスリ	23
コフウロ	29
ゴマキ	34
ゴマギ	34
コマツカサススキ	39
ゴマノハグサ	33
コメススキ	37
コモチシダ	24
ゴヨウツツジ	31
コンロンソウ	28
サイゴクベニシダ	24
ザイフリボク	28
サカネラン	40
サガミギク	34
サギスゲ	39
サギソウ	39
サクライカグマ	24
サクラスミレ	30
サクラソウ	31
サクラタデ	26
ササクサ	37
ササバギンラン	39
ササバモ	36
サジオモダカ	35
サジバモ	36
サジラン	25
サツキヒナノウスツボ	33
サデクサ	26
サトメシダ	25
サナギイチゴ	29
サナギスゲ	38
サラサドウダン	31
サラシナショウマ	27
ザリコミ	28
サワオグルマ	35
サワギキョウ	34
サワシロギク	34
サワトウガラシ	33
サワトラノオ	31
サワルリソウ	32
サンショウモ	25
シウリザクラ	29
シオガマガク	33
シオクグ	38
シカクイ	39
ジガバチソウ	40
シギンカラマツ	27
シコクスミレ	30
シコクハタザオ	28
シシガシラ	24
シシラン	24
シズイ	39
ジゾウカンバ	26
シソクサ	33
シタキツルウメモドキ	30
シナノキ	30

和名	頁
シノブ	24
シノブカグマ	24
シハイスミレ	30
シバヤナギ	26
シムライノデ	24
シムラニンジン	31
シヤクジイタヌキモ	34
シヤクジョウソウ	31
ジャヤナギ	26
シュスラン	39
シュロソウ	36
ジュンサイ	27
ジョウシュウカモメヅル	32
ショウドシマベンケイソウ	28
ショウブ	38
ジョウロウスゲ	38
シライヤナギ	26
シラゲヒメジソ	33
シラヒゲソウ	28
シロガヤツリ	38
シロスミレ	30
シロネ	33
シロバナイナモリソウ	32
シロバナサクラタデ	26
シロバナショウジョウバカマ	36
シロバナスミレ	30
シロモジ	27
シロヤシオ	31
シロヤマシダ	25
ジンジソウ	28
ジンバイソウ	40
スギラン	23
スズサイコ	32
スズムシソウ	40
スズメノトウガラシ	33
スズラン	39
ステゴビル	36
スプタ	35
ズミ	29
セイコノヨシ	37
セイトカシケシダ	25
セイトカトウヒレン	35
セイトカハリイ	38
セイトカヨシ	37
セキショウモ	35
セッコク	39
セトガヤ	37
センダイタイゲキ	29
ゼンテイカ	36
センニンモ	36
センブリ	32
ソバナ	34
ダイセンヒョウタンボク	34
タイミンガサモドキ	35
ダイヤモンドソウ	28
タウコギ	34
タカオシケチシダ	25
タカオヒゴタイ	35
タカオホロシ	33
タカオワニグチソウ	36
タカサゴソウ	35
タカネコウボウ	37
タカネサトメシダ	25
タカネニガナ	35

和名	頁
タカネバラ	29
タカネフタバラン	40
タカネマスキサ	38
タコノアシ	28
タタラカンガレイ	39
タチキランソウ	32
タチク라마ゴケ	23
タチゲヒカゲミズ	26
タチコウガイゼキショウ	37
タチコゴメグサ	33
タチスゲ	38
タチスミレ	30
タチヒメワラビ	25
タチフウロ	29
タチモ	30
タテヤマオウギ	29
タテヤマギク	34
タニギキョウ	34
タニジャコウソウ	32
タニヘゴ	24
タヌキラン	38
タマガワホトトギス	36
タマツリスゲ	38
タマノカンアオイ	28
タマノホシザクラ	29
タムラソウ	35
タンキリマメ	29
チシマゼキショウ	36
チダケサシ	28
チチブドウダン	31
チチブホラゴケ	23
チチブミネバリ	26
チチブヤナギ	26
チドリソウ	39
チャボイノデ	24
チュウゼンジスゲ	38
チュウジソウ	32
チュウセンキンミズヒキ	28
チュウセンゴミシ	27
チュウセンナニワズ	30
ツクバキンモンソウ	32
ツクバグミ	30
ツゲ	30
ツチアケビ	39
ツノハシバミ	26
ツリシュスラン	39
ツリフネソウ	30
ツルアリドオシ	32
ツルカコソウ	32
ツルガシワ	32
ツルカノコソウ	34
ツルギキョウ	34
ツルリンドウ	32
ツレサギソウ	40
テガタチドリ	39
テガヌマイ	39
テバコワラビ	25
デンジソウ	25
トウゲシバ	23
トウゴクサバノオ	27
トウゴクシソバタツナミソウ	33
トウゴクシダ	24
トウゴクヘラオモダカ	35
トウヒ	26

和名	頁
トキシウ	40
トキホコリ	26
トキワシダ	24
トキワトラノオ	24
ドクウツギ	30
ドクゼリ	31
トサノモミジガサ	35
トダスゲ	38
トチカガミ	35
トモエシオガマ	33
トモエソウ	28
トヨグチイノデ	24
トラノオジソ	33
トリガタハンショウヅル	27
トリゲモ	36
トンボソウ	40
ナガエミクリ	38
ナガハシスミレ	30
ナガバノイタチシダ	24
ナガバノウナギツカミ	26
ナガバノコウヤボウキ	35
ナガバノヤノネグサ	26
ナガボテンツキ	39
ナカミシシラン	24
ナガミノツルケマン	28
ナツノハナワラビ	23
ナデシコ	26
ナベナ	34
ナラガシワ	26
ナンゴクナライシダ	24
ナンバンハコバ	26
ニガカシュウ	36
ニシキシウ	29
ニシキピロードウツギ	34
ニッコウナツグミ	30
ニッコウヒョウタンボク	34
ニッポンイヌノヒゲ	37
ニリンソウ	27
ヌカボシソウ	37
ヌカボタデ	26
ヌマアゼスゲ	38
ヌマガヤ	37
ヌマゼリ	31
ヌマハリイ	38
ヌメリグサ	37
ネコノメソウ	28
ネコヤナギ	26
ネズ	26
ネズミサシ	26
ノアズキ	29
ノウルシ	29
ノカラマツ	27
ノキギリソウ	34
ノジトラノオ	31
ノダケモドキ	31
ノテンツキ	39
ノハナショウブ	37
ノアソブ	34
バイカオウレン	27
バイカモ	27
ハイチゴザサ	37
ハイホラゴケ	23
ハクウンラン	40
ハグロソウ	33

和名	頁
ハコネギク	34
ハコネラン	39
ハゴロモソウ	34
ハシゴシダ	25
ハタガヤ	38
ハタザオ	28
ハタベカンガレイ	39
ハチジョウナ	35
ハナイカリ	31
ハナビガヤ	37
ハナビゼキショウ	37
ハナビゼリ	31
ハナヒリノキ	31
ハナムグラ	32
ハネガヤ	37
ハマウツボ	34
ハヤザキヒョウタンボク	34
バラモミ	26
ハリガネスゲ	38
ハリガネワラビ	25
ハリコウガイゼキショウ	37
ハリモミ	26
ハルリンドウ	31
ハンカイシオガマ	33
ハンゲショウ	28
ハンノキ	26
ヒイラギソウ	32
ヒエスゲ	38
ヒオウギ	37
ヒカゲスミレ	30
ヒカゲツツジ	31
ヒカゲノカズラ	23
ヒカゲヒメジソ	33
ヒカゲワラビ	25
ヒキオコシ	33
ヒキノカサ	27
ヒゲシバ	37
ヒゲネワチガイソウ	27
ヒゴスミレ	30
ヒシ	30
ヒシモドキ	33
ヒツジグサ	27
ヒトツバ	25
ヒトツボクロ	40
ヒナザサ	37
ヒナノキンチャク	29
ヒナワチガイソウ	27
ヒメアブラススキ	37
ヒメアマナ	36
ヒメイタチシダ	24
ヒメイワカガミ	31
ヒメイトラノオ	24
ヒメウラジロ	24
ヒメカナワラビ	25
ヒメガヤツリ	38
ヒメクズ	29
ヒメコウホネ	27
ヒメコヌカグサ	37
ヒメザゼンソウ	38
ヒメシオン	34
ヒメシャガ	37
ヒメシラスゲ	38
ヒメスギラン	23
ヒメスミレサイシン	30

和名	頁
ヒメタデ	26
ヒメタヌキモ	34
ヒメツルニンジン	34
ヒメテキリスゲ	38
ヒメトラノオ	33
ヒメナミキ	33
ヒメニラ	36
ヒメノヤガラ	39
ヒメハイホラゴケ	23
ヒメハギ	29
ヒメハッカ	33
ヒメヒカゲスゲ	38
ヒメヒゴタイ	35
ヒメビル	36
ヒメフタバラン	40
ヒメホタルイ	39
ヒメマイヅルソウ	36
ヒメミクリ	38
ヒメミヤマウズラ	39
ヒモカズラ	23
ヒラテンツキ	39
ヒルムシロ	36
ビロードラン	39
ヒロハイヌノヒゲ	37
ヒロハスズメノウガラシ	33
ヒロハツリシュスラン	39
ヒロハヌマゼリ	31
ヒロハノアマナ	36
ヒロハノカワラサイコ	29
ヒロハノコウガイゼキショウ	37
ヒロハノハネガヤ	37
ヒロハハナヤスリ	23
ヒロハヘビノボラズ	27
ヒンジモ	38
フウラン	40
フクシマシャジン	34
フクジュソウ	27
ブコウマメザクラ	29
フサガヤ	37
フサモ	30
フジアザミ	35
フシグロセンノウ	27
フジシダ	23
フジセンニンソウ	27
フジバカマ	35
フジレイジンソウ	27
フタバムグラ	32
フナバラソウ	32
フモトカグマ	23
フモトシケシダ	25
ベニカヤラン	40
ベニシュスラン	39
ベニドウダン	31
ベニバナイチヤクソウ	31
ベニバナヤマシャクヤク	28
ヘラオモダカ	35
ヘラシダ	25
ホザキイチヨウラン	40
ホシクサ	37
ホシザクラ	29
ホソイ	37
ホソイノデ	24
ホソバイヌタデ	26
ホソバイヌワラビ	25

和名	頁
ホソバオグルマ	35
ホソバカナワラビ	24
ホソバトウゲシバ	23
ホソバナライシダ	24
ホソバノコウガイゼキショウ	37
ホソバナタカネニガナ	35
ホソバノツルリンドウ	31
ホソバノヨツバムグラ	32
ホソバヒカゲスゲ	38
ホソバミスヒキモ	36
ホタルカズラ	32
ホタルサイコ	31
ホテイシダ	25
ホテイラン	39
ホドイモ	29
ホトギス	36
ホラシノブ	23
ホンモンジスゲ	38
マアザミ	35
マイヅルテンナンショウ	38
マキエハギ	29
マキノスミレ	30
マコモ	37
マツカサススキ	39
マツグミ	26
マツザカシダ	24
マツノハマネンゲサ	28
マツバスゲ	38
マツハダ	26
マツバナデシコ	29
マツバニンジン	29
マツバラシ	23
マツムシソウ	34
マツモ	27
マツラン	40
マメダオシ	32
マメヅタ	25
マメヅタラン	39
マルバオモダカ	35
マルバサンキライ	36
マルバベニシダ	24
マルミノウルシ	29
マンネンスギ	23
ミクリ	38
ミシマサイコ	31
ミズ	26
ミズアオイ	36
ミズオオバコ	35
ミズオトギリ	28
ミズキンバイ	30
ミズタカモジ	37
ミズタガラシ	28
ミズチドリ	40
ミズトラノオ	31
ミズトラノオ	33
ミズトンボ	39
ミズニラ	23
ミズネコノオ	33
ミズネコノメソウ	28
ミズハコベ	32
ミズハナビ	38
ミズマツバ	30
ミスミソウ	27
ミズユキノシタ	30

和名	頁
ミズワラビ	24
ミノコウジュ	33
ミノハコベ	30
ミチシバ	37
ミツガシワ	32
ミドリアカザ	27
ミドリカナワラビ	24
ミドリワラビ	25
ミノゴメ	37
ミノボロ	37
ミノボロスゲ	38
ミミカキグサ	34
ミヤコアザミ	35
ミヤコイヌワラビ	25
ミヤコヤブソテツ	24
ミヤマウイキョウ	31
ミヤマウド	31
ミヤマウラジロ	24
ミヤマウラボシ	25
ミヤマクマヤナギ	30
ミヤマクマワラビ	24
ミヤマコンギク	34
ミヤマシグレ	34
ミヤマシケシダ	25
ミヤマスミレ	30
ミヤマツチトリモチ	26
ミヤマニガウリ	30
ミヤマハンショウヅル	27
ミヤマビヤクシン	26
ミヤマモジズリ	39
ミウギカラマツ	27
ミウギシダ	25
ミウギシャジン	34
ムカゴサイシン	40
ムカゴソウ	39
ムカゴツツリ	37
ムカゴニンジン	31
ムギラン	39
ムサシノキスゲ	36
ムジナモ	28
ムツオレグサ	37
ムヨウラン	39
ムラサキ	32
ムラサキセンブリ	32
ムラサキフタバラン	40
ムラサキミズトランオ	33
ムラサキミミカキグサ	34
ムロ	26
メアゼテンツキ	39
メヤブソテツ	24
モウセンゴケ	28
モクレイシ	30
モミラン	40
モメンヅル	29
モリアザミ	35
ヤエガワカンバ	26
ヤガミスゲ	38
ヤシャゼンマイ	23
ヤシャビシヤク	28
ヤチカワズスゲ	38
ヤツシロヒトツバ	25
ヤナギイノコズチ	27
ヤナギスブタ	35
ヤナギタンポポ	35

和名	頁
ヤナギトランオ	31
ヤナギヌカボ	26
ヤナギモ	36
ヤナギラン	30
ヤハズハハコ	34
ヤハズヒゴタイ	35
ヤブアザミ	35
ヤブザクラ	28
ヤブサンザシ	28
ヤブムグラ	32
ヤマアゼスゲ	38
ヤマウツボ	33
ヤマオダマキ	27
ヤマクラマゴケ	23
ヤマサギソウ	40
ヤマジオウ	33
ヤマジソ	33
ヤマジノタツナミソウ	33
ヤマジノホトトギス	36
ヤマシャクヤク	28
ヤマタイムンガサ	35
ヤマトキソウ	40
ヤマトミクリ	38
ヤマトユキザサ	36
ヤマドリゼンマイ	23
ヤマネコノメソウ	28
ヤマハハコ	34
ヤマヒメワラビ	25
ヤマブキソウ	28
ヤマホオズキ	33
ヤマホロシ	33
ヤマラッキョウ	36
ヤマルリソウ	32
ヤワタソウ	28
ユウシュンラン	39
ユキミソウ	33
ヨウラクラン	40
ヨコグラノキ	30
ヨツバハギ	29
ラショウモンカズラ	33
ランヨウアオイ	28
リンボク	29
ルイヨウショウマ	27
ルイヨウボタン	27
ルリソウ	32
レモンエゴマ	33
レンゲショウマ	27
レンゲツツジ	31
レンブクソウ	34
レンリソウ	29
ワカナシダ	24
ワダソウ	27
ワチガイソウ	27
ワニグチソウ	36

和名索引(動物)

和名	頁
アイノドリシジミ	92
アオアシシギ	48
アオイトトンボ	65
アオカミキリ	83
アオキクスイカミキリ	83
アオゲラ	49
アオサナエ	65
アオシギ	48
アオスジカミキリ	82
アオダイショウ	54
アオバズク	49
アオハダトンボ	65
アオバト	47
アオフキバツタ	70
アオヘリホソゴミムシ	81
アオヘリミズギワゴミムシ	80
アオヤンマ	65
アカアシオオアオカミキリ	83
アカアシシギ	48
アカエゾゼミ	73
アカエリカイツブリ	47
アカエリヒレアシシギ	49
アカオビケラトリ	86
アカガネアオゴミムシ	81
アカゲラ	49
アカシジミ	92
アカショウビン	49
アカセセリ	93
アカネズミ	44
アカハナカミキリ	82
アカハネバツタ	70
アカハライモリ	57
アカヒレタビラ	60
アカマダラコガネ	82
アカマダラハナムグリ	82
アカモズ	49
アケボノユウレイグモ	102
アサカミキリ	83
アサマイチモンジ	92
アサマシジミ	92
アシグロツユムシ	70
アシシロハゼ	61
アシナガカニグモ	102
アシハラガニ	99
アシミゾヒメヒラタゴミムシ	80
アズマヒキガエル	57
アズマモグラ	43
アトグロジュウジアトキリゴミムシ	81
アトモンコミズギワゴミムシ	80
アナグマ	43
アブラハヤ	60
アベハゼ	61
アマツバメ	48
アメリカヒドリ	47
アヤスジミゾドROMシ	82
アワセグモ	102
イカル	50
イカルチドリ	48
イグチケブカゴミムシ	80
イシカワシラウオ	60
イスカ	50
イソシギ	48
イソヒヨドリ	50

和名	頁
イタチ	43
イタヤカミキリ	83
イチモンジチョウ	92
イナゴモドキ	70
イノシシ	43
イボウミニナ	105
イボタガ	96
イワヒバリ	50
ウグイス	50
ウサギコウモリ	43
ウスイロオナガシジミ	92
ウスイロシマゲンゴロウ	81
ウスタビガ	96
ウスバアゲハ	92
ウスバカマキリ	69
ウスバカミキリ	82
ウズラ	47
ウズラシギ	48
ウスルリモンハナバチ	86
ウソ	50
ウチワヤンマ	65
ウナギ	60
ウネナシトマヤガイ	106
ウバタマコメツキ	82
ウバタマムシ	82
ウマノオバチ	86
ウミアイサ	47
ウミゴマツボ	105
ウミニナ	105
ウミベアカバハネカクシ	81
ウメムラシタラガイ	106
ウラギンスジヒョウモン	92
ウラギンヒョウモン	92
ウラゴマダラシジミ	92
ウラナミアカシジミ	92
ウラムシシジミ	92
エサキアメンボ	73
エゾエンマコオロギ	70
エゾスズ	70
エゾトンボ	66
エゾムシクイ	50
エドガワミスゴマツボ	105
エドハゼ	61
エナガ	50
エリザハンミョウ	80
エリマキシギ	48
オオアオゾウムシ	83
オオアオホソゴミムシ	81
オオアカゲラ	49
オオアメンボ	73
オオイクビツヤゴモクムシ	80
オオイシアブ	89
オオイチモンジシマゲンゴロウ	81
オオイトトンボ	65
オオウエキビ	106
オオウラギンスジヒョウモン	92
オオウラギンヒョウモン	92
オオカミ	43
オオギセル	105
オオキトンボ	66
オオクロツヤゴモクムシ	80
オオクワガタ	81
オオコオイムシ	73
オオコノハズク	49

和名	頁
オオジシギ	48
オオジュリン	51
オオセスジイトンボ	65
オオセッカ	50
オオソリハシシギ	48
オオタカ	49
オオタニシ	105
オオツノハネカクシ	81
オオトノサマガセル	106
オオナガゴミムシ	80
オオナガハナアブ	89
オオハシシギ	48
オオバン	47
オオヒラタツクリゴミムシ	81
オオマシコ	50
オオマルクビヒラタカミキリ	82
オオミズアオ	96
オオミスジ	92
オオミズスマシ	81
オオミドリシジミ	92
オオムラサキ	92
オオモノサシトンボ	65
オオヨシキリ	50
オオヨシゴイ	47
オオヨツスジハナカミキリ	82
オオヨツボシゴミムシ	80
オオルリ	50
オオルリハムシ	83
オオルリボシヤンマ	65
オクガタギセル	106
オグロシギ	48
オコジョ	43
オサシデムシモドキ	81
オサムシモドキ	80
オシドリ	47
オジロウネン	48
オダヒゲナガコバネカミキリ	82
オツネトンボ	65
オナガアゲハ	92
オナガサナエ	65
オニグルミノキモンカミキリ	83
オニホソコバネカミキリ	82
オニヤンマ	65
オバシギ	48
オビボソカニグモ	102
オモイガケナマイマイ	106
カイツブリ	47
カエルキンバエ	89
カクベンケイガニ	99
カサネシタラガイ	106
カジカ(カジカ大卵型;河川陸封型)	60
カジカガエル	57
カタアカアトキリゴミムシ	81
カタキハナカミキリ	82
カタマメマイマイ	106
カッコウ	48
カッコウカミキリ	83
カトウツケオグモ	102
カドコオオベソマイマイ	106
カトリヤンマ	65
カナコキグモ	102
カネコトタテグモ	102
カバシタムクゲエダシヤク	96
カマツカ	60

和名	頁
ガムシ	81
カモシカ	43
カヤキリ	70
カヤクグリ	50
カヤコオロギ	70
カヤネズミ	43
カラスガイ	106
カラスシジミ	92
カワアイ	105
カワウソ	43
カワガラス	50
カワグチツボ	105
カワセミ	49
カワネジガイ	105
カワネズミ	43
カワラゴミムシ	80
カワラスズ	70
カワラバッタ	70
カワラハンミョウ	80
カントウビロードマイマイ	106
カントウベッコウ	106
カンムリカイツブリ	47
キアシシギ	48
キアシツヤヒラタゴミムシ	80
キアシハナダカバチモドキ	86
キアシマルガタゴミムシ	80
キアシルリミズギワゴミムシ	80
キイトンボ	65
キイロアトキリゴミムシ	81
キイロサナエ	65
キイロトラカミキリ	83
キイロホソゴミムシ	81
キイロミヤマカミキリ	82
キイロヤマトンボ	66
キオビクモバチ	86
キオビベッコウ	86
キクイタダキ	50
キクガシラコウモリ	43
キクスイモドキカミキリ	83
キジ	47
キシノウエタテグモ	102
キジロオヒキグモ	102
キスジクモバチ	86
キスジトラカミキリ	83
キスジベッコウ	86
キツネ	43
キトンボ	66
キヌツヤベッコウ	106
キノボリタテグモ	102
キバサナギガイ	105
キバシリ	50
ギバチ	60
キバネキバナガミズギワゴミムシ	80
キバネセセリ	92
キバネツノトンボ	77
ギフチョウ	92
キベリクロヒメゲンゴロウ	81
キベリマルクビゴミムシ	80
キボシトックリバチ	86
キマダラヤマカミキリ	82
キュウシュウツヤゴモクムシ	80
キョウジョシギ	48
キリアイ	48
キンヒバリ	70

和名	頁
キンブナ	60
キンボシハネカクシ	81
クイナ	47
クサガメ	54
クサシギ	48
クシヒゲハネカクシ	81
クスサン	96
クスベニカミキリ	82
クツワムシ	70
クビナガヨツボシゴミムシ	80
クマコオロギ	70
クマスズムシ	70
クマタカ	49
クモガタヒョウモン	92
クラサワメクラチビゴミムシ	80
クルマバッタ	70
クロカナブン	82
クロガネハネカクシ	81
クロカミキリ	82
クロガモ	47
クロゲンゴロウ	81
クロジ	51
クロシジミ	92
クロスジヘビトンボ	76
クロセンプリ	76
クロタマムシ	82
クロツグミ	50
クロツラヘラサギ	47
クロトラカミキリ	83
クロナガオサムシ	80
クロヒゲオレハネカクシ	81
クロベッコウハナアブ	89
クロヘナタリ	105
クロベンケイガニ	99
クロマルハナバチ	86
ゲンバイトンボ	65
ケシガイ	105
ケブカヒラタカミキリ	82
ケフサイソガニ	99
ケリ	48
ゲンゴロウ	81
ゲンジボタル	82
コアオアシシギ	48
コアジサシ	49
コアシダカグモ	102
コアトワアオゴミムシ	81
ゴイシシジミ	92
コウフオカモノアラガイ	105
コオイムシ	73
コオオベツマイマイ類の一種	106
コオニヤンマ	65
コオバシギ	48
コガタノゲンゴロウ	81
コガネグモ	102
コカブトムシ	82
コガムシ	81
コキクガシラコウモリ	43
コキマダラセセリ	93
コクロツヤヒラタゴミムシ	80
コケオニグモ	102
コケラマイマイ	106
コサギ	47
コサナエ	65
コサメビタキ	50

和名	頁
コシアカツバメ	50
コシボソヤンマ	65
コジャノメ	92
ゴジュウカラ	50
コジュリン	50
コチドリ	48
コチョウゲンボウ	49
コツバメ	92
コテングコウモリ	43
コノハズク	49
コバネアオイトトンボ	65
コバネカミキリ	82
コハンミョウ	80
コバンムシ	73
ゴマジロオニグモ	102
コマツエンマグモ	102
コマドリ	50
コミズスマシ	81
コミズク	49
コムラサキ	92
コメツキガニ	99
コヤマトンボ	66
コヨシキリ	50
コルリ	50
コロギス	70
サクラマス(降海型)	60
ササゴイ	47
サシバ	49
サドヤマトガイ	105
サビカミキリ	82
サメビタキ	50
サラサヤンマ	65
サルハマシギ	48
サワガニ	99
サンカノゴイ	47
サンコウチョウ	49
サンショウクイ	49
サンロウドヨウグモ	102
シオヤトンボ	66
シナイモツゴ	60
シノビグモ	102
シブイロカヤキリ	70
シブイロカヤキリモドキ	70
シマアジ	47
シマアメンボ	73
シマゲンゴロウ	81
シマドジョウ	60
シマヘビ	54
ジムグリ	54
シャープゲンゴロウモドキ	81
ジャノメチョウ	92
ジュウイチ	47
ジュズカケハゼ	61
シュレーゲルアオガエル	57
ジョウザンミドリシジミ	92
ショウジョウクロバエ	89
ショウリョウバッタモドキ	70
シラオビゴマフケシカミキリ	83
シラオビシデムシモドキ	81
シラコバト	47
シラタエビ	99
シラホシハナムグリ	82
シルビアシジミ	92
シロウオ	60

和名	頁
シロオビゴマフカミキリ	83
シロオビトラカミキリ	83
シロスジカミキリ	83
シロチドリ	48
シロマダラ	54
シントウトガリネズミ	43
スカシベッコウ	106
スギカミキリ	83
スギノアカネトラカミキリ	83
スゲハムシ	83
スジエビ	99
スジクワガタ	81
スジハゼ	61
スズガモ	47
スズキコモリグモ	102
スナガイ	105
スナヤツメ	60
セアカオサムシ	80
セイトカシギ	48
セグロイナゴ	70
セグロセキレイ	50
セグロバツタ	70
セスジイトトンボ	65
ゼニタナゴ	60
センダイムシクイ	50
センノカミキリ	83
ソリハシシギ	48
タイコウチ	73
ダイサギ	47
ダイシャクシギ	48
ダイゼン	48
タイワンメダカカミキリ	82
タガイ	106
タカキビ	106
タカチホヘビ	54
タカネトンボ	66
タカブシギ	48
タガメ	73
タカヤマヒダリマキマイマイ	106
タケウチエダシヤク	96
タケトラカミキリ	83
タゲリ	48
タゴガエル	57
タシギ	48
タナカツヤハネゴミムシ	80
タナゴ	60
ダビドサナエ	65
タマガワナガドロムシ	82
タマシギ	49
タマムシ	82
タンボコオロギ	70
チゴガニ	99
チゴハヤブサ	49
チゴモズ	49
チチブ	61
チッチゼミ	73
チャイロオオイシアブ	89
チャイロヒゲヒロウドカミキリ	83
チャバネクビナガゴミムシ	81
チャムネハラホソハネカクシ	81
チュウサギ	47
チュウジシギ	48
チュウシヤクシギ	48
チュウヒ	49

和名	頁
チョウゲンボウ	49
チョウセンゴモクムシ	80
チョウトンボ	66
ツキノワグマ	43
ツシマトリノフンダマシ	102
ツチガエル	57
ツツドリ	48
ツボミガイ	105
ツマグロイナゴモドキ	70
ツマグロキチョウ	92
ツマグロバツタ	70
ツマグロハナカミキリ	82
ツミ	49
ツメギセル	106
ツヤケシハナカミキリ	82
ツヤスジコガネ	82
ツヤネクイハムシ	83
ツヤヒメヒョウタンゴミムシ	80
ツヤマルガタゴミムシ	80
ツルシギ	48
テナガエビ	99
テン	43
テングコウモリ	43
トウカイビロードマイマイ	106
トウキョウコオオベソマイマイ	106
トウキョウサンショウウオ	57
トウキョウダルマガエル	57
トウキョウトラカミキリ	83
トウキョウヒラマキ	105
トウキョウホラヒメグモ	102
ドウシグモ	102
トウネン	48
トガリバアカネトラカミキリ	83
トゲアシゴモクムシ	80
トゲグモ	102
トクリゴミムシ	81
トビ	49
トビハゼ	60
トモエガモ	47
トラツグミ	50
トラハナムグリ	82
トラフカミキリ	83
トラフズク	49
トラフトンボ	66
ドロノキハムシ	83
トワダオオカ	89
ナガイツツグモ	103
ナガオカモノアラガイ	105
ナカグロキバネクビナガゴミムシ	81
ナガチビヒョウタンゴミムシ	80
ナカバヤシモモブトカミキリ	83
ナガレタゴガエル	57
ナゴヤサナエ	65
ナタネキバサナギガイ	105
ナマズ	60
ナミゲンゴロウ	81
ニゴイ	60
ニシキオニグモ	102
ニシキサラグモ	102
ニセトクリゴミムシ	81
ニッコウイワナ	60
ニッパラキビ	106
ニッパラマシラグモ	102
ニッポンヨツボシゴミムシ	80

和名	頁
ニホンアカガエル	57
ニホンアマガエル	57
ニホンイシガメ	54
ニホンカナヘビ	54
ニホンカワトンボ	65
ニホンザル	43
ニホンジネズミ	43
ニホンスッポン	54
ニホントカゲ	54
ニホンノウサギ	44
ニホンマムシ	54
ニホンモモンガ	43
ニホイヤモリ	54
ニホンリス	43
ニワハンミョウ	80
ヌカエビ	99
ヌマチチブ	61
ネアカヨシヤンマ	65
ネグロセンプリ	76
ネジロカミキリ	83
ノギリカミキリ	82
ノギリクワガタ	81
ノジコ	50
ノスリ	49
ハイイロチュウヒ	49
ハイイロヒレアシシギ	49
ハイイロヤハズカミキリ	83
ハイタカ	49
ハギマシコ	50
ハクサンベッコウ	106
ハグロトンボ	65
ハコネサンショウウオ	57
ハコネヒメベッコウ	106
ハタネズミ	43
ハチクマ	49
ハチモドキハナアブ	89
ハッカハムシ	83
ハッチョウトンボ	66
ハナグモリガイ	106
ハナムグリ	82
ハネナシアメンボ	73
ハネナシコロギス	70
ハネビロエゾトンボ	66
ババアメンボ	73
ハブタエヒラマキ	105
ハマシギ	48
ハマダラハルカ	89
ハマベニクバエ	89
ハヤシミドリシジミ	92
ハヤブサ	49
バラヒラタハバチ	86
ハラビロトンボ	66
ハルゼミ	73
バン	47
ハンノキカミキリ	83
ハンノヒメコガネ	82
ヒオドシチョウ	92
ヒクイナ	47
ヒグラシ	73
ヒゲコガネ	82
ヒゲシロスズ	70
ヒゲナガカミキリ	83
ヒゲナガゴマフカミキリ	83
ヒゲナガモモトカミキリ	83

和名	頁
ヒゲブトハナムグリ	82
ヒコサンツヤゴモクムシ	80
ヒシクイ	47
ヒゼンキビ	106
ヒダサンショウウオ	57
ヒダリマキモノアラガイ	105
ヒナカマキリ	69
ヒナコウモリ	43
ヒナルリハナカミキリ	82
ヒヌマイトンボ	65
ヒバカリ	54
ヒバリ	50
ヒバリシギ	48
ヒミズ	43
ヒメアカネ	66
ヒメアマツバメ	48
ヒメカサキビ	106
ヒメカマキリ	69
ヒメガムシ	81
ヒメキマダラセセリ	93
ヒメキマダラヒカゲ	92
ヒメクワガタ	80
ヒメコオロギ	70
ヒメサナエ	65
ヒメシジミ	92
ヒメシロチョウ	92
ヒメトラハナムグリ	82
ヒメネズミ	44
ヒメハゼ	61
ヒメハリマキビ	106
ヒメハルゼミ	73
ヒメヒゲナガカミキリ	83
ヒメヒミズ	43
ヒメビロウドカミキリ	83
ヒメマイマイカブリ	80
ヒメミズカマキリ	73
ヒメミズスマシ	81
ヒョウゴマルガタゴミムシ	80
ヒラタクワガタ	81
ヒラタマルゴミムシ	80
ヒラベッコウ	106
ヒラマキガイモドキ	105
ヒラマキミズマイマイ	105
ビリンゴ	61
ビロードキンクロ	47
ビロードマイマイ	106
ヒロクチコギセル	106
ヒロゴモクムシ	80
ヒロバネカンタン	70
フクロウ	49
フジジガバチ	86
フタオビアラゲカミキリ	83
フタコブルリハナカミキリ	82
フタモンクビナガゴミムシ	81
フタモンマルクビゴミムシ	80
フツボウソウ	49
ブドウトラカミキリ	83
フトヘナタリ	105
ブリットンツヤヒラタゴミムシ	80
フルカワフトハキリバチ	86
ヘイケボタル	82
ベッコウトンボ	66
ヘナタリ	105
ベニイトンボ	65

和名	頁
ベニバナハナカミキリ	82
ベニマシコ	50
ヘラシギ	48
ヘリグロツユムシ	70
ヘリグロリンゴカミキリ	83
ベンケイガニ	99
ボウズハゼ	60
ホウロクシギ	48
ホオジロガモ	47
ホシガラス	50
ホシチャバネセセリ	93
ホシミスジ	92
ホソカミキリ	82
ホソチビゴモクムシ	80
ホソチビヒョウタンゴミムシ	80
ホソトラカミキリ	83
ホソネクイハムシ	83
ホソバセセリ	93
ホソハンミョウ	80
ホソミオツネトンボ	65
ホタルカミキリ	83
ホッケミズムシ	73
ホトケドジョウ	60
ホトギス	47
ホンサナエ	65
ホンドニセハイイロハナカミキリ	82
マイコアカネ	66
マエアカヒトリ	96
マエカドコエンマコガネ	81
マガン	47
マサゴハゼ	61
マサトヨキビ	106
マシジミ	106
マスタクロホシタマムシ	82
マダラヤンマ	65
マツカサガイ	106
マツムシ	70
マミジロ	50
マメイタイセキグモ	102
マメガムシ	81
マメシジミ類の一種	106
マメタニシ	105
マルガタゲンゴロウ	81
マルクビケマダラカミキリ	82
マルタ	60
マルタニシ	105
ミイデラゴミムシ	81
ミカドガガンボ	89
ミコアイサ	47
ミサゴ	49
ミズイロオナガシジミ	92
ミズカマキリ	73
ミズゴマツボ	105
ミズコハクガイ	105
ミスジチョウ	92
ミズスマシ	81
ミズラモグラ	43
ミゾゴイ	47
ミソサザイ	50
ミドリカミキリ	83
ミドリシジミ	92
ミドリバエ	89
ミミズハゼ	60
ミヤケミズムシ	73

和名	頁
ミヤコタナゴ	60
ミヤコドリ	48
ミヤマアカネ	66
ミヤマカミキリ	82
ミヤマカラスアゲハ	92
ミヤマクワガタ	81
ミヤマシジミ	92
ミヤマセセリ	92
ミヤマヒダリマキマイマイ	106
ミュビシギ	48
ミルンヤンマ	65
ムカシヤンマ	65
ムササビ	43
ムサシミタナグモ	102
ムサシトゲセイボウ	86
ムサシトミヨ	60
ムシヤドリカワザンショウ	105
ムスジイトンボ	65
ムツゲイセキグモ	102
ムツボシクモバチ	86
ムツボシベッコウ	86
ムツモンコムズギワゴミムシ	80
ムナグロ	48
ムナビロアオゴミムシ	81
ムネアカクロハナカミキリ	82
ムネミヅチビゴモクムシ	80
ムモンアカシジミ	92
メガネサナエ	65
メスグロヒョウモン	92
メダイチドリ	48
メダカ	60
メナダ	60
メボソムシクイ	50
モートンイトンボ	65
モクズガニ	99
モズ	49
モノアラガイ	105
モノサシトンボ	65
モモジロコウモリ	43
モリアオガエル	57
モリアブラコウモリ	43
ヤイロチョウ	49
ヤグラキセル	106
ヤスマツヒメハナバチ	86
ヤセアナナシマイマイ	106
ヤチスズ	70
ヤチネズミ	43
ヤツメカミキリ	83
ヤナギハムシ	83
ヤブサメ	50
ヤマアカガエル	57
ヤマカガシ	54
ヤマガラ	50
ヤマキサゴ	105
ヤマコウモリ	43
ヤマサナエ	65
ヤマシギ	48
ヤマセミ	49
ヤマトアシナガバチ	86
ヤマトオサガニ	99
ヤマトクロスジヘビトンボ	76
ヤマトケシマグソコガネ	81
ヤマトシジミ	106
ヤマトセンブリ	76

和名	頁
ヤマトタマムシ	82
ヤマトトックリゴミムシ	81
ヤマトホソガムシ	81
ヤマトマシラグモ	102
ヤマトヤギヌマグモ	102
ヤマドリ	47
ヤマネ	44
ヤマメ(陸封型)	60
ヤリタナゴ	60
ユビナガスジエビ	99
ヨコハマシジラガイ	106
ヨコフカニグモ	102
ヨシガモ	47
ヨシゴイ	47
ヨシダカワザンショウ	105
ヨタカ	48
ヨツスジハナカミキリ	82
ヨツボシカミキリ	82
ヨツボシゴミムシ	80
ヨツボシトンボ	66
ヨツボシヒラタカミキリ	83
リスアカネ	66
ルイスオオゴミムシ	80
ルリボシヤンマ	65
ワスレナグモ	102

**2010 Red List of Threatened Species in Tokyo:
23-ward and Tama area version**

Edited and published March 2010 by:
Natural Environment Division, Bureau of Environment
Tokyo Metropolitan Government
2-8-1 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-8001 Japan

Compilation commissioned to:
Japan Wildlife Research Center
3-10-10 Shitaya, Taito-ku, Tokyo 110-8676 Japan

平成 22 年 3 月発行
環境資料第 20083 号
平成 25 年 5 月 一部修正

平成 20 年度
登録番号 166

**東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）
～東京都レッドリスト～ 2010 年版**

編集・発行 東京都環境局自然環境部
〒163-8001 新宿区西新宿 2-8-1
電話 03-5388-3548
業務受託 財団法人自然環境研究センター
〒110-8676 台東区下谷 3-10-10
電話 03-5824-0960